シニア入試担当教員科目の
2021 年度シラバス（参考）

明治大学大学院商学研究科

科目ナンバー：(CO) ECN512J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済理論特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		千田　亮吉

授業の概要・到達目標

本講では，経済理論に基づく実証的な経済分析のために必要な基礎的な知識を解説する。まず，経済理論と統計的手法等について解説した後に，いくつかの具体的なテーマについて分析手法を適用する。テーマについては修士論文の作成を見据えて履修者の研究テーマに沿ったものを選択していきたい。

現実の経済問題を分析する上で必要な知識を履修者が身につけること，具体的には経済理論で用いられるさまざまな関数の特定化方法，パラメターを推定するための計量経済学の手法，データの収集方法などを習得することを目標とする。

授業内容

第1回　実証的経済分析に関するガイダンス
第2回　研究テーマの紹介
第3回　研究テーマの検討
第4回　研究テーマに関わる文献の紹介
第5回　実証的経済分析に関する基本文献の講読（1）：経済モデル
第6回　実証的経済分析に関する基本文献の講読（2）：モデルとデータの対応
第7回　実証的経済分析に関する基本文献の講読（3）：最小2乗法
第8回　実証的経済分析に関する基本文献の講読（4）：回帰分析
第9回　実証的経済分析に関する基本文献の講読（5）：重回帰分析
第10回　計量経済分析に関する基本文献の講読（1）：不均一分散
第11回　計量経済分析に関する基本文献の講読（2）：系列相関
第12回　計量経済分析に関する基本文献の講読（3）：操作変数法
第13回　計量経済分析に関する基本文献の講読（4）：GMM
第14回　問題点の確認とテーマの絞り込み

履修上の注意

授業内容は講義と実習が中心であるが，学期末には履修者が選んだテーマについての文献レビューをレポートとしてを提出してもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

使用教材の該当部分を予め読んでおくこと。また，発表の予定があるときにはその準備等を行うこと。復習としては，授業中に示された実習課題に取り組むこと，および発表で指摘された点を検討すること。

教科書

J. M. Wooldridge, Introductory Econometrics, Thomson, 2006.

参考書

『実証分析のための計量経済学』山本勲（中央経済社）2015年

成績評価の方法

レポート（50%），授業への貢献度（50%）

その他

特になし

科目ナンバー：(CO) ECN512J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済理論特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		千田　亮吉

授業の概要・到達目標

本講では，演習ＩAに続いて経済理論に基づく実証的な経済分析のために必要な基礎的な知識を解説する。特に，演習ＩAで選択した具体的なテーマに関する分析手法について検討する。2年次での修士論文の作成を見据えて，履修者にはアプリケーションソフトの使用方法など，実証的な経済分析のための実践的な知識も習得してもらいたい。

現実の経済問題を分析する上で必要な知識，特に，パラメターを推定するための計量経済学の手法，データの収集方法などを習得することを目標とする。

授業内容

第1回　研究テーマに関する基本文献の紹介
第2回　研究テーマに関する文献の紹介
第3回　主要関連文献リストの作成
第4回　主要関連文献の講読（1）：2項選択モデル
第5回　主要関連文献の講読（2）：多項選択モデル
第6回　主要関連文献の講読（3）：順序ロジット，順次プロビットモデル
第7回　主要関連文献の講読（4）：トービットモデル
第8回　主要関連文献の講読（5）：構造推定
第9回　主要関連文献の問題点の整理
第10回　主要関連文献の問題点の検討
第11回　計量経済分析の実習（1）：重回帰分析
第12回　計量経済分析の実習（2）：質的従属変数
第13回　計量経済分析の実習（3）：時系列モデル
第14回　演習内容の総括と修士論文テーマに関する指導

履修上の注意

業内容は講義と実習が中心であるが，学期末には履修者が選んだテーマについて分析結果をまとめて提出してもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

使用教材の該当部分を予め読んでおくこと。また，発表の予定があるときにはその準備等を行うこと。復習としては，授業中に示された実習課題に取り組むこと，および発表で指摘された点を検討すること。

教科書

J. M. Wooldridge, Introductory Econometrics, Thomson, 2006.

参考書

『実証分析のための計量経済学』山本勲（中央経済社）2015年

成績評価の方法

レポート（50%），授業への貢献度（50%）

その他

特になし

科目ナンバー：(CO) ECN612J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済理論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		千田　亮吉

授業の概要・到達目標

本講では，経済理論に基づく実証的な経済分析を中心とした修士論文作成のための指導を行なう。履修者の研究テーマに関連する文献の講読，問題点の抽出，分析手法の修得，データ収集方法の検討などが中心になる。

履修者に研究テーマに基づく報告を2回行なってもらい，修士論文の執筆につなげることを目標とする。

授業内容

第1回　履修者による修士論文テーマの報告
第2回　修士論文テーマの検討
第3回　分析方法の検討等（1）：理論モデル
第4回　分析方法の検討等（2）：使用データ
第5回　分析方法の検討等（3）：推定方法
第6回　分析方法の検討等（4）：結果の解釈
第7回　分析方法の検討等（5）：全体の総括
第8回　履修者による修士論文の構成等に関する報告
第9回　修士論文の構成等に関する検討
第10回　追加文献に関する検討
第11回　データ収集等に関する検討
第12回　推定方法に関する検討
第13回　予備的分析結果の検討等
第14回　今後の課題の確認

履修上の注意

履修者には修士論文に関する報告を2回行なってもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

使用教材の該当部分を予め読んでおくこと。また，発表の予定があるときにはその準備等を行うこと。復習としては，授業中に示された実習課題に取り組むこと，および発表で指摘された点を検討すること。

教科書

使用しない

参考書

使用しない

成績評価の方法

修士論文中間報告の内容（50%），授業への貢献度（50%）

その他

特になし

科目ナンバー：(CO) ECN612J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済理論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		千田　亮吉

授業の概要・到達目標

本講では，演習ⅡAに引き続き経済理論に基づく実証的な経済分析を中心とした修士論文作成のための指導を行なう。履修者の研究テーマに関連する文献の講読，問題点の抽出，分析手法の修得，データ収集方法の検討などが中心になる。

履修者には修士論文に関する中間報告と最終報告をそれぞれ1回ずつ行ってもらい，最終的に修士論文を完成させることを目標とする。

授業内容

第1回　履修者による修士論文進捗状況の報告
第2回　修士論文作成に関する指導（1）：全体の構成
第3回　修士論文作成に関する指導（2）：現状分析
第4回　修士論文作成に関する指導（3）：先行研究
第5回　修士論文作成に関する指導（4）：分析内容
第6回　修士論文作成に関する指導（5）：結果の解釈
第7回　履修者による修士論文中間報告
第8回　修士論文中間報告の問題点の検討
第9回　修士論文執筆に関する指導（1）；全体の構成
第10回　修士論文執筆に関する指導（2）：分析内容
第11回　修士論文執筆に関する指導（3）：結果の解釈
第12回　履修者による修士論文最終報告
第13回　修士論文の修正点の確認
第14回　演習内容の総括と残された課題の検討

履修上の注意

履修者には修士論文に関する中間報告と最終報告をそれぞれ1回ずつ行なってもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

使用教材の該当部分を予め読んでおくこと。また，発表の予定があるときにはその準備等を行うこと。復習としては，授業中に示された実習課題に取り組むこと，および発表で指摘された点を検討すること。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

成績評価の方法

修士論文中間報告・最終報告の内容（80%），授業への貢献度（20%）

その他

特になし

科目ナンバー：(CO) ECN532J			
経済系列		備 考	
科 目 名	計量経済学特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　水野　勝之		

授業の概要・到達目標

大学院では，理論を組み合わせるということが学びの基礎となる。計量経済学と経済理論をリンクさせることで，計量経済学と経済理論の融合の授業を行っていく。

授業内容

Henri Theil の研究を学ぶことにより，
- ○計量経済学のモデルの作り方
- ○他の経済理論とリンクさせることの重要性
- ○モデルの推定方法

を学ぶ。基本的な授業であるが，経済指数と計量経済モデルをリンクさせた Theil の手法を学ぶことにより，経済指数の理論の発展可能性もさぐる。

第１回　オリエンテーション
第２回　経済モデル（1）
第３回　経済モデル（2）
第４回　経済モデル（3）
第５回　経済モデル（4）
第６回　経済モデルの作成（1）
第７回　経済モデルの作成（2）
第８回　経済モデルの作成（3）
第９回　計量経済学で経済モデルを計算（1）
第10回　計量経済学で経済モデルを計算（2）
第11回　計量経済学で経済モデルを計算（3）
第12回　計量経済学で経済モデルを計算（4）
第13回　計量経済学で経済モデルを計算（5）
第14回　計量経済学で経済モデルを計算（6）

履修上の注意

計量経済学と経済モデルのリンクについて学ぶ。
計量経済学だけでなく経済モデルにも関心をもってもらいたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

計算に必要はデータは，自主的に収集することが望ましい。

教科書

水野勝之『システム―ワイド・アプローチの理論と応用』梓出版
水野勝之『経済指数の理論と適用』創成社

参考書

水野勝之「テキスト計量経済学」中央経済社

成績評価の方法

授業中の報告内容を評価する。調査力，文献読破力，英語力などを評価する。
報告の仕方50％，準備の工夫40％，質疑が適切か10％

その他

学会報告を行えるようにしたい。

科目ナンバー：(CO) ECN532J			
経済系列		備 考	
科 目 名	計量経済学特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　水野　勝之		

授業の概要・到達目標

大学院では，理論を組み合わせるということが学びの基礎となる。計量経済学と経済理論をリンクさせる重要な要素である物価指数を交えて，計量経済学と経済理論の融合の授業を行っていく。そこで，経済学の基本を習得したのに，専門的な経済理論を学び，それを計量経済分析する手法を学ぶ。

授業内容

Henri Theil の研究を学ぶことにより，
- ○計量経済学のモデルの作り方
- ○他の経済理論とリンクさせることの重要性
- ○モデルの推定方法

を学ぶ。基本的な授業であるが，経済指数と計量経済モデルをリンクさせた Theil の手法を学ぶことにより，経済指数の理論の発展可能性もさぐる。

第１回　物価指数と計量経済学（1）
第２回　物価指数と計量経済学（2）
第３回　物価指数と計量経済学（3）
第４回　物価指数と計量経済学（4）
第５回　物価指数と計量経済学（5）
第６回　数量指数と計量経済学（1）
第７回　数量指数と計量経済学（2）
第８回　システム・ワイド―アプローチ（1）
第９回　システム・ワイド―アプローチ（2）
第10回　システム・ワイド―アプローチ（3）
第11回　システム・ワイド―アプローチをいろいろな方法で推定（1）
第12回　システム・ワイド―アプローチをいろいろな方法で推定（2）
第13回　システム・ワイド―アプローチをいろいろな方法で推定（3）
第14回　システム・ワイド―アプローチのリンクの理論の意義を復習

履修上の注意

計量経済学と経済理論のリンクを学ぶ。計量経済学だけでなく経済理論にも関心をもってもらいたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

経済理論については，授業でとりあげるシステム・ワイド―アプローチだけでなく，各自で基本的文献を探し，基礎を身につける。

教科書

水野勝之『システム―ワイド・アプローチの理論と応用』梓出版
水野勝之『経済指数の理論と適用』創成社

参考書

水野勝之「テキスト計量経済学」中央経済社

成績評価の方法

授業中の報告内容を評価する。調査力，文献読破力，英語力などを評価する。
報告の仕方50％，準備の工夫40％，質疑が適切か10％

その他

データに関しては自分たちで集める。

科目ナンバー：(CO) ECN632J			
経済系列		備 考	
科 目 名	計量経済学特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　水野　勝之		

授業の概要・到達目標

大学院では，理論を組み合わせるということが学びの基礎となる。計量経済学と経済理論をリンクさせる重要な要素である物価指数を交えて，計量経済学と経済理論の融合の授業を行っていく。

授業内容

Henri Theil の研究を学ぶことにより，
- ○計量経済学のモデルの作り方
- ○他の経済理論とリンクさせることの重要性
- ○モデルの推定方法

を学ぶ。基本的な授業であるが，経済指数と計量経済モデルをリンクさせた Theil の手法を学ぶことにより，経済指数の理論の発展可能性もさぐる。

第1回　オリエンテーション
第2回　物価指数の計量経済学的分析（1）
第3回　物価指数の計量経済学的分析（2）
第4回　物価指数の計量経済学的分析（3）
第5回　物価指数の計量経済学的分析（4）
第6回　数量指数の計量経済学的分析（1）
第7回　数量指数の計量経済学的分析（2）
第8回　数量指数の計量経済学的分析（3）
第9回　計量経済学モデル分析（1）
第10回　計量経済学モデル分析（2）
第11回　計量経済学モデル分析（3）
第12回　計量経済学モデル分析（4）
第13回　計量経済学モデル分析（5）
第14回　計量経済学モデル分析（6）

履修上の注意

計量経済学だけでなく経済指数にも関心をもってもらいたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

指数に関しては，自主的に文献を探し，読み込むこと。

教科書

水野勝之『システム―ワイド・アプローチの理論と応用』梓出版
水野勝之『経済指数の理論と適用』創成社

参考書

水野勝之「テキスト計量経済学」中央経済社

成績評価の方法

授業中の報告内容を評価する。調査力，文献読破力，英語力などを評価する。
報告の仕方50%，準備の工夫40%，質疑が適切か10%

その他

データは自主的に集めること。

科目ナンバー：(CO) ECN632J			
経済系列		備 考	
科 目 名	計量経済学特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　水野　勝之		

授業の概要・到達目標

大学院では，理論を組み合わせるということが学びの基礎となる。計量経済学と経済理論をリンクさせる重要な要素である物価指数を交えて，計量経済学と経済理論の融合の授業を行っていく。

授業内容

Henri Theil の研究を学ぶことにより，
- ○計量経済学のモデルの作り方
- ○他の経済理論とリンクさせることの重要性
- ○モデルの推定方法

を学ぶ。基本的な授業であるが，経済指数と計量経済モデルをリンクさせた Theil の手法を学ぶことにより，経済指数の理論の発展可能性もさぐる。

第1回　物価指数と計量経済学発展的アプローチ（1）
第2回　物価指数と計量経済学発展的アプローチ（2）
第3回　物価指数と計量経済学発展的アプローチ（3）
第4回　物価指数と計量経済学発展的アプローチ（4）
第5回　物価指数と計量経済学発展的アプローチ（5）
第6回　数量指数と計量経済学発展的アプローチ（1）
第7回　数量指数と計量経済学発展的アプローチ（2）
第8回　システム・ワイド―アプローチの発展的アプローチ（1）
第9回　システム・ワイド―アプローチの発展的アプローチ（2）
第10回　システム・ワイド―アプローチの発展的アプローチ（3）
第11回　指数とシステム・ワイド―アプローチのリンクの理論の文献購読（1）
第12回　指数とシステム・ワイド―アプローチのリンクの理論の文献購読（2）
第13回　指数とシステム・ワイド―アプローチのリンクの理論の文献購読（3）
第14回　指数とシステム・ワイド―アプローチのリンクの理論の文献購読（4）

履修上の注意

計量経済学だけでなく経済指数にも関心をもってもらいたい。指数に関しては，自主的に文献を探し，読み込むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

指数に関しては，自主的に文献を探し，読み込むこと。

教科書

水野勝之『システム―ワイド・アプローチの理論と応用』梓出版
水野勝之『経済指数の理論と適用』創成社

参考書

水野勝之「テキスト計量経済学」中央経済社

成績評価の方法

授業中の報告内容を評価する。調査力，文献読破力，英語力などを評価する。
報告の仕方50%，準備の工夫40%，質疑が適切か10%

その他

データは自主的に集めること。

科目ナンバー：(CO) ECN552J			
経済系列		備 考	
科 目 名	財政学特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　畑農　鋭矢		

授業の概要・到達目標

経済における公的部門の役割についての知識を深めるため，マクロ経済学・ミクロ経済学の関連項目について学習する。

公的部門の経済活動に関わる理論的・実証的研究の重要文献を学び，分析手続きと分析手法について理解を深める。

また，学んだ知識を基にエクササイズを行い，論文作成の基本的テクニックの習得を目指す。

授業内容

第１回　研究の方法（1）
第２回　研究の方法（2）
第３回　研究の方法（3）
第４回　財政学とミクロ経済学（1）
第５回　財政学とミクロ経済学（2）
第６回　財政学とマクロ経済学（1）
第７回　財政学とマクロ経済学（2）
第８回　財政学と計量経済学（1）
第９回　財政学と計量経済学（2）
第10回　研究テーマの事例（1）
第11回　研究テーマの事例（2）
第12回　研究テーマの事例（3）
第13回　既存研究の輪読（1）
第14回　既存研究の輪読（2）

履修上の注意

財政学・公共経済学の他に，関連分野としてミクロ経済学・マクロ経済学，計量経済学の知識が重要である。

並行して関連の講義を受講することを勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容

ミクロ経済学とマクロ経済学の復習のための参考図書は以下のとおりである。
〈ミクロ経済学〉
安藤至大（2013）『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣ストゥディア。
ポール・クルーグマン/ロビン・ウェルス（2017）『クルーグマン　ミクロ経済学　第２版』東洋経済新報社。
神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社。
〈マクロ経済学〉
二神孝一（2017）『マクロ経済学入門 第３版』日本評論社。
福田慎一・照山博司（2016）『マクロ経済学・入門 第５版』有斐閣アルマ。
齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久（2016）『マクロ経済学 新版』有斐閣。

教科書

特定の教科書は使用しない。
受講者の興味を考慮して必読文献を提示する場合がある。

参考書

佐藤主光（2018）『公共経済学15講』新世社。
林　正義・小川　光・別所俊一郎（2010）『公共経済学』有斐閣。

成績評価の方法

発表50％
授業への貢献50％

その他

科目ナンバー：(CO) ECN552J			
経済系列		備 考	
科 目 名	財政学特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　畑農　鋭矢		

授業の概要・到達目標

経済における公的部門の役割についての知識を深めるため，マクロ経済学・ミクロ経済学の知識をベースに計量経済学の関連項目について学習する。

公的部門の経済活動に関わる理論的・実証的研究の重要文献を学び，分析手続きと分析手法について理解を深める。

また，学んだ知識を基に自ら具体的にテーマを定めて，実証分析を行う。

授業内容

第１回　研究テーマの調査報告（1）
第２回　研究テーマの調査報告（2）
第３回　計量分析の演習（1）
第４回　計量分析の演習（2）
第５回　計量分析の演習（3）
第６回　計量分析の演習（4）
第７回　関連研究の紹介（1）
第８回　関連研究の紹介（2）
第９回　計量分析の演習（5）
第10回　計量分析の演習（6）
第11回　研究テーマの分析報告（1）
第12回　研究テーマの分析報告（2）
第13回　残された課題の検討（1）
第14回　残された課題の検討（2）

履修上の注意

財政学・公共経済学の他に，関連分野としてミクロ経済学・マクロ経済学，計量経済学の知識が重要である。

平行して関連の講義を受講することを勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容

学部レベルの復習のための参考図書は以下のとおりである。
〈ミクロ経済学〉
安藤至大（2013）『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣ストゥディア。
ポール・クルーグマン/ロビン・ウェルス（2017）『クルーグマン　ミクロ経済学　第２版』東洋経済新報社。
神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社。
〈マクロ経済学〉
二神孝一（2017）『マクロ経済学入門 第３版』日本評論社。
福田慎一・照山博司（2016）『マクロ経済学・入門 第５版』有斐閣アルマ。
齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久（2016）『マクロ経済学 新版』有斐閣。
〈計量手法〉
森田果（2014）『実証分析入門 データから「因果関係」を読み解く作法』日本評論社。
伊藤公一朗（2017）『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書。

教科書

受講者の興味を考慮して適宜指示する。

参考書

佐藤主光（2018）『公共経済学15講』新世社。
林　正義・小川　光・別所俊一郎（2010）『公共経済学』有斐閣。
Jeffrey M. Wooldridge,（2012）*Introductory Econometrics: A Modern Approach* 5th Edition, South-Western College Publishing.
James H. Stock and Mark W. Watson,（2010）*Introduction to Econometrics* 3rd Edition, Prentice Hall.

成績評価の方法

発表50％
授業への貢献50％

その他

科目ナンバー：(CO) ECN652J			
経済系列		備 考	
科 目 名	財政学特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　畑農　鋭矢		

授業の概要・到達目標

修士論文を書くために必須となる理論的・実証的研究の重要文献を読み解き，分析手続きと分析手法について理解を深める。

また，その手法を修士論文の題材に応用するための実際的な訓練を行う。

授業内容

第1回　修士論文テーマの報告
第2回　ミクロ経済学の確認（1）
第3回　ミクロ経済学の確認（2）
第4回　マクロ経済学の確認（1）
第5回　マクロ経済学の確認（2）
第6回　財政学の確認（1）
第7回　財政学の確認（2）
第8回　履修者による先行研究の紹介（1）
第9回　履修者による先行研究の紹介（2）
第10回　計量手法の確認（1）
第11回　計量手法の確認（2）
第12回　計量手法の確認（3）
第13回　予備的分析結果の報告（1）
第14回　予備的分析結果の報告（2）

履修上の注意

財政学・公共経済学の他に，関連分野としてミクロ経済学・マクロ経済学，計量経済学の知識が重要である。

平行して関連の講義を受講することを勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容

学部レベルの復習のための参考図書は以下のとおりである。

〈ミクロ経済学〉

安藤至大（2013）『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣ストゥディア。

ポール・クルーグマン/ロビン・ウェルス（2017）『クルーグマン　ミクロ経済学　第2版』東洋経済新報社。

神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社。

〈マクロ経済学〉

二神孝一（2017）『マクロ経済学入門 第3版』日本評論社。

福田慎一・照山博司（2016）『マクロ経済学・入門 第5版』有斐閣アルマ。

齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久（2016）『マクロ経済学 新版』有斐閣。

〈計量手法〉

森田果（2014）『実証分析入門 データから「因果関係」を読み解く作法』日本評論社。

伊藤公一朗（2017）『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書。

教科書

受講者の興味を考慮して適宜指示する。

参考書

佐藤主光（2018）『公共経済学15講』新世社。

林　正義・小川　光・別所俊一郎（2010）『公共経済学』有斐閣。

Anthony B. Atkinson and Joseph E. Stiglitz（2015）*Lectures on Public Economics*, Princeton University Press.

成績評価の方法

発表50％
授業への貢献50％

その他

科目ナンバー：(CO) ECN652J			
経済系列		備 考	
科 目 名	財政学特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　畑農　鋭矢		

授業の概要・到達目標

修士論文を書くために必須となる理論的・実証的研究の重要文献を読み解き，分析手続きと分析手法について理解を深める。

また，その手法を修士論文の題材に応用するための実際的な訓練を行う。

授業内容

第1回　修士論文構成の報告
第2回　修士論文作成に関する指導（1）
第3回　修士論文作成に関する指導（2）
第4回　修士論文作成に関する指導（3）
第5回　修士論文作成に関する指導（4）
第6回　修士論文作成に関する指導（5）
第7回　修士論文中間報告（1）
第8回　修士論文中間報告（2）
第9回　修士論文執筆に関する指導（1）
第10回　修士論文執筆に関する指導（2）
第11回　修士論文最終報告（1）
第12回　修士論文最終報告（2）
第13回　演習内容の総括，残された課題の検討（1）
第14回　演習内容の総括，残された課題の検討（2）

履修上の注意

財政学・公共経済学の他に，関連分野としてミクロ経済学・マクロ経済学，計量経済学の知識が重要である。

平行して関連の講義を受講することを勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容

学部レベルの復習のための参考図書は以下のとおりである。

〈ミクロ経済学〉

安藤至大（2013）『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣ストゥディア。

ポール・クルーグマン/ロビン・ウェルス（2017）『クルーグマン　ミクロ経済学　第2版』東洋経済新報社。

神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社。

〈マクロ経済学〉

二神孝一（2017）『マクロ経済学入門 第3版』日本評論社。

福田慎一・照山博司（2016）『マクロ経済学・入門 第5版』　有斐閣アルマ。

齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久（2016）『マクロ経済学 新版』有斐閣。

〈計量手法〉

森田果（2014）『実証分析入門 データから「因果関係」を読み解く作法』日本評論社。

伊藤公一朗（2017）『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書。

教科書

特定の教科書は使用しない。

受講者の興味を考慮して必読文献を提示する場合がある。

参考書

佐藤主光（2018）『公共経済学15講』新世社。

林　正義・小川　光・別所俊一郎（2010）『公共経済学』有斐閣。

Anthony B. Atkinson and Joseph E. Stiglitz（2015）*Lectures on Public Economics*, Princeton University Press.

成績評価の方法

発表50％
授業への貢献50％

その他

科目ナンバー：(CO) ECN542J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済政策論特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　山田　知明		

授業の概要・到達目標

Currently dynamic stochastic general equilibrium (DSGE) models are becoming useful tools for not only academics, but government research institutes and central banks. The course aims to study how to solve and apply the DSGE models analytically/numerically. For the purpose, students are required to read (and present) recent academic papers on the related topics. The reading list will be distributed in the first class: the reading list will be available on my HP linked below.

The final goal of this course is to acquire skills to solve problems of your research interest with the DSGE models.

授業内容

1. Deaton, A. (1991): Saving and Liquidity Constraints, Econometrica, 59, 1221–1248.
2. Replication of Deaton (1991).
3. Mace, B. (1991): Full Insurance in the Presence of Aggregate Uncertainty, Journal of Political Economy, 99, 928–956.
4. Cochrane, J.H. (1991): A Simple Test of Consumption Insurance, Journal of Political Economy, 99, 957–976.
5. Deaton, A. and C. Paxson (1994): Intertemporal Choice and Inequality, Journal of Political Economy, 102, 437–467.
6. Blundell, R. and I. Preston (1998): Consumption Inequality and Income Uncertainty, Quarterly Journal of Economics, 603–640
7. How to Use Julia.
8. Probability in Julia.
9. Probability in Julia (cont).
10. 10. Probability in Julia (cont).
11. Statistics in Julia.
12. Statistics in Julia (cont).
13. DataFrames in Julia.
14. DataFrames in Julia (cont).

履修上の注意

I assume to have a working knowledge in undergraduate level macroeconomics, microeconomics and mathematics such as linear algebra, real analysis, optimization theory and probability. In addition, it is preferable to have some knowledge on programming.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to read a textbook for mathematics for economics in advance.

For example,

1) Sydsaeter and Hammond (2008), Essential Mathematics for Economic Analysis, Prentice Hall.
2) Sydsaeter, Hammond, Seierstad and Strom (2008), Further Mathematics for Economic Analysis, Prentice Hall.
3) Kolmogorov and Fomin (1970), Introductory Real Analysis, Dover are strongly recommended.

教科書

Judd, Kenneth L. (1998): Numerical Methods in Economics, The MIT Press.

Heer, Burkhard and Alfred Maussner (2009): Dynamic General Equilibrium Modeling: Computational Methods and Applications, Springer.

参考書

Ljungqvist, Lars and Thomas J. Sargent (2012): Recursive Macroeconomic Theory, The MIT Press.

Stokey, Nancy L., Robert E. Lucas Jr., with E.C. Prescott (1989), Recursive Methods in Economic Dynamics, Harvard University Press.

成績評価の方法

The course grade will be a combination of presentations (30%) and term paper (70%). I strongly encourage students to write the term paper in English.

その他

https://sites.google.com/site/tyamadaeconomics/

科目ナンバー：(CO) ECN542J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済政策論特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　山田　知明		

授業の概要・到達目標

Currently dynamic stochastic general equilibrium (DSGE) models are becoming useful tools for not only academics, but government research institutes and central banks. The course aims to study how to solve and apply the DSGE models analytically/numerically. For the purpose, students are required to read (and present) recent academic papers on the related topics. The reading list will be distributed in the first class: the reading list will be available on my HP linked below.

The final goal of this course is to acquire skills to solve problems of your research interest with the DSGE models.

授業内容

The followings are tentative lists of readings:

1. Hayashi, F. and E.C. Prescott (2002): The 1990s in Japan: A Lost Decade, Review of Economic Dynamics, 5, 206–235.
2. Replication of Hayashi and Prescott (2002).
3. Kydland, F. and E.C. Prescott (1982): Time to Build and Aggregate Fluctuations, Econometrica, 50, 1345–1370.
4. Hansen, G. (1985): Indivisible Labor and the Business Cycle, Journal of Monetary Economics, 16, 309–327.
5. Replication of Hansen (1985).
6. Backus, D.K., P.J. Kehoe and F.E. Kydland (1992): International Real Business Cycles, Journal of Political Economy, 100, 745–775.
7. Chari, V.V., P.J. Kehoe and E.R. McGrattan (2007): Business Cycle Accounting, Econometrica, 75, 781–836.
8. Replication of Chari, Kehoe and McGrattan (2007).
9. Kiyotaki, N. and J. Moore (1997): Credit Cycles, Journal of Political Ecoonmy, 105, 211–248.
10. Mankiw, N.G. and R. Reis (2002): Sticky Information versus Sticky Prices: A Proposal to Replace the New Keynesian Phillips Curve, Quarterly Journal of Economics, 117, 1295–1328.
11. Gali, J. (2013): Notes for a New Guide to Keynes (Ⅰ): Wages, Aggregate Demand, and Employment, Journal of the European Economic Association, 11, 973–1003
12. Christiano, L.J., M. Eichenbaum and C.L. Evans (2005): Nominal Rigidities and the Dynamic Effects of a Shock to Monetary Policy, Journal of Political Economy, 113, 1–45.
13. Smets, F. and R. Wouters (2003): An Estimated Dynamic Stochastic General Equilibrium Model of the Euro Area, Journal of the European Economic Association, 1, 1123–1175.
14. Smets, F. and R. Wouters (2007): Shocks and Frictions in US Business Cycles: A Bayesian DSGE Approach, American Economic Review, 97, 586–606.

履修上の注意

I assume to have a working knowledge in undergraduate level macroeconomics, microeconomics and mathematics such as linear algebra, real analysis, optimization theory and probability. In addition, it is preferable to have some knowledge on programming.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to read a textbook for mathematics for economics in advance.

For example,

1) Sydsaeter and Hammond (2008), Essential Mathematics for Economic Analysis, Prentice Hall.
2) Sydsaeter, Hammond, Seierstad and Strom (2008), Further Mathematics for Economic Analysis, Prentice Hall.
3) Kolmogorov and Fomin (1970), Introductory Real Analysis, Dover are strongly recommended.

教科書

Judd, Kenneth L. (1998): Numerical Methods in Economics, The MIT Press.

Heer, Burkhard and Alfred Maussner (2009): Dynamic General Equilibrium Modeling: Computational Methods and Applications, Springer.

参考書

Ljungqvist, Lars and Thomas J. Sargent (2012): Recursive Macroeconomic Theory, The MIT Press.

Stokey, Nancy L., Robert E. Lucas Jr., with E.C. Prescott (1989), Recursive Methods in Economic Dynamics, Harvard University Press.

成績評価の方法

The course grade will be a combination of presentations (30%)and term paper (70%). I strongly encourage students to write the term paper in English.

その他

https://sites.google.com/site/tyamadaeconomics/

科目ナンバー：(CO) ECN642J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済政策論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　山田　知明		

授業の概要・到達目標

Currently dynamic stochastic general equilibrium (DSGE) models are becoming useful tools for not only academics, but government research institutes and central banks. The course aims to study how to solve and apply the DSGE models analytically/numerically. For the purpose, students are required to read (and present) recent academic papers on the related topics. The reading list will be distributed in the first class: the reading list will be available on my HP linked below.

The final goal of this course is to acquire skills to solve problems of your research interest with the DSGE models.

授業内容

1. Aiyagari, S.R. (1994): Uninsured Idiosyncratic Risk and Aggregate Saving, Quarterly Journal of Economics, 109, 659–684.
2. Huggett, M. (1993): The Risk-Free Rate in Heterogeneous–Agent Incomplete-Insurance Economies, Journal of Economic Dynamics and Control, 17, 953–969.
3. Carroll, C.D. (2006): The Method of Endogenous Gridpoints for Solving Dynamic Stochastic Optimization Problems, Economics Letters, 91, 312–320.
4. Replication of Aiyagari (1994) and Huggett (1993).
5. Aiyagari, S.R. and E.R. McGrattan (1998): The Optimum Quantity of Debt, Journal of Monetary Economics, 42, 447–469.
6. Heatocote, J., F. Perri and G.L. Violante (2010): Unequal We Stand: An Empirical Analysis of Economic Inequality in the United States, 1967–2006, Review of Economic Dynamics, 13, 15–51.
7. Lise, J., N. Sudo, M. Suzuki, K. Yamada and T. Yamada (2014): Wage, Income and Consumption Inequality in Japan, 1981–2008: From Boom to Lost Decades, Review of Economic Dynamics, 17, 582–612.
8. Hubbard, R., J. Skinner and S. Zeldes (1995): Precautionary Savings and Social Insurance, Journal of Political Economy, 103, 360–399.
9. Imrohoroglu, A., S. Imrohoroglu, and D. Joines (1995): A Life Cycle Analysis of Social Security, Economic Theory, 6, 83–115.
10. Huggett, M. (1996): Wealth Distribution in Life-Cycle Economies, Journal of Monetary Economics, 38, 469–494.
11. Conesa, J.C. and D. Krueger (1999): Social Security Reform with Heterogeneous Agents, Review of Economic Dynamics, 2, 757–795.
12. Conesa, J.C., S. Kitao and D. Krueger (2009): Taxing Capital? Not a Bad Idea After All!, American Economic Review, 99, 25–48.
13. Stoleslette, K., C.I. Telmer and A. Yaron (2004): Consumption and Risk Sharing over the Life Cycle, Journal of Monetary Economics, 51, 609–633.
14. Heathcote, J., K. Stolesletten and G.L. Violante (2010): The Macroeconomic Implications of Rising Wage Inequality in the United States, Journal of Political Economy, 118, 681–722.

履修上の注意

I assume to have a working knowledge in undergraduate level macroeconomics, microeconomics and mathematics such as linear algebra, real analysis, optimization theory and probability. In addition, preferabley, students have some knowledge about programming.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to read a textbook for mathematics for economics in advance.

For example,

1) Sydsaeter and Hammond (2008), Essential Mathematics for Economic Analysis, Prentice Hall.
2) Sydsaeter, Hammond, Seierstad and Strom (2008), Further Mathematics for Economic Analysis, Prentice Hall.
3) Kolmogorov and Fomin (1970), Introductory Real Analysis, Dover are strongly recommended.

教科書

Judd, Kenneth L. (1998): Numerical Methods in Economics, The MIT Press.

Heer, Burkhard and Alfred Maussner (2009): Dynamic General Equilibrium Modeling: Computational Methods and Applications, Springer.

参考書

Ljungqvist, Lars and Thomas J. Sargent (2012): Recursive Macroeconomic Theory, The MIT Press.

Stokey, Nancy L., Robert E. Lucas Jr., with E.C. Prescott (1989), Recursive Methods in Economic Dynamics, Harvard University Press.

成績評価の方法

The course grade will be a combination of presentations (30%)and term paper (70%). I strongly encourage students to write the term paper in English.

その他

https://sites.google.com/site/tyamadaeconomics/

科目ナンバー：(CO)ECN642J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済政策論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　山田　知明		

授業の概要・到達目標

Currently dynamic stochastic general equilibrium (DSGE) models are becoming useful tools for not only academics, but government research institutes and central banks. The course aims to study how to solve and apply the DSGE models analytically/numerically. For the purpose, students are required to read (and present) recent academic papers on the related topics. The reading list will be distributed in the first class: the reading list will be available on my HP linked below.

The final goal of this course is to acquire skills to solve problems of your research interest with the DSGE models.

授業内容

1. Deaton, A. (1991): Saving and Liquidity Constraints, Econometrica, 59, 1221–1248.
2. Replication of Deaton (1991).
3. Mace, B. (1991): Full Insurance in the Presence of Aggregate Uncertainty, Journal of Political Economy, 99, 928–956.
4. Cochrane, J.H. (1991): A Simple Test of Consumption Insurance, Journal of Political Economy, 99, 957–976.
5. Deaton, A. and C. Paxson (1994): Intertemporal Choice and Inequality, Journal of Political Economy, 102, 437–467.
6. Blundell, R. and I. Preston (1998): Consumption Inequality and Income Uncertainty, Quarterly Journal of Economics, , 603–640
7. How to Use R.
8. Probability in R.
9. Statistics in R.
10. How to Use Python.
11. Probability in Python.
12. Statistics in Python.
13. Numerical computation in Python
14. How to Use Julia.

履修上の注意

I assume to have a working knowledge in undergraduate level macroeconomics, microeconomics and mathematics such as linear algebra, real analysis, optimization theory and probability. In addition, it is preferable to have some knowledge on programming.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to read a textbook for mathematics for economics in advance.

For example,

1) Sydsaeter and Hammond (2008), Essential Mathematics for Economic Analysis, Prentice Hall.
2) Sydsaeter, Hammond, Seierstad and Strom (2008), Further Mathematics for Economic Analysis, Prentice Hall.
3) Kolmogorov and Fomin (1970), Introductory Real Analysis, Dover are strongly recommended.

教科書

Judd, Kenneth L. (1998): Numerical Methods in Economics, The MIT Press.

Heer, Burkhard and Alfred Maussner (2009): Dynamic General Equilibrium Modeling: Computational Methods and Applications, Springer.

参考書

Ljungqvist, Lars and Thomas J. Sargent (2012): Recursive Macroeconomic Theory, The MIT Press.

Stokey, Nancy L., Robert E. Lucas Jr., with E.C. Prescott (1989), Recursive Methods in Economic Dynamics, Harvard University Press.

成績評価の方法

The course grade will be a combination of presentations (30%) and term paper (70%). I strongly encourage students to write the term paper in English.

その他

https://sites.google.com/site/tyamadaeconomics/

科目ナンバー：(CO) ECN522J			
経済系列		備 考	
科 目 名	国際経済学特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授		高浜　光信

授業の概要・到達目標

国際経済学は国際貿易理論と国際マクロ経済学に別れるが，本演習では後者を中心とする。国際マクロ経済学に関して定評のあるテキストを輪読し，より本格的な国際マクロ経済学のテキストを読破するための基礎作りを行う予定である。

授業内容

国際マクロ経済学の応用文献の購読
第１回　イントロダクション
第２回　国際マクロ経済学の基礎
第３回　国際収支の概念
第４回　国際収支の動態
第５回　長期の開放マクロ経済モデル１
第６回　長期の開放マクロ経済モデル２
第７回　短期の開放マクロ経済モデル１
第８回　短期の開放マクロ経済モデル２
第９回　超短期の為替相場の動態１
第10回　超短期の為替相場の動態２
第11回　通貨危機の経済モデル
第12回　通貨同盟の開放マクロ経済学
第13回　新しい国際通貨体制
第14回　習熟度チェック

履修上の注意

学部レベルのマクロ，ミクロ経済学の知識を前提とする。国際マクロ経済学を理解するためには，標準的なマクロ経済学に加えてやや上級のマクロ経済学の知識，ミクロ経済学の知識を備えていることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書は，Feenstra and Taylor（2014）を予定している。このテキストは標準的なものであり，それほど難解ではないので，毎回，事前に目を通しておくことを希望する。

教科書

International Macroeconomics, 3rd Editoin, Feenstra R.C. and A.M. Taylor, Worth Pub., 2014.
『国際金融論のエッセンス』，高浜光信，高屋定美編著，文眞堂，2021年。

参考書

International Money and Finance, 3rd Edition, Hallwood, C. P. and R. MacDonald, Blackwell, 2000.
International Macroeconomic Dynamics, Turnovsky, S. J., MIT Press, 1997.
Handbook of International Economics: Vol. 3, Grossman, G. M. and K. Rogoff, North Holland, 1997.
Foundations of International Macroeconomics, Obstfeld, M. and K. Rogoff, MIT Press, 1996.
『国際金融の理論』(新国際金融テキスト 1)，小川英治，藤田誠一編著，有斐閣，2008年。

成績評価の方法

授業への貢献度70点，レポート30点の合計で評価する。

その他

プレゼンテーションの際には，他の受講者も予習を怠らないことを強く希望する。

科目ナンバー：(CO) ECN522J			
経済系列		備 考	
科 目 名	国際経済学特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授		高浜　光信

授業の概要・到達目標

国際経済学は国際貿易理論と国際マクロ経済学に別れるが，本演習では後者を中心とする。国際マクロ経済学に関して定評のある上級テキストのエッセンスを輪読し，これに加えて今日の国際マクロ経済学の最新のトピックを概観することを通じて，本格的な論文を読破するための基礎作りを行う予定である。

授業内容

第１回　異時点間交易の理論（基礎編）
第２回　異時点間交易の理論：Obstfeld and Rogoff（1996）ch.1
第３回　異時点間交易の理論：Obstfeld and Rogoff（1996）ch.2
第４回　異時点間交易の理論：Obstfeld and Rogoff（1996）ch.3
第５回　グローバルインバランスの現状
第６回　通貨危機のモデルに関する新展開
第６回　通貨危機のモデルに関する新展開（第３世代モデル以降）
第７回　通貨統合の理論
第８回　通貨統合の現実
第９回　通貨圏と通貨危機
第10回　為替相場制度選択の問題
第11回　政策協調の理論の新展開
第12回　履修者による研究論文に関する報告１
第13回　履修者による研究論文に関する報告２
第14回　演習内容の総括と残された課題の検討

履修上の注意

基礎的な国際マクロ経済学，国際金融論の知識を備えていることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について，事前に教科書等で調べておくこと。

教科書

Foundations of International Macroeconomics, Obstfeld, M. and K. Rogoff, MIT Press, 1996.
『国際金融論のエッセンス』，高浜光信，高屋定美編著，文眞堂，2021年。

参考書

International Macroeconomics and Finance: Theory and Econometric Methods, Mark N.C., John Wiley and Sons, 2001.
『国際金融の理論』(新国際金融テキスト 1)，小川英治，藤田誠一編著，有斐閣，2008年。

成績評価の方法

授業中のプレゼンテーション70点，ファイナル・ペーパー30点の合計で評価する。

その他

プレゼンテーションの際には，他の受講者も予習を怠らないことを強く希望する。

科目ナンバー：(CO) ECN622J			
経済系列		備 考	
科 目 名	国際経済学特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		高浜　光信

授業の概要・到達目標
国際マクロ経済学分野での研究論文の完成を目指す。

授業内容
第1回　イントロダクション
第2回　論文作成に際しての注意点の指導
第3回　修士論文テーマの概要報告
第4回　文献検索の指導，論文テーマに関する文献リストの作成
第5回　履修者による関連文献の報告
第6回　履修者への講評と新たな関連論文の指示
第7回　履修者による関連論文の報告
第8回　履修者への講評と新たな関連論文の指示
第10回　履修者による関連論文の報告
第11回　履修者への講評
第12回　履修者による論文テーマの再報告
第13回　履修者への講評と指導
第14回　今期の総括

履修上の注意
国際マクロ経済学，国際金融論について，ある程度の専門知識があることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容
関連の論文については，事前に収集し，概要について調べておくこと。

教科書
特定の教科書は使用しない。

参考書
関連論文を適宜，紹介する。

成績評価の方法
授業への取り組みへの積極性を含めた貢献度（70％）とレポート（30％）で評価する。

その他
科目の性質上，修士論文作成のための授業なので，各自の研究のために最大限生かしてほしい。

科目ナンバー：(CO) ECN622J			
経済系列		備 考	
科 目 名	国際経済学特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		高浜　光信

授業の概要・到達目標
国際マクロ経済学分野での研究論文の完成を目指す。

授業内容
第1回　研究概要および研究計画の確認
第2回　研究分野の最新動向の検討
第3回　履修者による関連文献の報告
第4回　履修者への講評と新たな関連論文の指示
第5回　履修者による関連文献の報告
第6回　履修者への講評
第7回　履修者による研究の進捗状況の報告
第8回　履修者への講評と新たな関連文献の指示
第10回　修士論文構成のチェック
第11回　修士論文概要の報告
第12回　概要に基づく最終的な検証
第13回　修士論文における研究の最終報告
第14回　総括

履修上の注意
国際マクロ経済学，国際金融論について，ある程度の専門知識があることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容
関連の論文については，事前に収集し，概要について調べておくこと。

教科書
特定の教科書は使用しない。

参考書
関連論文を適宜，紹介する。

成績評価の方法
授業への取り組みへの積極性を含めた貢献度（30％）と最終論文（70％）で評価する。

その他
科目の性質上，修士論文作成のための授業なので，各自の研究のために最大限生かしてほしい。

科目ナンバー：(CO) MAN512J			
経済系列		備 考	
科 目 名	中小企業論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授		熊澤　喜章

授業の概要・到達目標
本演習では，イギリスにおける中産階級に焦点をあて，彼らの実像を探究していきつつ，修士論文作成のための方向付けをおこなう。

授業内容
第１回　Introduction
第２回　More in the Middle 1
第３回　More in the Middle 2
第４回　Paying for the Life Style 1
第５回　Paying for the Life Style 2
第６回　Not Properly Detached but Trying 1
第７回　Not Properly Detached but Trying 2
第８回　Sufficiently Detached 1
第９回　Sufficiently Detached
第10回　A Comfortable Life 1
第11回　A Comfortable Life 2
第12回　A Woman's Place 1
第13回　A Woman's Place
第14回　Conclusion

履修上の注意
特論Ａ・Ｂを受講していること。積極的に問題点を指摘・考察していくことが重要である。

準備学習（予習・復習等）の内容
毎回の授業内容を再度確認しておくこと。

教科書
A. A. Jackson, The Miiddle Classes 1900−1950, Nairn, 1991.

参考書
P. Earle, The Making of the English Middle Class, Los Angeles, 1989.
A. Kidd and D. Nicholls (eds.), The Making of the British Middle Class?, Cornwall, 1998
K. T. Hoppen, The Mid-Victorian Generetion, Oxford, 1998.

成績評価の方法
授業への参加態度100％で評価する。

その他
授業内容は必要に応じ変更することがある。

科目ナンバー：(CO) MAN512J			
経済系列		備 考	
科 目 名	中小企業論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授		熊澤　喜章

授業の概要・到達目標
本演習では，イギリスにおける中産階級に焦点をあて，彼らの実像を探究していきつつ，修士論文作成のための方向付けをおこなう。

授業内容
第１回　Introduction
第２回　Middle Class Man 1
第３回　Middle Class Man 2
第４回　Growing Up Middle 1
第５回　Growing Up Middle 2
第６回　Up to Town 1
第７回　Up to Town 2
第８回　Middles at Leisure 1
第９回　Middles at Leisure 2
第10回　Summer by the Sea 1
第11回　Summer by the Sea 2
第12回　Retrospect 1
第13回　Retrospect 2
第14回　Conclusion

履修上の注意
特論Ａ・Ｂを受講していること。積極的に問題点を指摘・考察していくことが重要である。

準備学習（予習・復習等）の内容
毎回の授業の内容を，再度確認しておくこと。

教科書
A. A. Jackson, The Miiddle Classes 1900−1950, Nairn, 1991.

参考書
P. Earle, The Making of the English Middle Class, Los Angeles, 1989.
A. Kidd and D. Nicholls (eds.), The Making of the British Middle Class?, Cornwall, 1998
K. T. Hoppen, The Mid-Victorian Generetion, Oxford, 1998.

成績評価の方法
授業への参加態度100％で評価する。

その他
授業内容は必要に応じ変更することがある。

科目ナンバー：(CO) MAN612J			
経済系列		備 考	
科 目 名	中小企業論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		熊澤　喜章

授業の概要・到達目標
中小企業に関する研究を深め，修士論文の作成を指導する。

授業内容
修士論文の作成
第1回　履修者による修士論文テーマの報告（1）
第2回　履修者による修士論文テーマの報告（2）
第3回　修士論文の途中経過の報告（1）
第4回　修士論文の途中経過の報告（2）
第5回　修士論文の途中経過の報告（3）
第6回　修士論文の途中経過の報告（4）
第7回　修士論文の途中経過の報告（5）
第8回　修士論文の途中経過の報告（6）
第9回　修士論文の途中経過の報告（7）
第10回　修士論文の途中経過の報告（8）
第11回　修士論文の途中経過の報告（9）
第12回　修士論文の途中経過の報告（10）
第13回　問題点の確認とその後の研究の指導（1）
第14回　問題点の確認とその後の研究の指導（2）

履修上の注意
特論A・Bを受講していること。積極的に問題点を指摘・考察していくことが重要である。

準備学習（予習・復習等）の内容
毎回，自分の報告で指摘された問題点を確認し，次回の報告に反映させること。

教科書
なし。

参考書
なし。

成績評価の方法
授業への参加態度100％で評価する。

その他
授業内容は必要に応じ変更することがある。

科目ナンバー：(CO) MAN612J			
経済系列		備 考	
科 目 名	中小企業論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		熊澤　喜章

授業の概要・到達目標
中小企業に関する研究を深め，修士論文の作成を指導する。

授業内容
修士論文の作成・完成
第1回　履修者による修士論文進捗状況の報告
第2回　修士論文の途中経過の報告（1）
第3回　修士論文の途中経過の報告（2）
第4回　修士論文の途中経過の報告（3）
第5回　修士論文の途中経過の報告（4）
第6回　修士論文の途中経過の報告（5）
第7回　修士論文の途中経過の報告（6）
第8回　修士論文の途中経過の報告（7）
第9回　修士論文の途中経過の報告（8）
第10回　修士論文の途中経過の報告（9）
第11回　履修者による修士論文の最終報告（1）
第12回　履修者による修士論文の最終報告（2）
第13回　演習内容の総括と残された課題の検討（1）
第14回　演習内容の総括と残された課題の検討（2）

履修上の注意
特論A・Bを受講していること。積極的に問題点を指摘・考察していくことが重要である。

準備学習（予習・復習等）の内容
毎回の自分の報告で指摘された問題点を確認し，次回の報告に反映させること。

教科書
なし。

参考書
なし。

成績評価の方法
授業への参加態度100％で評価する。

その他
授業内容は必要に応じ変更することがある。

科目ナンバー：(CO) ECN511J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済理論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		千田　亮吉

授業の概要・到達目標

経済学分野の研究の基礎となるミクロ経済理論のうち，個別経済主体の最適化に関する講義を行なう。消費者の効用最大化，企業の利潤最大化はミクロ経済学だけでなくマクロ経済学でも経済主体の行動を表すために用いられ，経済学の最も基礎的な部分である。また，理論から実証分析へのつなげ方についても解説する。

本講では，受講生が最適化行動を理解し，自ら最適化問題を解くことができるようになることを目標とする。そのために問題演習も重視する。また，理論に基づいてどのように実証分析を行なっていくのかという点についても理解してもらいたい。

授業内容

第1回　市場，予算制約
第2回　選好と効用
第3回　選択および需要
第4回　顕示選好
第5回　スルツキー方程式
第6回　オッファー曲線
第7回　異時点間の選択
第8回　双対性アプローチ
第9回　資産市場
第10回　不確実性と危険資産
第11回　消費者余剰
第12回　市場の需要と均衡
第13回　測定と実証分析
第14回　オークション

履修上の注意

高等学校の数学の知識以上の内容は前提としない。授業は講義形式で行い，受講者は練習問題等の課題の解答を何回か提出してもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に，教科書の該当箇所を読み，疑問点等の整理をすること。また，復習として，章末の演習問題等を解くこと。

教科書

Hal R. Varian, Intermediate Microeconomics: A Modern Approach, ninth ediiton, W. W. Norton & Company, 2014

参考書

Hal R. Varian, Microeconomic Analysis, 3rd ediiton, W. W. Norton & Company, 1992

成績評価の方法

提出課題（50%），授業への貢献度（50%）

その他

特になし。

科目ナンバー：(CO) ECN511J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済理論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		千田　亮吉

授業の概要・到達目標

経済学分野の研究の基礎となるミクロ経済理論のうち，市場の機能に関する講義を行なう。寡占市場を扱う場合に必要なゲーム理論についても解説する。また，公共財，外部性，情報の非対称性など市場の失敗についても詳しく検討する。

本講では，受講生が市場の役割とその限界について理解することを目標とする。また，理論を基礎として現実の経済問題を考えるというアプローチを学んでもらいたい。

授業内容

第1回　生産技術および利潤最大化
第2回　費用最小化と費用関数
第3回　個別企業および市場全体の供給
第4回　独占市場
第5回　独占的行動，買手独占
第6回　寡占市場
第7回　ゲーム理論
第8回　ゲーム理論の応用
第9回　行動経済学
第10回　交換経済
第11回　生産を含む経済，社会的厚生
第12回　外部性，情報技術
第13回　公共財
第14回　情報の非対称性

履修上の注意

経済理論特論Aの内容を前提とする。授業は講義形式で行い，受講者は練習問題等の課題の解答を何回か提出してもらう。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に，教科書の該当箇所を読み，疑問点等の整理をすること。また，復習として，章末の演習問題等を解くこと。

教科書

Hal R. Varian, Intermediate Microeconomics: A Modern Approach, ninth ediiton, W. W. Norton & Company, 2014

参考書

Hal R. Varian, Microeconomic Analysis, 3rd ediiton, W. W. Norton & Company, 1992

成績評価の方法

提出課題（50%），授業への貢献度（50%）

その他

特になし。

科目ナンバー：(CO) ECN531J			
経済系列		備 考	
科 目 名	計量経済学特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　水野　勝之		

授業の概要・到達目標

目標

計量経済学の実際のペーパーを書くための学習を行い，それを通じて各自の論文に計量経済学分析を入れるコツを習得する。

内容

国内学生の場合は日本または国際経済の計量経済分析を，留学生の場合は自国の経済の計量経済分析を行う。

・計量経済分析の方法について指導する。
・論文の書き方について指導する。
・データの加工方法について指導する。
・学会報告でのプレゼンの方法について指導する。

到達目標

授業で作ったペーパーを実際に学会で報告する。

授業内容

計量経済学のペーパーの作成を行う。

ねらい

○計量経済学の基礎を学ぶ。
○計量経済学の用語を英文で学ぶ。
○専門の英書の読み方を身につける。
○プレゼンの練習をする。＝学会報告ができる練習をする。

第1回　オリエンテーション
第2回　各自のテーマを決める。
第3回　各国の経済事情を分析する。(1)
第4回　各国の経済事情を分析する。(2)
第5回　分析テーマを絞る。(1)
第6回　分析テーマを絞る。(1)
第7回　ペーパーの骨子を作る。(1)
第8回　ペーパーの骨子を作る。(3)
第9回　ペーパーの骨子を作る。(1)
第10回　分析に必要なデータを収集する。(1)
第11回　分析に必要なデータを収集する。(2)
第12回　データを加工する。(1)
第13回　データを加工する。(2)
第14回　データを加工する。(3)

履修上の注意

各自のテーマに沿った計量経済分析を行い，ペーパーを作成する。

準備学習（予習・復習等）の内容

各自が独自のデータを用いて自主的に計算すること。

教科書

水野勝之著「テキスト計量経済学」中央経済出版社

参考書

成績評価の方法

授業中の報告内容を評価する。テーマ設定力，データ収集・加工力，英語力などを評価する。

ペーパー作成50%，オリジナリティの工夫20%，データ分析力20%，質疑が適切か10%

その他

科目ナンバー：(CO) ECN531J			
経済系列		備 考	
科 目 名	計量経済学特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　水野　勝之		

授業の概要・到達目標

目標

計量経済学の実際のペーパーを書くための学習を行い，それを通じて各自の論文に計量経済学分析を入れるコツを習得する。

内容

国内学生の場合は日本または国際経済の計量経済分析を，留学生の場合は自国の経済の計量経済分析を行う。

・計量経済分析の方法について指導する。
・論文の書き方について指導する。
・データの加工方法について指導する。
・学会報告でのプレゼンの方法について指導する。

到達目標

授業で作ったペーパーを実際に学会で報告する。

授業内容

計量経済学のペーパーの作成を行う。

ねらい

○計量経済学の基礎を学ぶ。
○計量経済学の用語を英文で学ぶ。
○専門の英書の読み方を身につける。
○プレゼンの練習をする。＝学会報告ができる練習をする。

第1回　オリエンテーション
第2回　計量経済モデルを構築する。(1)
第3回　計量経済モデルを構築する。(2)
第4回　計量経済モデルを構築する。(3)
第5回　計量経済モデルを計算する。(1)
第6回　計量経済モデルを計算する。(2)
第7回　計量経済モデルを計算する。(3)
第8回　学会報告アブストラクト作成（1）
第9回　学会報告アブストラクト作成（2）
第10回　学会ペーパー作成（1）
第11回　学会ペーパー作成（2）
第12回　学会ペーパー作成（3）
第13回　学会ペーパー作成（4）
第14回　学会報告練習

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

各自が独自のデータを用いて自主的に計算すること。

教科書

水野勝之「テキスト計量経済学」中央経済社

参考書

成績評価の方法

授業中の報告内容を評価する。テーマ設定力，データ収集・加工力，英語力などを評価する。

ペーパー作成50%，オリジナリティの工夫20%，データ分析力20%，質疑が適切か10%

その他

英語の専門書をも読む勉強とする。

科目ナンバー：(CO) ECN551J			
経済系列		備 考	
科 目 名	財政学特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　畑農　鋭矢		

授業の概要・到達目標

市場の失敗や政府の役割についての学部教科書的な理解を超えて，ある程度の数学的証明を理解することが目的である。

数学的手続きによって得られた仮説を実証分析に生かす方法についても展望し，関連分野の研究論文を読みこなす能力を身に付けたい。

授業内容

市場経済における政府の役割について，ミクロ経済学的側面を中心に関連文献を輪読する。

主なトピックは以下のとおりであるが，受講者の興味を勘案して取捨選択する。

第1回　財政学とミクロ経済学（講義形式）
第2回　市場の失敗（1）
第3回　市場の失敗（2）
第4回　市場の失敗（3）
第5回　市場の失敗（4）
第6回　市場の失敗（5）
第7回　社会保障（1）
第8回　社会保障（2）
第9回　社会保障（3）
第10回　社会保障（4）
第11回　課税論（1）
第12回　課税論（2）
第13回　課税論（3）
第14回　課税論（4）

履修上の注意

学部レベルの財政学・公共経済学およびミクロ経済学の知識を有することが望ましい。

数学の知識については必要に応じて解説するので，高校数学の知識があれば十分である。

準備学習（予習・復習等）の内容

ミクロ経済学とマクロ経済学の復習のための参考図書は以下のとおりである。

〈ミクロ経済学〉

安藤至大（2013）『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣ストゥディア。

ポール・クルーグマン/ロビン・ウェルス（2017）『クルーグマン　ミクロ経済学　第2版』東洋経済新報社。

神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社。

〈マクロ経済学〉

二神孝一（2017）『マクロ経済学入門 第3版』日本評論社。

福田慎一・照山博司（2016）『マクロ経済学・入門 第5版』有斐閣アルマ。

齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久（2016）『マクロ経済学 新版』有斐閣。

教科書

特定の教科書は使用しない。

受講者の興味を考慮して輪読文献を提示する。

参考書

佐藤主光（2018）『公共経済学15講』新世社。

林　正義・小川　光・別所俊一郎（2010）『公共経済学』有斐閣。

成績評価の方法

発表50％

授業への貢献50％

その他

科目ナンバー：(CO) ECN551J			
経済系列		備 考	
科 目 名	財政学特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　畑農　鋭矢		

授業の概要・到達目標

市場の失敗や政府の役割についての学部教科書的な理解を超えて，ある程度の数学的証明も含めて習得することが目標である。

また，経済理論から得られる知見を現実経済に適用し，実証研究につなげるための研究例についても学び，関連分野の研究論文を読みこなす能力を身に付けたい。

授業内容

市場経済における政府の役割について，マクロ経済学的側面を中心に関連文献を輪読する。

主なトピックは以下のとおりであるが，受講者の興味を勘案して取捨選択する。

第1回　財政学とマクロ経済学（講義形式）
第2回　成長理論（1）
第3回　成長理論（2）
第4回　成長理論（3）
第5回　成長理論（4）
第6回　成長理論（5）
第7回　財政赤字（1）
第8回　財政赤字（2）
第9回　財政赤字（3）
第10回　財政赤字（4）
第11回　財政支出（1）
第12回　財政支出（2）
第13回　財政支出（3）
第14回　財政支出（4）

履修上の注意

学部レベルの財政学・公共経済学およびマクロ経済学の知識を有することが望ましい。

数学の知識については必要に応じて解説するので，高校数学の知識があれば十分である。

準備学習（予習・復習等）の内容

ミクロ経済学とマクロ経済学の復習のための参考図書は以下のとおりである。

〈ミクロ経済学〉

安藤至大（2013）『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣ストゥディア。

ポール・クルーグマン/ロビン・ウェルス（2017）『クルーグマン　ミクロ　経済学　第2版』東洋経済新報社。

神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社。

〈マクロ経済学〉

二神孝一（2017）『マクロ経済学入門 第3版』日本評論社。

福田慎一・照山博司（2016）『マクロ経済学・入門 第5版』有斐閣アルマ。

齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久（2016）『マクロ経済学 新版』有斐閣。

教科書

特定の教科書は使用しない。

受講者の興味を考慮して輪読文献を提示する。

参考書

林　正義・小川　光・別所俊一郎（2010）『公共経済学』有斐閣。

佐藤主光（2018）『公共経済学15講』新世社。

チャールズ I. ジョーンズ（2011）『マクロ経済学 1 長期成長編』東洋経済新報社。

チャールズ I. ジョーンズ（2011）『マクロ経済学 2 短期変動編』東洋経済新報社。

成績評価の方法

発表50％

授業への貢献50％

その他

科目ナンバー：(CO) ECN541J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済政策論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　山田　知明		

授業の概要・到達目標

This is a first course in dynamic macroeconomic theory. The aim of the course is to acquaint students with topics in advanced macroeconomics that covers economic growth models, business cycle theories, and overlapping generations models, which are based on modern dynamic general equilibrium theory. To bridge the gap between theory and empirical, I also teach some computational methods in economics.

The final goal of this course is that students can solve dynamic general equilibrium models analytically/computationally by themselves and use the models for research purposes.

授業内容

1. Math. Preliminaries: Optimization
2. Math. Preliminaries: Lagrangean
3. Two Period Model
4. Infinite Horizon Model: Discrete-time
5. Infinite Horizon Model: Continuous-time
6. Optimal Growth Theory
7. Math. Preliminaries: Metric Space
8. Dynamic Programming (Deterministic)
9. Dynamic Programming (Stochastic)
10. General Equilibrium Models
11. Recursive (Partial) Equilibrium
12. Equilibrium with Complete Markets
13. Overlapping Generations Models
14. Fiscal Policy/Monetary Policy

履修上の注意

I assume to have a working knowledge in undergraduate level macroeconomics, microeconomics and mathematics such as linear algebra, real analysis, optimization theory and probability.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to read a textbook for mathematics for economics in advance.

For example,

1) Sydsaeter and Hammond (2008), Essential Mathematics for Economic Analysis, Prentice Hall.
2) Sydsaeter, Hammond, Seierstad and Strom (2008), Further Mathematics for Economic Analysis, Prentice Hall.
3) Kolmogorov and Fomin (1970), Introductory Real Analysis, Dover are strongly recommended.

教科書

Ljungqvist, Lars and Thomas J. Sargent (2012): Recursive Macroeconomic Theory, The MIT Press.

参考書

Acemoglu, Daron (2009): Introduction to Modern Economic Growth, Princeton University Press.

Heer, Burkhard and Alfred Maussner (2009): Dynamic General Equilibrium Modeling: Computational Methods and Applications, Springer.

Judd, Kenneth L. (1998): Numerical Methods in Economics, The MIT Press.

Stokey, Nancy L., Robert E. Lucas Jr., with E.C. Prescott (1989), Recursive Methods in Economic Dynamics, Harvard University Press.

Wickent, Michael (2012): Macroeconomic Theory: A Dynamic General Equilibrium Approach Second Edition, Princeton University Press.

成績評価の方法

The course grade will be a combination of a final exam (70%) and some problem set (30%).

その他

https://sites.google.com/site/tyamadaeconomics/

科目ナンバー：(CO)ECN541J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済政策論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　山田　知明		

授業の概要・到達目標

In this class, first, I will teach numerical methods in economics to solve several dynamic economic problems based on dynamic programming. Second, I will cover the state of the art quantitative dynamic macroeconomic models with heterogeneous agents. Students are required to compute dynamic general equilibrium models using software such as Fortran, Matlab, Python, Julia and R.

授業内容

This course covers modern quantitative economic models. To solve the models, we resort to numerical methods. I will teach numerical methods and coding skills in this course. The reading list is downloadable from my web.

1. Numerical Methods: Preliminary
2. Numerical Methods: Newton method
3. Numerical Methods: Nonlinear equation
4. Numerical Methods: Interpolation
5. Numerical Dynamic Programming (Deterministic)
6. Numerical Dynamic Programming (Stochastic)
7. Incomplete market: Aiyagari
8. Incomplete market: Huggett
9. Incomplete market: Krusell-Smith
10. Computing Transition Paths
11. Frontiers in Numerical Methods
12. Consumption Insurance
13. Self-insurance and Precautionary Saving
14. Limited Commitment

履修上の注意

I assume to have a working knowledge in undergraduate level macroeconomics, microeconomics and mathematics such as linear algebra, real analysis, optimization theory and probability.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to read a textbook for mathematics for economics in advance.

For example,

1) Sydsaeter and Hammond (2008), Essential Mathematics for Economic Analysis, Prentice Hall.
2) Sydsaeter, Hammond, Seierstad and Strom (2008), Further Mathematics for Economic Analysis, Prentice Hall.
3) Kolmogorov and Fomin (1970), Introductory Real Analysis, Dover are strongly recommended.

教科書

Ljungqvist, Lars and Thomas J. Sargent (2012): Recursive Macroeconomic Theory, The MIT Press.

参考書

Acemoglu, Daron (2009): Introduction to Modern Economic Growth, Princeton University Press.

Heer, Burkhard and Alfred Maussner (2009): Dynamic General Equilibrium Modeling: Computational Methods and Applications, Springer.

Judd, Kenneth L. (1998): Numerical Methods in Economics, The MIT Press.

Stokey, Nancy L., Robert E. Lucas Jr., with E.C. Prescott (1989), Recursive Methods in Economic Dynamics, Harvard University Press.

Wickent, Michael (2012): Macroeconomic Theory: A Dynamic General Equilibrium Approach Second Edition, Princeton University Press.

成績評価の方法

The course grade will be a combination of a final exam (70%) and some problem set (30%).

その他

https://sites.google.com/site/tyamadaeconomics/

科目ナンバー：(CO) ECN521J			
経済系列		備 考	
科 目 名	国際経済学特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		高浜　光信

授業の概要・到達目標

国際経済学は国際マクロ経済学と貿易理論に分けられるが，このうち国際マクロ経済学に関するいくつかの重要な基本的テーマを中心に解説する。商学研究科の授業であることも考慮して，講義はマクロ経済学の基本から国際マクロ経済学体系へとスムーズに移行できるよう丁寧に解説するが，内容的には最新の議論まで扱うつもりである。具体的な講義内容は下記のとおりである。なお，受講者は下記の諸テーマに関して後日配布する文献リストから1つないし2つを選択し，講義時間内にプレゼンテーションを行うことを義務づける。

授業内容

第1回　国際収支の理論1（国際収支表の見方）
第2回　国際収支の理論2（国際資金循環の考え方）
第3回　国際収支に関する理論1（弾力性アプローチ）
第4回　国際収支に関する理論2（アブソープション・アプローチ）
第5回　国際収支に関する理論3（ISバランス・アプローチ）
第6回　国際収支のダイナミクス（異時点間の最適化アプローチ）。
第7回　長期の開放マクロ経済モデル。
第8回　短期の開放マクロ経済モデル1。
第9回　短期の開放マクロ経済モデル2。
第10回　物価の伸縮性を考慮したマクロ経済体系。
第11回　為替相場決定に関する理論と実証1（購買力平価説）
第13回　為替相場決定に関する理論と実証2（資産アプローチ）
第14回　まとめ

履修上の注意

学部レベルのマクロ・ミクロ経済学の知識を前提とする。経済数学のレベルに関して特に前提条件は設けないが，講義と並行して学習することを強く勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

特定のテキストは使用しないが，この分野における上級テキストであるObstfeld and Rogoff（1996）はしばしば参照する。

参考書

Foundations of International Macroeconomics, Obstfeld, M. and K. Rogoff, MIT Press, 1996.
『国際金融の理論』(新国際金融テキスト1)，小川英治，藤田誠一編著，有斐閣，2008年。
『国際金融論のエッセンス』，高浜光信，高屋定美編著，文眞堂，2021年。
その他は，授業中に指示する。

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性70点，レポート30点の合計で評価する。

その他

プレゼンテーションの際には，他の受講者も予習を怠らないことを強く希望する。

科目ナンバー：(CO) ECN521J			
経済系列		備 考	
科 目 名	国際経済学特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		高浜　光信

授業の概要・到達目標

国際経済学特論Aの内容を受けて，近年発展の目覚しい国際マクロ経済学分野からいくつかのトピックを選択して解説する。同時に受講者には講義内で扱う各テーマに関して後日配布する文献リストから論文を選択し，それらの内容に関する詳細なプレゼンテーションを行うことを義務づける。具体的な講義内容は下記の通りである。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　通貨危機の理論と実証（通貨危機のモデル）
第3回　通貨危機の理論と実証（通貨危機と金融危機）
第4回　通貨統合の理論（最適通貨圏理論）
第5回　通貨統合の理論（新しい最適通貨圏理論）
第6回　通貨統合の理論（最適通貨圏の実証）
第7回　通貨統合の実際（ユーロ圏を中心に）
第8回　通貨統合の実際（ユーロ危機を中心に）
第9回　通貨統合の実際（アジア地域の金融協力）
第10回　グローバル・インバランス
第11回　リージョナル・インバランス2
第12回　国際通貨の選択と国際通貨制度改革1
第13回　国際通貨の選択と国際通貨制度改革(近年の動向)
第14回　まとめ

履修上の注意

国際経済特論Aを履修していることが望ましい。経済数学のレベルに関して特に前提条件は設けないが，講義と並行して学習することを強く勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

特定のテキストは使用せず，各テーマに関する重要な論文リストを配布する。

参考書

International Money and Finance, 3rd Edition Hallwood, C. P. and R. MacDonald, Blackwell, 2000.
International Macroeconomic Dynamics, Turnovsky, S. J., MIT Press, 1997.
Handbook of International Economics: Vol. 3, Grossman, G. M. and K. Rogoff, North Holland, 1997.
Foundations of International Macroeconomics, Obstfeld, M. and K. Rogoff, MIT Press, 1996.
『国際金融の理論』(新国際金融テキスト1)，小川英治，藤田誠一編著，有斐閣，2008年。

成績評価の方法

授業への貢献度70点，レポート30点の合計で評価する。

その他

各テーマに関しては報告者だけでなく，その他の受講者も予習を怠らないことを強く要望する。

科目ナンバー：(CO) MAN511J			
経済系列		備 考	
科 目 名	中小企業論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		熊澤　喜章

授業の概要・到達目標

産業革命は小経営を駆逐できなかった。小経営は19世紀以降，現在に至るまで，多くの国の多くの分野で主導的な経営形態となっている。この授業ではイギリス産業革命期のコヴェントリに焦点をあて，小経営がどのように残存していったかを，歴史具体的にたどっていく。

授業内容

第1回　Introduction
第2回　Four of the People of Coventry 1
第3回　Four of the People of Coventry 2
第4回　The City and its Politics 1
第5回　The City and its Politics 2
第6回　The Wages and Standard of Living of Ribbon Weavers 1
第7回　The Wages and Standard of Living of Ribbon Weavers 2
第8回　The Transformation of the Ribbon Trade 1
第9回　The Transformation of the Ribbon Trade 2
第10回　The Cottage Factory 1
第11回　The Cottage Factory 2
第12回　The struggle between the Cotage Factory and the Factory 1
第13回　The struggle between the Cotage Factory and the Factory 2
第14回　Epilogue

履修上の注意

歴史研究であるので，世界史の知識が必要となる。歴史的知識なしに受講しても，講義内容を理解できない。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書を熟読し，講義後にその内容を確認すること。

教科書

J. Prest, The Industrial Revolution in Coventry, Oxford, 1960.

参考書

P. Earle, The Making of the English Middle Class, Los Angeles, 1989.

A. Kidd and D. Nicholls (eds.), The Making of the British Middle Class?, Cornwall, 1998.

成績評価の方法

授業への参加態度100％で評価する。

その他

授業出席者の関心に応じて，講義内容は変更する場合がある。

科目ナンバー：(CO) MAN511J			
経済系列		備 考	
科 目 名	中小企業論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		熊澤　喜章

授業の概要・到達目標

産業革命は小経営を駆逐できなかった。小経営は19世紀以降，現在に至るまで，多くの国の多くの分野で主導的な経営形態となっている。この授業ではイギリスの中産階級に焦点をあて，ヨークシャーで中産階級がどのように生成していったかを，歴史具体的にたどっていく。

授業内容

第1回　Introduction
第2回　Theory and Methods
第3回　The Middling Sort and their World 1
第4回　The Middling Sort and their World 2
第5回　The Making of a Middle-Class Experience
第6回　Economic and Cultural Change in Halifax's Textile Industry 1
第7回　Economic and Cultural Change in Halifax's Textile Industry 2
第8回　Loans and Luxuries 1
第9回　Loans and Luxuries 2
第10回　Constructing the Public Sphere
第11回　Constructing the Private Sphere
第12回　The Middle Class and Their world
第13回　Implications and Speculations
第14回　Conclution

履修上の注意

歴史研究であるので，世界史の知識が必要となる。歴史的知識なしに受講しても，講義内容を理解できない。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書を熟読し，講義後にその内容を確認すること。

教科書

J. Smail, The Origins of Middle-Class Culture, London, 1994.

参考書

P. Earle, The Making of the English Middle Class, Los Angeles, 1989.

A. Kidd and D. Nicholls (eds.), The Making of the British Middle Class?, Cornwall, 1998.

成績評価の方法

授業への参加態度100％で評価する。

その他

授業出席者の関心に応じて，講義内容は変更する場合がある。

科目ナンバー：(CO) ECN521J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済学外国文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文献２
担 当 者	専任教授		高浜　光信

授業の概要・到達目標

国際マクロ経済学ないし通貨統合の理論に関する基本的文献を輪読する。通貨統合に関する文献の場合，内容は下記のとおりである。記述はそれほど難しくない。学部レベルのミクロ，マクロの知識があれば十分に読破できるレベルである。ただし，テキストの選択については，受講者と相談の上，柔軟に対応するつもりである。参考として，今年度用いる予定である，Grauwe（2020）の内容を挙げておく。基本的に１章を２回のペースで読んでいく予定である。

授業内容

第１回　Introduction
第２回　The Costs of a Common Currency（前半）
第３回　The Costs of a Common Currency（後半）
第４回　The Theory of Optimum Currency Areas: A Critique（前半）
第５回　The Theory of Optimum Currency Areas: A Critique（後半）
第６回　The Benefits of a Common Currency（前半）
第７回　The Benefits of a Common Currency（後半）
第８回　Costs and Benefits Compared（前半）
第９回　Costs and Benefits Compared（後半）
第10回　The Fragility of Incomplete Monetary Union（前半）
第11回　The Fragility of Incomplete Monetary Union（後半）
第12回　How to complete a Monetary Union（前半）
第13回　How to complete a Monetary Union（後半）
第14回　Summary

履修上の注意

学部レベルのマクロ，ミクロ経済学の知識があることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

Economics of Monetary Union, 13th editon, De Grauwe, P. Oxford Univ. Press, 2020.

参考書

授業中に指示する。

成績評価の方法

授業への貢献度80点，レポート20点の合計で評価する。

その他

受講者は予習を怠らないことを強く希望する。

科目ナンバー：(CO) ECN521J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済学外国文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文献２
担 当 者	専任教授		高浜　光信

授業の概要・到達目標

通貨統合の理論に関する基本的文献を輪読する，内容は下記のとおりである。記述はそれほど難しくない。学部レベルのミクロ，マクロの知識があれば十分に読破できるレベルであるが，奥は深い。基本的に１章を２回のペースで読んでいく予定である。

授業内容

第１回　Political Economy of Deconstructing the Eurozone（前半）
第２回　Political Economy of Deconstructing the Eurozone（後半）
第３回　The European Central Bank（前半）
第４回　The European Central Bank（後半）
第５回　Monetary Policy in the Eurozone（前半）
第６回　Monetary Policy in the Eurozone（後半）
第７回　Fiscal Policies in Monetary Unions（前半）
第８回　Fiscal Policies in Monetary Unions（後半）
第９回　The Euro and Financial Markets（前半）
第10回　The Euro and Financial Markets（後半）
第11回　最適通貨圏理論に関する文献の講読
第12回　新しい最適通貨圏理論に関する文献の講読
第13回　ユーロ危機に関する文献の購読
第14回　Conclusion

履修上の注意

学部レベルのマクロ，ミクロ経済学の知識があることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

Economics of Monetary Union, 13th editon, De Grauwe, P. Oxford Univ. Press, 2020.

参考書

授業中に指示する。

成績評価の方法

授業への貢献度80点，レポート20点の合計で評価する。

その他

受講者は予習を怠らないことを強く希望する。

科目ナンバー：(CO) CMM512J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業理論特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		竹村　正明

授業の概要・到達目標

本演習では，優れた理論研究を達成する方法論を議論します。理論研究とは，現象が生じるメカニズムについて理由を仮説にし，それを何らかの方法で証拠立てることを意味します。これが，理論と説明の違いです。理論研究を実施するためには，方法論を厳密にマスターできなければならないでしょう。本演習は，各方法論のテクニカルな技法を提供するわけではないですが，その基本的思考を理解します。

授業内容

第1回　理論研究とは何か
第2回　経済学の理論研究
第3回　経営学の理論研究
第4回　社会学の理論研究
第5回　心理学の理論研究
第6回　実証研究とは何か
第7回　経済学の実証研究
第8回　経営学の実証研究
第9回　社会学の実証研究
第10回　心理学の実証研究
第11回　多様化する方法論
第12回「方法論」論の陥穽
第13回　方法論の選択方法
第14回　方法論のトレーニング方法

履修上の注意

この演習は，講義ではなく討論を想定しています。受講生の発言が90％を占めるように設計します。予習なく参加することはできません。

準備学習（予習・復習等）の内容

本演習は，講義ではありません。議論の場になります。初回に作業手順を紹介しますが，演習各回の課題が示され，それに基づいて受講生が資料や証拠を集め，演習当日に紹介するという課業を想定しています。

教科書

以下の，3冊を読了しておいてください。講義で内容を解説することはありませんが，たびたび引用しますので，図書館から借りださずに，購入すべきだと考えます。
伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣，2001年
田村正紀『リサーチ・デザイン』白桃書房，2006年
ハワード・ベッカー『論文の技法』講談社，1996年

参考書

各講義で指示します。英語のジャーナルですので，本学の Web of Science のアカウントを取得しておいてください。

成績評価の方法

講義での発言　50％
タームペーパー　25％
期末試験　25％

その他

科目ナンバー：(CO) CMM512J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業理論特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		竹村　正明

授業の概要・到達目標

この演習では，実証研究を追試します。大学でのディシプリンにはいくつかのタイプの産出があります。理論研究，実証研究，歴史研究，あるいはフィールドワークです。この演習では，実証研究だけにフォーカスします。歴史研究やフィールドワークなどは射程外です。本演習2単位の時間で作成可能な実証研究を製作し，その方法を経験することが目標です。

授業内容

第1回　実証研究へのお誘い
第2回　事実の確認
第3回　仮説の開発
第4回　コンセプトの創造
第5回　コンセプトの測定
第6回　コンセプトの測量化
第7回　モデルの開発
第8回　次元の開発
第9回　指標の開発
第10回　アイテムの開発
第11回　リサーチサイトの選択
第12回　企画書の作成
第13回　サーベイの実施
第14回　集計と分析

履修上の注意

この演習は，講義ではなく討論を想定しています。受講生の発言が90％を占めるように設計します。予習なく参加することはできません。

準備学習（予習・復習等）の内容

実証研究の出発点は，なぜだろう，という問いかけです。そのためには，社会現象に関する事実が必要です。ここで事実とは，デュルケムのいう意味でのそれを想定しています。デュルケムの意味での（社会的）事実は『自殺論』（自殺というタイトルの場合もあります）を読んで，その意味を知っておいてください。講義の最初に，野中先生の（当時の）問題意識を紹介しますが，本演習の支配的な作業は，あくまでも受講生の報告です。できるだけ PPT（に準ずるものが適当で，紙媒体は不要だし配布もしない）で，華麗な報告をしてください。

教科書

以下の3冊は読了して講義に参加して下さい。内容を解説することはありませんが，たびたび引用しますので，図書館から借りだしをせず，購入することが必要です。
野中郁次郎『組織と市場』千倉書房
風呂勉『マーケティング・チャネル行動論』千倉書房
田村正紀『現代の市場戦略』日本経済新聞社

参考書

講義中に指示しますが，本学の Web of science からのダウンロードが中心になります。アカウントを獲得しておいてください。

成績評価の方法

講義での発言　50％
タームペーパー　25％
期末試験　25％

その他

科目ナンバー：(CO) CMM612J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業理論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		竹村　正明

授業の概要・到達目標

研究テーマの選択は，各学位論文の完成水準に決定的な影響を与えます。方法論がどんなに冴えていても，ビビッドでないテーマを選ぶと一生うだつの上がらない研究生活になります。わたくしは研究は自身の関心のみで成立するというスタンスではありますが，それでも，『文学部唯野教授』のいうように，読者２名（厳密には1.5名）の紀要論文にしかならないような研究テーマは，精神衛生上よいものではありません。研究仲間が最低10名ぐらいはいるようなテーマを選びたいものです。この演習では，最新の方法にもとづいて論文を描き上げることが目標です。受講生は各自のテーマを特定し，毎回，何らかの報告を行い，論考を仕上げていきます。

授業内容

第１回　研究テーマの選択
第２回　研究テーマの特定
第３回　特定テーマのレビュー
第４回　テーマの深化
第５回　関連資料のレビュー
第６回　方法論の特定
第７回　調査の設計
第８回　リサーチサイトの選択
第９回　企画書の作成
第10回　代替案の作成
第11回　調査の報告
第12回　追加調査の設計
第13回　構成の修正
第14回　校正・印刷

履修上の注意

この演習は，講義は特にありません。受講生の関心と進捗によって各回の内容が異なることがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究報告が課題です。毎回毎回，受講生全員が発表し，全員と質疑応答をします。学会発表を想定するとよいと思います。

教科書

田村正紀『リサーチ・デザイン』白桃書房
Blaikie, Norman (2010), Designing Social Research, 2nd Edition, Polity Press.

参考書

講義中に指示します。

成績評価の方法

講義中の報告50％
論文仕上がりの程度30％
論文の影響度20％

その他

科目ナンバー：(CO) CMM612J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業理論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		竹村　正明

授業の概要・到達目標

近年の情報技術革新を背景に，理論のない主張や枠組みを持たない分析（らしき言説）が，いたるところで読めるようになってきた。それらは，その主張者の見てくれも作用し，支配的な主張とは異なる内容を持っているかのように読めなくもないので，あたかも斬新で，場合によっては新しい理論のような社会的な認知を受けている。残念ながら，それらのアジテートは，理論もなく，主張としても数年前にはやったことを繰り返しているに過ぎないことが多い。本講義は，そういうった理論なき主張を取り上げ，何が不足しているのか，何があれば新しい理論になるのかを，具体例とともに受講者と検討することを課題とする。本講義の到達目標は，理論開発こそが学者の仕事であり，感想や印象を批判的に語ることではないと実感できるようになることである。

授業内容

第１回　研究テーマの選択と議論
第２回　研究テーマの関連領域の検討
第３回　リサーチサイトへのアクセサビリティの調査
第４回　既存研究のレビュー
第５回　既存研究の問題点
第６回　問題点の進化方法の戦略的検討
第７回　問題点の解決方法の特定
第８回　方法論の選択
第９回　方法論のレビュー
第10回　論文の構成の確定
第11回　構成の加筆と修正
第12回　研究進捗報告
第13回　論文の修正
第14回　ゲラの校正

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

本演習は，特定の講義はありません。受講生の研究テーマに従って，論文を完成させるための手順を示している。受講生は，毎回特定のテーマについて報告を義務付けられます。

教科書

内田樹『街場の共同体論』潮出版
津田大介『未来を変える情報の呼吸法』角川書店
常見陽平『意識高い系という病』ベストセラーズ
浜矩子『浜矩子の歴史に学ぶ経済集中講義』集英社
古市憲寿『絶望の国の幸福な若者たち』講談社

参考書

講義中に指示します。

成績評価の方法

各回の報告　50％
報告の内容　30％
報告の達成水準　20％

その他

科目ナンバー：(CO) CMM542J			
商業系列		備 考	
科 目 名	日本流通史特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　商学博士　　若林　幸男		

授業の概要・到達目標

日本の流通・交通・通信・教育等インフラシステムの史的分析を通じて，日本経済の特殊性について外国と比較可能なレベルまでの認識に高めることを本講義の目的とし，同時に到達目標とする。

授業内容

戦中，戦後の流通業界の大きな転換を，戦時の経済政策，特に経済新体制による統制経済の実施，大店法の施行，その後の商店街へのアーケード類補助などの流通政策史を機軸に観察する視点を確定し，これにより，経済各セグメントにおける流通の変化を分析したい。

従来経済の暗黒大陸と言われていた流通部面は，歴史的分析による客観的な事実認識を構築する科学的メスが入ることが少なかった。そのため，一概に問屋や卸を悪玉にする「問屋無用論」や，製販統合への無批判的な賛意，メーカーによる販売チャンネル構築と消費者のニーズの合致という不思議な仮説が論証されることなく一人歩きしてしまった。

本演習では，これらの欠陥を一つでも多く克服すべく，学生と一緒に，理論仮説の構築と実証分析のための現地踏査調査を含めた研究活動を予定したい。以下が授業の主な内容である。

第１回　修士論文作成に向けて（1）
第２回　修士論文作成に向けて（2）
第３回　発表とその検討・評価（1）
第４回　発表とその検討・評価（2）
第５回　発表とその検討・評価（3）
第６回　発表とその検討・評価（4）
第７回　発表とその検討・評価（5）
第８回　発表とその検討・評価（6）
第９回　グループ学習（1）
第10回　グループ学習（2）
第11回　グループ学習（3）
第12回　グループ学習（4）
第13回　グループ学習現地踏査（1）
第14回　グループ学習現地踏査（2）

履修上の注意

履修に際しては，まず，自分の関心を明確に表現すること，そして，さらに探求の姿勢を示すこと，これにより，指導のポイントが明確に浮かびあがるため，常に問題意識の「表現」に心がけてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

本講義の準備については，テドロー著『マスマーケティング史』，石井寛治『日本流通史』などの基本的な著書をあらかじめ読破し，予習しておくことをお勧めする。

教科書

特に指定しないが，年度単位で設定される調査項目にそったテーマに関係する諸文献は読破を必須とする。

参考書

教科書と同様である。

成績評価の方法

各位の研究の進展と講師の指導姿勢を相互評価して決定する。(50対50)

その他

科目ナンバー：(CO) CMM542J			
商業系列		備 考	
科 目 名	日本流通史特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　商学博士　　若林　幸男		

授業の概要・到達目標

日本の流通・交通・通信・教育等インフラシステムの史的分析を通じて，日本経済の特殊性について外国と比較可能なレベルまでの認識に高めることを本講義の目的とし，同時に到達目標とする。

授業内容

戦中，戦後の流通業界の大きな転換を，戦時の経済政策，特に経済新体制による統制経済の実施，大店法の施行，その後の商店街へのアーケード類補助などの流通政策史を機軸に観察する視点を確定し，これにより，経済各セグメントにおける流通の変化を分析したい。

従来経済の暗黒大陸と言われていた流通部面は，歴史的分析による客観的な事実認識を構築する科学的メスが入ることが少なかった。そのため，一概に問屋や卸を悪玉にする「問屋無用論」や，製販統合への無批判的な賛意，メーカーによる販売チャンネル構築と消費者のニーズの合致という不思議な仮説が論証されることなく一人歩きしてしまった。

本演習では，これらの欠陥を一つでも多く克服すべく，学生と一緒に，理論仮説の構築と実証分析のための現地踏査調査を含めた研究活動を予定したい。以下が授業の主な内容である。

第１回　修士論文の中間報告（1）
第２回　修士論文の中間報告（2）
第３回　修士論文の中間報告（3）
第４回　修士論文の中間報告（4）
第５回　修士論文の中間報告（5）
第６回　修士論文の中間報告（6）
第７回　テーマ学習（1）
第８回　テーマ学習（2）
第９回　修士論文のためのアンケート調査票作成（1）
第10回　修士論文のためのアンケート調査票作成（2）
第11回　修士論文のためのアンケート調査票作成（3）
第12回　修士論文のためのアンケート調査票作成（4）
第13回　修士論文のためのアンケート調査票作成（5）
第14回　修士論文のためのアンケート調査票作成（6）

履修上の注意

履修に際しては，まず，自分の関心を明確に表現すること，そして，さらに探求の姿勢を示すこと，これにより，指導のポイントが明確に浮かびあがるため，常に問題意識の「表現」に心がけてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

石井寛治『近代日本流通史』東京堂などの文献は読破しておいてもらいたい。

教科書

特に指定しないが，年度単位で設定される調査項目にそったテーマに関係する諸文献は読破を必須とする。

参考書

教科書と同様である。

成績評価の方法

各位の研究の進展と講師の指導姿勢を相互評価して決定する。(50対50)

その他

科目ナンバー：(CO) CMM642J			
商業系列		備 考	
科 目 名	日本流通史特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　商学博士　　若林　幸男		

授業の概要・到達目標

日本の流通・交通・通信・教育等インフラシステムの史的分析を通じて，日本経済の特殊性について外国と比較可能なレベルまでの認識に高めることを本講義の目的とし，同時に到達目標とする。

授業内容

戦中，戦後の流通業界の大きな転換を，戦時の経済政策，特に経済新体制による統制経済の実施，大店法の施行，その後の商店街へのアーケード類補助などの流通政策史を機軸に観察する視点を確定し，これにより，経済各セグメントにおける流通の変化を分析したい。

従来経済の暗黒大陸と言われていた流通部面は，歴史的分析による客観的な事実認識を構築する科学的メスが入ることが少なかった。そのため，一概に問屋や卸を悪玉にする「問屋無用論」や，製販統合への無批判的な賛意，メーカーによる販売チャンネル構築と消費者のニーズの合致という不思議な仮説が論証されることなく一人歩きしてしまった。

本演習では，これらの欠陥を一つでも多く克服すべく，学生と一緒に，理論仮説の構築と実証分析のための現地踏査調査を含めた研究活動を予定したい。以下が授業の主な内容である。

第1回　修士論文作成に向けて（1）
第2回　修士論文作成に向けて（2）
第3回　発表とその検討・評価（1）
第4回　発表とその検討・評価（2）
第5回　発表とその検討・評価（3）
第6回　発表とその検討・評価（4）
第7回　発表とその検討・評価（5）
第8回　発表とその検討・評価（6）
第9回　調査結果加工（1）
第10回　調査結果加工（2）
第11回　調査結果加工（3）
第12回　調査結果加工（4）
第13回　調査結果加工（5）
第14回　調査結果加工（6）

履修上の注意

履修に際しては，まず，自分の関心を明確に表現すること，そして，さらに探求の姿勢を示すこと，これにより，指導のポイントが明確に浮かびあがるため，常に問題意識の「表現」に心がけてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

『マーケティング戦略』有斐閣などの書物を読破しておくこと

教科書

特に指定しないが，年度単位で設定される調査項目にそったテーマに関係する諸文献は読破を必須とする。

参考書

教科書と同様である。

成績評価の方法

各位の研究の進展と講師の指導姿勢を相互評価して決定する。(50対50)

その他

科目ナンバー：(CO) CMM642J			
商業系列		備 考	
科 目 名	日本流通史特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　商学博士　　若林　幸男		

授業の概要・到達目標

日本の流通・交通・通信・教育等インフラシステムの史的分析を通じて，日本経済の特殊性について外国と比較可能なレベルまでの認識に高めることを本講義の目的とし，同時に到達目標とする。

授業内容

戦中，戦後の流通業界の大きな転換を，戦時の経済政策，特に経済新体制による統制経済の実施，大店法の施行，その後の商店街へのアーケード類補助などの流通政策史を機軸に観察する視点を確定し，これにより，経済各セグメントにおける流通の変化を分析したい。

従来経済の暗黒大陸と言われていた流通部面は，歴史的分析による客観的な事実認識を構築する科学的メスが入ることが少なかった。そのため，一概に問屋や卸を悪玉にする「問屋無用論」や，製販統合への無批判的な賛意，メーカーによる販売チャンネル構築と消費者のニーズの合致という不思議な仮説が論証されることなく一人歩きしてしまった。

本演習では，これらの欠陥を一つでも多く克服すべく，学生と一緒に，理論仮説の構築と実証分析のための現地踏査調査を含めた研究活動を予定したい。以下が授業の主な内容である。

第1回　修士論文の中間報告（1）
第2回　修士論文の中間報告（2）
第3回　修士論文の中間報告（3）
第4回　修士論文の中間報告（4）
第5回　修士論文の中間報告（5）
第6回　修士論文の中間報告（6）
第7回　テーマ学習（1）
第8回　テーマ学習（2）
第9回　修士論文の最終報告（1）
第10回　修士論文の最終報告（2）
第11回　修士論文の最終報告（3）
第12回　修士論文の最終報告（4）
第13回　修士論文の最終報告（5）
第14回　修士論文の最終報告（6）

履修上の注意

履修に際しては，まず，自分の関心を明確に表現すること，そして，さらに探求の姿勢を示すこと，これにより，指導のポイントが明確に浮かびあがるため，常に問題意識の「表現」に心がけてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

『マーケティング戦略』有斐閣などの書物を読破しておくこと

教科書

特に指定しないが，年度単位で設定される調査項目にそったテーマに関係する諸文献は読破を必須とする。

参考書

教科書と同様である。

成績評価の方法

各位の研究の進展と講師の指導姿勢を相互評価して決定する。(50対50)

その他

科目ナンバー：(CO) CMM542J			
商業系列		備 考	
科 目 名	流通システム論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　Dr. rer. pol.　原　頼利		

授業の概要・到達目標
流通論の基礎を学びます。研究の進め方，研究論文の書き方についても学習します。

授業内容
第１回　流通研究の意義
第２回　流通論のテキストの輪読
第３回　流通論のテキストの輪読
第４回　流通論のテキストの輪読
第５回　流通論のテキストの輪読
第６回　流通にかかわる事例分析
第７回　流通にかかわる事例分析
第８回　流通に関する研究書の輪読
第９回　流通に関する研究書の輪読
第10回　流通に関する研究書の輪読
第11回　流通に関する研究書の輪読
第12回　研究の進め方
第13回　研究の進め方
第14回　研究論文の書き方

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容
研究論文を講読する際は担当者を決めて，内容をまとめたものをプレゼンテーションしてもらいます。英文論文の場合は，担当者には全訳もしてもらいます。

教科書
適宜指示します。

参考書
適宜指示します。

成績評価の方法
授業への参加態度60％と授業でのプレゼンテーション（回数と質）40％で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM542J			
商業系列		備 考	
科 目 名	流通システム論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　Dr. rer. pol.　原　頼利		

授業の概要・到達目標
学術論文に掲載されている流通チャネルや B2B マーケティングに関する学術論文の講読を通じて，先行研究レビューの方法，分析の方法(データ収集およびデータ解析)，分析結果の解釈の方法について学びます。分析方法については，量的研究および質的研究の両方が行えるようになることを目標にしています。

授業内容
第１回　経験的研究（量的研究）の概要
第２回　経験的研究（質的研究）の概要
第３回　垂直統合に関する研究論文輪読
第４回　垂直統合に関する研究論文輪読
第５回　B2B に関する研究論文輪読
第６回　B2B に関する研究論文輪読
第７回　信頼およびコミットメント概念に関する研究論文輪読
第８回　信頼およびコミットメント概念に関する研究論文輪読
第９回　組織学習に関する研究論文輪読
第10回　組織学習に関する研究論文輪読
第11回　正当性（Legitimacy）に関する研究論文輪読
第12回　正当性（Legitimacy）に関する研究論文輪読
第13回　組織ディスコースに関する研究論文輪読
第14回　組織ディスコースに関する研究論文輪読

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容
研究論文を講読する際は担当者を決めて，内容をまとめたものをプレゼンテーションしてもらいます。英文論文の場合は，担当者には全訳もしてもらいます。

教科書
適宜指示します。

参考書
適宜指示します。

成績評価の方法
授業への参加態度60％と授業でのプレゼンテーション（回数と質）40％で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM642J			
商業系列		備 考	
科 目 名	流通システム論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Dr. rer. pol.　原　頼利		

授業の概要・到達目標

流通チャネル研究におけるいくつかのアプローチに関する研究論文を輪読します。研究論文の講読を通じて，論理的な思考を身につけ，修士論文の執筆に必要な知識である研究論文の書き方について学びます。

授業内容

第1回　取引費用アプローチの研究論文輪読
第2回　取引費用アプローチの研究論文輪読
第3回　取引費用アプローチの研究論文輪読
第4回　関係的交換アプローチの研究論文輪読
第5回　関係的交換アプローチの研究論文輪読
第6回　関係的交換アプローチの研究論文輪読
第7回　ケイパビリティ・アプローチの研究論文輪読
第8回　ケイパビリティ・アプローチの研究論文輪読
第9回　ケイパビリティ・アプローチの研究論文輪読
第10回　受講生の研究テーマに関する研究論文輪読
第11回　受講生の研究テーマに関する研究論文輪読
第12回　受講生の研究テーマに関する研究論文輪読
第13回　受講生の研究テーマに関する研究論文輪読
第14回　受講生の研究テーマに関する研究論文輪読

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

研究論文を講読する際は担当者を決めて，内容をまとめたものをプレゼンテーションしてもらいます。英文論文の場合は，担当者には全訳もしてもらいます。

教科書

適宜指示します。

参考書

適宜指示します。

成績評価の方法

授業への参加態度60％と授業でのプレゼンテーション（回数と質）40％で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM642J			
商業系列		備 考	
科 目 名	流通システム論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Dr. rer. pol.　原　頼利		

授業の概要・到達目標

修士論文の執筆のための指導を行ないます。学生が各自の研究テーマに関する研究報告を行ない，教員および参加学生からの助言を受けます。

授業内容

第1回　修士論文の概要報告
第2回　修士論文の概要報告
第3回　修士論文の概要報告
第4回　テーマに関する先行研究の報告
第5回　テーマに関する先行研究の報告
第6回　テーマに関する先行研究の報告
第7回　研究の方法についての報告
第8回　研究の方法についての報告
第9回　研究の方法についての報告
第10回　研究成果の報告
第11回　研究成果の報告
第12回　研究成果の報告
第13回　修士論文の添削
第14回　修士論文の添削

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文の作成を計画的に行ってください。

教科書

適宜指示します。

参考書

適宜指示します。

成績評価の方法

授業でのプレゼンテーション（回数と質）40％と修士論文の研究の質60％で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業理論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		竹村　正明

授業の概要・到達目標

商業理論構築のための方法論について輪読を中心に議論を行う。理論は，ある商業現象がなぜ生じるのか，そのメカニズムの特定と実証的な証拠を示すことである。それには特定の作法があり，科学的研究論文を仕上げるためには，そのマスターが必要である。本特論では，そのマスターを目指す。

授業内容

第1回　よい研究とは何か
第2回　理論とは何か
第3回　理論の構成要素とその関係
第4回　実証研究とは何か
第5回　実証研究の構成要素とその関係
第6回　良い実証研究の鑑賞
第7回　実証研究の設計
第8回　実証研究の実施手順作成
第9回　リサーチサイトの特定
第10回　リサーチサイトへの企画書提出
第11回　調査報告
第12回　調査内容と理論の関係の特定
第13回　仮説の修正
第14回　修正原稿の完成

履修上の注意

この特論は，主に受講生の報告によって構成される。特定の講義は行わない。そのため，受講生は毎回特定の課題について報告が，全員に課せられる。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストを熟読することが必要条件です。それに基づいて受講生が報告をしますが，学生の話はまとめといってもそうでないことが多いので，その都度，質問をしたり，論理を確認したりして，その報告自体もエレガントになるように努めましょう。

教科書

沼上幹『行為の経営学』白桃書房

参考書

講義中に指示します。

成績評価の方法

各回の報告　50%
タームペーパー　30%
期末試験　20%

その他

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業理論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		竹村　正明

授業の概要・到達目標

優れた研究論文を書くための方法論を輪読し，各自作成する。

授業内容

第1回　優れた研究とは何か
第2回　優れた研究のコツ
第3回　研究テーマの選択方法
第4回　研究テーマの特定
第5回　リサーチサイトへのアクセス方法
第6回　リサーチサイトへの企画書の作成
第7回　仮説の開発
第8回　取材の実施
第9回　調査報告
第10回　仮説の修正
第11回　報告書の作成
第12回　研究論文の発表
第13回　論文の修正
第14回　ゲラの校正

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

本講義は，受講生の何らかの報告が中心に構成されます。特定の講義はありません。受講生は毎回何らかの課題について報告を義務付けられます。

教科書

川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房

参考書

講義中に指示します。

成績評価の方法

講義中の報告　50%
タームペーパー　30%
期末試験　20%

その他

科目ナンバー：(CO) CMM541J			
商業系列		備 考	
科 目 名	日本流通史特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　商学博士　　若林　幸男		

授業の概要・到達目標

日本の流通・交通・通信・教育等インフラシステムの史的分析を通じて，日本経済の特殊性について外国と比較可能なレベルまでの認識に高めることを本講義の目的とし，同時に到達目標とする。

授業内容

戦中，戦後の流通業界の大きな転換を，戦時の経済政策，特に経済新体制による統制経済の実施，大店法の施行，その後の商店街へのアーケード類補助などの流通政策史を機軸に観察する視点を確定し，これにより，経済各セグメントにおける流通の変化を分析したい。

従来経済の暗黒大陸と言われていた流通部面は，歴史的分析による客観的な事実認識を構築する科学的メスが入ることが少なかった。そのため，一概に問屋や卸を悪玉にする「問屋無用論」や，製販統合への無批判的な賛意，メーカーによる販売チャンネル構築と消費者のニーズの合致という不思議な仮説が論証されることなく一人歩きしてしまった。

本講義では，これらの欠陥を一つでも多く克服すべく，学生と一緒に，理論仮説の構築と実証分析のための現地踏査調査を含めた研究活動を予定したい。以下が授業の主な内容である。

第1回　修士論文作成に向けて（1）
第2回　修士論文作成に向けて（2）
第3回　発表とその検討・評価（1）
第4回　発表とその検討・評価（2）
第5回　発表とその検討・評価（3）
第6回　発表とその検討・評価（4）
第7回　発表とその検討・評価（5）
第8回　発表とその検討・評価（6）
第9回　グループ学習（1）
第10回　グループ学習（2）
第11回　グループ学習（3）
第12回　グループ学習（4）
第13回　グループ学習現地踏査（1）
第14回　グループ学習現地踏査（2）

履修上の注意

履修に際しては，まず，自分の関心を明確に表現すること，そして，さらに探求の姿勢を示すこと，これにより，指導のポイントが明確に浮かびあがるため，常に問題意識の「表現」に心がけてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

『マーケティング戦略』有斐閣などの書物を読破しておくこと

教科書

特に指定しないが，年度単位で設定される調査項目にそったテーマに関係する諸文献は読破を必須とする。

参考書

教科書と同様である。

成績評価の方法

各位の研究の進展と講師の指導姿勢を相互評価して決定する。(50対50)

その他

科目ナンバー：(CO) CMM541J			
商業系列		備 考	
科 目 名	日本流通史特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　商学博士　　若林　幸男		

授業の概要・到達目標

日本の流通・交通・通信・教育等インフラシステムの史的分析を通じて，日本経済の特殊性について外国と比較可能なレベルまでの認識に高めることを本講義の目的とし，同時に到達目標とする。

授業内容

日本流通史特論Aに引き続き，経済各セグメントにおける流通の変化を相対的に分析したい。

従来経済の暗黒大陸と言われていた流通部面は，歴史的分析による客観的な事実認識を構築する科学的メスが入ることが少なかった。そのため，一概に問屋や卸を悪玉にする「問屋無用論」や，製販統合への無批判的な賛意，メーカーによる販売チャンネル構築と消費者のニーズの合致という不思議な仮説が論証されることなく一人歩きしてしまった。

本講義では，これらの欠陥を一つでも多く克服すべく，学生と一緒に，理論仮説の構築と実証分析のための現地踏査調査を含めた研究活動を予定したい。以下が授業の主な内容である。

第1回　修士論文の中間報告（1）
第2回　修士論文の中間報告（2）
第3回　修士論文の中間報告（3）
第4回　修士論文の中間報告（4）
第5回　修士論文の中間報告（5）
第6回　修士論文の中間報告（6）
第7回　テーマ学習（1）
第8回　テーマ学習（2）
第9回　修士論文のためのテーマ学習（1）
第10回　修士論文のためのテーマ学習（2）
第11回　修士論文のためのテーマ学習（3）
第12回　修士論文のためのテーマ学習（4）
第13回　修士論文のためのテーマ学習（5）
第14回　修士論文のためのテーマ学習（6）

履修上の注意

履修に際しては，まず，自分の関心を明確に表現すること，そして，さらに探求の姿勢を示すこと，これにより，指導のポイントが明確に浮かびあがるため，常に問題意識の「表現」に心がけてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

『マーケティング戦略』有斐閣などの書物を読破しておくこと

教科書

特に指定しないが，年度単位で設定される調査項目にそったテーマに関係する諸文献は読破を必須とする。

参考書

教科書と同様である。

成績評価の方法

各位の研究の進展と講師の指導姿勢を相互評価して決定する。(50対50)

その他

科目ナンバー：(CO) CMM541J			
商業系列		備 考	
科 目 名	流通システム論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Dr. rer. pol.　原　頼利		

授業の概要・到達目標

流通チャネルにおける企業境界の問題に焦点を当てます。企業はどのような条件の下で垂直統合（またはアウトソーシング）を行なうのかに関する理解を深めます。流通チャネルにおける企業境界の問題については，主に新制度派経済学による研究が行なわれています。それに関する研究論文の講読を中心に行ないます。

授業内容

第1回　流通チャネルとは
第2回　垂直統合
第3回　アウトソーシング
第4回　戦略提携
第5回　取引費用理論（概論）
第6回　取引費用理論（チャネル研究への応用）
第7回　財産権理論（概論）
第8回　財産権理論（チャネル研究への応用）
第9回　エージェンシー理論（概論）
第10回　エージェンシー理論（チャネル研究への応用）
第11回　資源ベース理論（概論）
第12回　資源ベース理論（チャネル研究への応用）
第13回　ダイナミック・ケイパビリティ理論（概論）
第14回　ダイナミック・ケイパビリティ理論（チャネル研究への応用）

履修上の注意

学部でマーケティング，経営学，及び経済学に関連する科目を履修していることが望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究論文を講読する際は担当者を決めて，内容をまとめたものをプレゼンテーションしてもらいます。英文論文の場合は，担当者には全訳もしてもらいます。

教科書

適宜指示します。

参考書

渡辺達朗・久保知一・原頼利 編『流通チャネル論』有斐閣

成績評価の方法

授業への参加態度60％と授業でのプレゼンテーション（回数と質）40％で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM541J			
商業系列		備 考	
科 目 名	流通システム論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Dr. rer. pol.　原　頼利		

授業の概要・到達目標

流通業者の経営戦略およびメーカーのチャネル戦略について学びます。また，メーカーと流通業者における協働的な関係についても取り上げます。流通チャネルにおける組織行動についての理解を深めます。流通業者の経営戦略，メーカーのチャネル戦略，流通業者とメーカーの協働関係に関する研究論文の講読を中心に行ないます。

授業内容

第1回　流通チャネルを構成する組織（概論）
第2回　流通チャネルを構成する組織（発展）
第3回　小売業者の経営戦略（概論）
第4回　小売業者の経営戦略（発展）
第5回　卸売業者の経営戦略（概論）
第6回　卸売業者の経営戦略（発展）
第7回　メーカーのチャネル戦略（概論）
第8回　メーカーのチャネル戦略（発展）
第9回　物流業者の経営戦略（概論）
第10回　物流業者の経営戦略（発展）
第11回　流通業者とメーカーとの協働関係（概論）
第12回　流通業者とメーカーとの協働関係（発展）
第13回　企業間におけるコミットメントと信頼（概論）
第14回　企業間におけるコミットメントと信頼（発展）

履修上の注意

学部でマーケティング，経営学，及び経済学に関連する科目を履修していることが望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究論文を講読する際は担当者を決めて，内容をまとめたものをプレゼンテーションしてもらいます。英文論文の場合は，担当者には全訳もしてもらいます。

教科書

適宜指示します。

参考書

適宜指示します。

成績評価の方法

授業への参加態度60％と授業でのプレゼンテーション（回数と質）40％で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) MAN522J			
経営系列		備 考	
科 目 名	生産管理論特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　富野　貴弘		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
　現代の製造企業の技術戦略，経営戦略，イノベーション等に関連した研究を行う。履修者の問題関心に沿った「ものづくりと経営学」に関連する研究テーマにもとづき指導（発表指導，論文執筆指導，フィールドワーク指導）をする。なお，本演習では，フィールドワーク（国内外問わず）を通じた研究が必須となる。
〈到達目標〉
　経営学と生産管理論に関する理論の習得および，それを応用した製造企業の経営現象の分析と論文執筆ができるようになること。

授業内容

第1回　個々の研究内容，今後の研究の進め方に関する話し合い。
第2回　生産管理の基本文献輪読その（1）
第3回　生産管理の基本文献輪読その（2）
第4回　サプライチェーンマネジメントに関する文献輪読その（1）
第5回　サプライチェーンマネジメントに関する文献輪読その（2）
第6回　製品開発に関する文献輪読その（1）
第7回　製品開発に関する文献輪読その（2）
第8回　イノベーションに関する文献輪読その（1）
第9回　イノベーションに関する文献輪読その（2）
第10回　製品開発アーキテクチャに関する文献輪読その（1）
第11回　製品開発アーキテクチャに関する文献輪読その（2）
第12回　研究テーマ選定指導その（1）
第13回　研究テーマ選定指導その（2）
第14回　フィールドワーク指導

履修上の注意

　履修者は，経営学に関する基礎的な知識と理論を習得していることを前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容

　下記の文献を事前に読んでおくこと。
『生産管理の基本』富野貴弘著（日本実業出版社）2017年
『生産マネジメント入門』藤本隆宏著（日本経済新聞社）2001年

教科書

『生産システムの市場適応力』富野貴弘著（同文館出版）2012年
『増補版　製品開発力』藤本隆宏，キム・B・クラーク著（ダイヤモンド社）2009年
『ビジネス・アーキテクチャ』藤本隆宏・武石彰・青島矢一編（有斐閣）2001年

参考書

『日本のものづくりの底力』藤本隆宏，新宅純二郎，青島矢一編著（東洋経済新報社）2015年
『メイド・イン・ジャパンは終わるのか』青島矢一，武石彰，マイケル・A・クスマノ編著（東洋経済新報社）2010年

成績評価の方法

　出席態度（50%），研究発表内容（50%）

その他

科目ナンバー：(CO) MAN522J			
経営系列		備 考	
科 目 名	生産管理論特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　富野　貴弘		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
　現代の製造企業の技術戦略，経営戦略，イノベーション等に関連した研究を行う。履修者の問題関心に沿った「ものづくりと経営学」に関連する研究テーマにもとづき指導（発表指導，論文執筆指導，フィールドワーク指導）をする。なお，本演習では，フィールドワーク（国内外問わず）を通じた研究が必須となる。
〈到達目標〉
　経営学と生産管理論に関する理論の習得および，それを応用した製造企業の経営現象の分析と論文執筆ができるようになること。

授業内容

第1回　フィールドワーク発表その（1）
第2回　フィールドワーク発表その（2）
第3回　製品の付加価値創出に関する文献輪読その（1）
第4回　製品の付加価値創出に関する文献輪読その（2）
第5回　製品デザインと競争力に関する文献輪読その（1）
第6回　製品デザインと競争力に関する文献輪読その（2）
第7回　国際分業に関する文献輪読その（1）
第8回　国際分業に関する文献輪読その（2）
第9回　マザー工場制に関する文献輪読
第10回　研究発表指導その（1）
第11回　研究発表指導その（2）
第12回　研究発表指導その（3）
第13回　研究発表指導その（4）
第14回　研究発表指導その（5）

履修上の注意

　履修者は，経営学に関する基礎的な知識と理論を習得していることを前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容

　下記の文献を事前に読んでおくこと。
『MOT 技術経営入門』延岡健太郎著（日本経済新聞社）2006年

教科書

『価値づくりの経営の論理』延岡健太郎著（日本経済新聞出版社）2011年
『経営学者が書いたデザインマネジメントの教科書』森永泰史著（同文館出版）2016年

参考書

『日本のものづくりの底力』藤本隆宏，新宅純二郎，青島矢一編著（東洋経済新報社）2015年
『メイド・イン・ジャパンは終わるのか』青島矢一，武石彰，マイケル・A・クスマノ編著（東洋経済新報社）2010年

成績評価の方法

　出席態度（50%），研究発表内容（50%）

その他

科目ナンバー：(CO) MAN622J			
経営系列		備 考	
科 目 名	生産管理論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　富野　貴弘		

授業の概要・到達目標
〈授業の概要〉
現代の製造企業の技術戦略，経営戦略，イノベーション等に関連した研究を行う。
〈授業の概要〉
履修者の問題関心に沿った「ものづくりと経営学」に関連する研究テーマにもとづき指導（発表指導，論文執筆指導，フィールドワーク指導）を行い最終的には修士論文の形にまとめる。なお，本演習ではフィールドワーク（国内外問わず）を通じた研究が必須となる。

授業内容
第1回　個々の研究内容，今後の研究の進め方に関する話し合い。
第2回　生産管理の基本文献輪読その（1）
第3回　生産管理の基本文献輪読その（2）
第4回　サプライチェーンマネジメントに関する文献輪読その（1）
第5回　サプライチェーンマネジメントに関する文献輪読その（2）
第6回　製品開発に関する文献輪読その（1）
第7回　製品開発に関する文献輪読その（2）
第8回　イノベーションに関する文献輪読その（1）
第9回　イノベーションに関する文献輪読その（2）
第10回　製品開発アーキテクチャに関する文献輪読その（1）
第11回　製品開発アーキテクチャに関する文献輪読その（2）
第12回　研究テーマ選定指導その（1）
第13回　研究テーマ選定指導その（2）
第14回　フィールドワーク指導

履修上の注意
履修者は，経営学に関する基礎的な知識と理論を習得していることを前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容
国内外の製造企業の最新動向に関する報道に常に眼を通しておくこと。

教科書
『生産管理の基本』富野貴弘著（日本実業出版社）2017年
『生産システムの市場適応力』富野貴弘著（同文館出版）2012年

参考書
『価値づくりの経営の論理』延岡健太郎著（日本経済新聞出版社）2011年
『MOT技術経営入門』延岡健太郎著（日本経済新聞社）2006年

成績評価の方法
出席態度（50%），研究発表内容（50%）

その他

科目ナンバー：(CO) MAN622J			
経営系列		備 考	
科 目 名	生産管理論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　富野　貴弘		

授業の概要・到達目標
〈授業の概要〉
現代の製造企業の技術戦略，経営戦略，イノベーション等に関連した研究を行う。
〈授業の概要〉
履修者の問題関心に沿った「ものづくりと経営学」に関連する研究テーマにもとづき指導（発表指導，論文執筆指導，フィールドワーク指導）を行い最終的には修士論文の形にまとめる。なお，本演習ではフィールドワーク（国内外問わず）を通じた研究が必須となる。

授業内容
第1回　修士論文中間発表その（1）
第2回　修士論文中間発表その（2）
第3回　製品の付加価値創出に関する文献輪読その（1）
第4回　製品の付加価値創出に関する文献輪読その（2）
第5回　製品デザインと競争力に関する文献輪読その（1）
第6回　製品デザインと競争力に関する文献輪読その（2）
第7回　国際分業に関する文献輪読その（1）
第8回　国際分業に関する文献輪読その（2）
第9回　マザー工場制に関する文献輪読
第10回　修士論文指導その（1）
第11回　修士論文指導その（2）
第12回　修士論文指導その（3）
第13回　修士論文指導その（4）
第14回　修士論文指導その（5）

履修上の注意
履修者は，経営学に関する基礎的な知識と理論を習得していることを前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容
国内外の製造企業の最新動向に関する報道に常に眼を通しておくこと。

教科書
『生産システムの市場適応力』富野貴弘著（同文館出版）2012年

参考書
『価値づくりの経営の論理』延岡健太郎著（日本経済新聞出版社）2011年
『経営学者が書いたデザインマネジメントの教科書』森永泰史著（同文館出版）2016年

成績評価の方法
出席態度（50%），研究発表内容（50%）

その他

科目ナンバー：(CO) MAN512J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営哲学特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　出見世　信之		

授業の概要・到達目標
経営哲学について，企業倫理，企業の社会的責任，企業統治等の観点から演習を通じて学ぶ。これらの知識を理解するとともに，演習における発表の仕方，論文作成法等を習得することも本演習の到達目標である。

授業内容
第１回　演習での学び
第２回　企業倫理に関するテキストの輪読①
第３回　企業倫理に関するテキストの輪読②
第４回　企業倫理に関するテキストの輪読③
第５回　企業倫理に関するテキストの輪読④
第６回　企業倫理に関する事例分析①
第７回　企業倫理に関する事例分析②
第８回　企業と社会に関するテキストの輪読①
第９回　企業と社会に関するテキストの輪読②
第10回　企業と社会に関するテキストの輪読③
第11回　企業と社会に関するテキストの輪読④
第12回　企業と社会に関するテキストの輪読⑤
第13回　企業と社会に関する事例分析①
第14回　企業と社会に関する事例分析②
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意
授業に出席するための十分な準備を心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容
現実の企業経営との関わりが深いので，企業関連のニュースや雑誌記事を読み，企業経営に関する知識を高めることを準備学習とする。

教科書
開講時に指示する。教材は，配布する。

参考書
開講時に指示する。

成績評価の方法
授業への貢献度により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) MAN512J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営哲学特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　出見世　信之		

授業の概要・到達目標
経営哲学について，企業倫理，企業の社会的責任，企業統治等の観点から演習を通じて学ぶ。これらの知識を理解するとともに，演習における発表の仕方，論文作成法等を習得することも本演習の到達目標である。

授業内容
第１回　演習で学ぶ意義
第２回　CSR に関するテキストの輪読①
第３回　CSR に関するテキストの輪読②
第４回　CSR に関するテキストの輪読③
第５回　CSR に関するテキストの輪読④
第６回　CSR に関する事例分析①
第７回　CSR に関する事例分析②
第８回　企業統治に関するテキストの輪読①
第９回　企業統治に関するテキストの輪読②
第10回　企業統治に関するテキストの輪読③
第11回　企業統治に関するテキストの輪読④
第12回　企業統治に関するテキストの輪読⑤
第13回　企業統治に関する事例分析①
第14回　企業統治に関する事例分析②
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意
授業に出席するための十分な準備を心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容
現実の企業経営との関わりが深いので，企業関連のニュースや雑誌記事を読み，企業経営に関する知識を高めることを準備学習とする。

教科書
開講時に指示する。教材は，配布する。

参考書
開講時に指示する。

成績評価の方法
授業への貢献度により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) MAN612J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営哲学特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　出見世　信之		

授業の概要・到達目標
経営哲学について，企業倫理，企業の社会的責任，企業統治等の観点から演習を通じて学ぶ。これらの知識を理解するとともに，演習における発表の仕方，論文作成法等を習得することも本演習の到達目標である。

授業内容
第1回　演習での学び
第2回　企業倫理に関するテキストの輪読①
第3回　企業倫理に関するテキストの輪読②
第4回　企業倫理に関するテキストの輪読③
第5回　企業倫理に関するテキストの輪読④
第6回　企業倫理に関する事例分析①
第7回　企業倫理に関する事例分析②
第8回　企業と社会に関するテキストの輪読①
第9回　企業と社会に関するテキストの輪読②
第10回　企業と社会に関するテキストの輪読③
第11回　企業と社会に関するテキストの輪読④
第12回　企業と社会に関するテキストの輪読⑤
第13回　企業と社会に関する事例分析①
第14回　企業と社会に関する事例分析②
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意
授業に出席するための十分な準備を心がけ，計画的に修士論文作成に取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容
現実の企業経営との関わりが深いので，企業関連のニュースや雑誌記事を読み，企業経営に関する知識を高めることを準備学習とする。

教科書
開講時に指示する。教材は，配布する。

参考書
開講時に指示する。

成績評価の方法
授業への貢献度により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) MAN612J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営哲学特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　出見世　信之		

授業の概要・到達目標
経営哲学について，企業倫理，企業の社会的責任，企業統治等の観点から演習を通じて学ぶ。これらの知識を理解するとともに，演習における発表の仕方，論文作成法等を習得することも本演習の到達目標である。

授業内容
第1回　演習で学ぶ意義：修士論文の中間報告
第2回　CSR に関するテキストの輪読①
第3回　CSR に関するテキストの輪読②
第4回　CSR に関するテキストの輪読③
第5回　CSR に関するテキストの輪読④
第6回　CSR に関する事例分析①
第7回　CSR に関する事例分析②
第8回　企業統治に関するテキストの輪読①
第9回　企業統治に関するテキストの輪読②
第10回　企業統治に関するテキストの輪読③
第11回　企業統治に関するテキストの輪読④
第12回　企業統治に関するテキストの輪読⑤
第13回　修士論文の最終報告①
第14回　修士論文の最終報告②
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意
授業に出席するための十分な準備を心がけ，計画的に修士論文作成に取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容
現実の企業経営との関わりが深いので，企業関連のニュースや雑誌記事を読み，企業経営に関する知識を高めることを準備学習とする。

教科書
開講時に指示する。教材は，配布する。

参考書
開講時に指示する。

成績評価の方法
授業への貢献度により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) MAN521J			
経営系列		備 考	
科 目 名	生産管理論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　富野　貴弘		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

生産管理や技術経営，技術戦略等に関する古今東西の文献・論文・ケーススタディを輪読しながら，今日の製造業が抱えている問題について履修生と一緒に議論し考えていきたいと思います。

〈授業の到達目標〉

製造企業の競争力という視点を軸に，品質管理・コスト管理・納期管理といった狭義の生産管理領域に囚われず，製品開発も含め，生産管理という学問領域を広義に捉えながら企業のものづくり手法について理論的・実証的に学び，自らの頭で考えることのできる力を養います。

授業内容

第1回　今後の進め方，輪読文献に関する話し合い。
第2回　生産管理の基本文献輪読その1
第3回　生産管理の基本文献輪読その2
第4回　生産管理の基本文献輪読その3
第5回　サプライヤーシステムに関する文献輪読その1
第6回　サプライヤーシステムに関する文献輪読その2
第7回　サプライヤーシステムに関する文献輪読その3
第8回　製品アーキテクチャに関する文献輪読その1
第9回　製品アーキテクチャに関する文献輪読その2
第10回　製品アーキテクチャに関する文献輪読その3
第11回　サプライチェーンマネジメントに関する文献輪読その1
第12回　サプライチェーンマネジメントに関する文献輪読その2
第13回　ケーススタディ・ディスカッションその1
第14回　ケーススタディ・ディスカッションその2

履修上の注意

履修者は，経営学に関する基礎的な知識と理論を習得していることを前提とします。毎回の講義出席前に，すべての受講生が事前のレポート提出を求められます。

準備学習（予習・復習等）の内容

製造企業の最新動向に関する報道に常に眼を通しておくこと。

教科書

履修者との相談の上決定するため，事前には定めない。

参考書

『日本のものづくりの底力』藤本隆宏，新宅純二郎，青島矢一編著（東洋経済新報社）2015年

『メイド・イン・ジャパンは終わるのか』青島矢一，武石彰，マイケル・A・クスマノ編著（東洋経済新報社）2010年

成績評価の方法

授業への出席態度，事前レポート提出（50%），発表内容（50%）

その他

科目ナンバー：(CO) MAN521J			
経営系列		備 考	
科 目 名	生産管理論特論 B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　富野　貴弘		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

生産管理や技術経営，技術戦略等に関する古今東西の文献・論文・ケーススタディを輪読しながら，今日の製造業が抱えている問題について履修生と一緒に議論し考えていきたいと思います。

〈授業の到達目標〉

製造企業の競争力という視点を軸に，品質管理・コスト管理・納期管理といった狭義の生産管理領域に囚われず，製品開発も含め，生産管理という学問領域を広義に捉えながら企業のものづくり手法について理論的・実証的に学び，自らの頭で考えることのできる力を養います。

授業内容

第1回　今後の進め方，輪読文献に関する話し合い。
第2回　製品開発に関する文献輪読その1
第3回　製品開発に関する文献輪読その2
第4回　製品開発に関する文献輪読その3
第5回　製品開発に関する文献輪読その4
第6回　イノベーションに関する文献輪読その1
第7回　イノベーションに関する文献輪読その2
第8回　イノベーションに関する文献輪読その3
第9回　イノベーションに関する文献輪読その4
第10回　製品デザインに関する文献輪読その1
第11回　製品デザインに関する文献輪読その2
第12回　ものづくりの付加価値創出に関する文献輪読その1
第13回　ものづくりの付加価値創出に関する文献輪読その2
第14回　ケーススタディ・ディスカッション

履修上の注意

履修者は，経営学に関する基礎的な知識と理論を習得していることを前提とします。毎回の講義出席前に，すべての受講生が事前のレポート提出を求められます。

準備学習（予習・復習等）の内容

国内外の製造企業の最新動向に関する報道に常に眼を通しておくこと。

教科書

履修者との話し合いの上で決定するため，事前には定めない。

参考書

『生産システムの市場適応力』富野貴弘著（同文館出版）2012年

『増補版　製品開発力』藤本隆宏，キム・B・クラーク著（ダイヤモンド社）2009年

『ビジネス・アーキテクチャ』藤本隆宏・武石彰・青島矢一編（有斐閣）2001年

『イノベーション・マネジメント入門』一橋大学イノベーション研究センター編（日本経済新聞社）2001年

成績評価の方法

授業への出席態度，事前レポート（50%），発表内容（50%）

その他

科目ナンバー：(CO) MAN511J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営哲学特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　出見世　信之		

授業の概要・到達目標

本講義では，経営哲学の主要なテーマのうち，企業倫理を中心に取り上げる。そこでは，「企業倫理の意義」「企業倫理の歴史的展開過程」「企業倫理の日本的特徴」「倫理的リーダーシップのあり方」を理解することを到達目標とする。

授業内容

本講義では，経営哲学の主要なテーマの中で，企業倫理を中心に取り上げる。

第1回　経営哲学とは何か
第2回　企業倫理の意義①
第3回　企業倫理の意義②
第4回　企業倫理の意義③
第5回　アメリカにおける企業倫理の展開①
第6回　アメリカにおける企業倫理の展開②
第7回　アメリカにおける企業倫理の展開③
第8回　日本における企業倫理の展開①
第9回　日本における企業倫理の展開②
第10回　日本における企業倫理の展開③
第11回　企業倫理の国際比較①
第12回　企業倫理の国際比較②
第13回　経営者の倫理的リーダーシップ①
第14回　経営者の倫理的リーダーシップ②

＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

経営学の基礎的な知識を有していることを前提として講義を進める。

準備学習（予習・復習等）の内容

現実の企業経営との関わりが深いので，企業関連のニュースや雑誌記事を読み，企業経営に関する知識を高めることを準備学習とする。

教科書

開講時に指示する。教材は，配布する。

参考書

鈴木秀一他著『経営のルネサンス』文眞堂，2017年。
スチュワート著『企業倫理』白桃書房，2001年。
エプスタイン著『企業倫理と経営社会政策過程』文真堂，1996年。

成績評価の方法

授業への貢献度により評価する。

その他

ショート・ケースやグループ討論を行う予定なので，日頃から企業経営に関する関心を持ち，受講生が積極的に参加することが望まれる。

科目ナンバー：(CO) MAN511J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営哲学特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　出見世　信之		

授業の概要・到達目標

本授業は，経営哲学について，企業と利害関係者との関係から学ぶものである。「利害関係者が具体的に意味する内容」「企業と利害関係者との間に存在する課題事項」「企業倫理の制度化のあり方」について理解することが，本授業の到達目標である。

授業内容

本講義では，経営哲学の主要なテーマの中で，企業と利害関係者との関係を中心に取り上げる。

第1回　利害関係者とは何か
第2回　企業と利害関係者①
第3回　企業と利害関係者②
第4回　課題事項管理
第5回　企業と株主・投資家：企業統治問題
第6回　企業と消費者・顧客
第7回　企業と従業員
第8回　企業と地域社会
第9回　企業と自然環境
第10回　企業と国際社会：多国籍企業問題
第11回　企業倫理の制度化①
第12回　企業倫理の制度化②
第13回　企業倫理の制度化③
第14回　企業倫理の制度化④

＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

経営学の基礎的な知識を有していることを前提として講義を進める。

準備学習（予習・復習等）の内容

現実の企業経営との関わりが深いので，企業関連のニュースや雑誌記事を読み，企業経営に関する知識を高めることを準備学習とする。

教科書

開講時に指示する。教材は，配布する。

参考書

佐久間信夫他著『コーポレート・ガバナンス改革の国際比較』（文眞堂）
フリーマン他著『利害関係者志向の経営』（白桃書房）
ビーチャン他著『企業倫理学』（ミネルヴァ書房）

成績評価の方法

授業への貢献度により評価する。

その他

ショート・ケースやグループ討論を行う予定なので，日頃から企業経営に関する関心を持ち，受講生が積極的に参加することが望まれる。

科目ナンバー：(CO) ACC542J			
会計系列		備 考	
科 目 名	意思決定会計論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　前田　陽		

授業の概要・到達目標

企業会計の本質は企業に関わる様々なデータを収集，処理し，それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達することである。

本講義は，会計的な情報が企業経営にどのような影響を与えるのか，またどのような管理会計が企業経営のために必要かをより深く理解することを目的とする。

本講義では管理会計分野における広範な知識を得ることを到達目標とする。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　テーマ学習①
第３回　テーマ学習②
第４回　テーマ学習③
第５回　テーマ学習④
第６回　テーマ学習⑤
第７回　テーマ学習⑥
第８回　テーマ学習⑦
第９回　テーマ学習⑧
第10回　テーマ学習⑨
第11回　テーマ学習⑩
第12回　テーマ学習⑪
第13回　テーマ学習⑫
第14回　春学期の総括
＊履修者数等により内容が変更することがある。

履修上の注意

本講義では，経営及び管理会計の知識を得るため，経営・会計に関する研究書等を輪読する。しかし，指定された文献・資料のみを読むのではなく，討論に耐えうるよう必要な周辺知識を事前に各々身につけることを期待する。

本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

教科書

・ロバート・C・ヒギンズ（著），グロービス経営大学院（訳）（2015）『ファイナンシャル・マネジメント改訂３版』ダイヤモンド社。
・岡野浩，小林英幸（編）（2015）『コストデザイントヨタ/研究者の実践コミュニティ理論』大阪公立大学共同出版会。

上記を教科書とする。各自準備しておくこと。

参考書

・本橋正美，林總，片岡洋人（編）（2016）『要説管理会計事典』清文社。

上記以外の参考書等は適宜示す。

成績評価の方法

講義への貢献度（60％）を重視し，さらに研究発表や課題などの成績（40％）によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC542J			
会計系列		備 考	
科 目 名	意思決定会計論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　前田　陽		

授業の概要・到達目標

企業会計の本質は企業に関わる様々なデータを収集，処理し，それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達することである。

本講義は，会計的な情報が企業経営にどのような影響を与えるのか，またどのような管理会計が企業経営のために必要かをより深く理解することを目的とする。

本講義では管理会計分野における広範な知識を得ることを到達目標とする。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　テーマ学習①
第３回　テーマ学習②
第４回　テーマ学習③
第５回　テーマ学習④
第６回　テーマ学習⑤
第７回　テーマ学習⑥
第８回　テーマ学習⑦
第９回　テーマ学習⑧
第10回　テーマ学習⑨
第11回　テーマ学習⑩
第12回　テーマ学習⑪
第13回　テーマ学習⑫
第14回　秋学期の総括
＊履修者数等により内容が変更することがある。

履修上の注意

本講義では，経営及び管理会計の知識を得るため，経営・会計に関する研究書等を輪読する。しかし，指定された文献・資料のみを読むのではなく，討論に耐えうるよう必要な周辺知識を事前に各々身につけることを期待する。

本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

教科書

・James Jiambalvo. 2012. Managerial Accounting, 5th ed., Wiley.

上記を教科書とする。各自準備しておくこと。

参考書

・本橋正美，林總，片岡洋人（編）（2016）『要説管理会計事典』清文社。

上記以外の参考書等は適宜示す。

成績評価の方法

講義への貢献度（60％）を重視し，さらに研究発表や課題などの成績（40％）によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC642J			
会計系列		備 考	
科 目 名	意思決定会計論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　前田　陽		

授業の概要・到達目標

企業会計の本質は企業に関わる様々なデータを収集，処理し，それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達することである。

本講義は，会計的な情報が企業経営にどのような影響を与えるのか，またどのような管理会計が企業経営のために必要かをより深く理解することを目的とする。

本講義では管理会計分野における修士論文執筆に向け，研究テーマを固めることを到達目標とする。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　研究報告とその検討①
第3回　研究報告とその検討②
第4回　研究報告とその検討③
第5回　研究報告とその検討④
第6回　研究報告とその検討⑤
第7回　研究報告とその検討⑥
第8回　研究報告とその検討⑦
第9回　研究報告とその検討⑧
第10回　研究報告とその検討⑨
第11回　研究報告とその検討⑩
第12回　研究報告とその検討⑪
第13回　研究報告とその検討⑫
第14回　春学期の総括
＊履修者数等により内容が変更することがある。

履修上の注意

本講義では，経営及び管理会計の知識を得るため，経営・会計に関する研究書等を輪読する。しかし，指定された文献・資料のみを読むのではなく，討論に耐えうるよう必要な周辺知識を事前に各々身につけることを期待する。

本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

教科書

・Jerold L. Zimmerman. 2016. Accounting for Decision Making and Control, 9th Revised ed., McGraw Hill Higher Education.
上記を教科書とする。各自準備しておくこと。

参考書

・本橋正美，林總，片岡洋人（編）(2016)『要説管理会計事典』清文社。
上記以外の参考書等は適宜示す。

成績評価の方法

講義への貢献度（60％）を重視し，さらに研究発表や課題などの成績（40％）によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC642J			
会計系列		備 考	
科 目 名	意思決定会計論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　前田　陽		

授業の概要・到達目標

企業会計の本質は企業に関わる様々なデータを収集，処理し，それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達することである。

本講義は，会計的な情報が企業経営にどのような影響を与えるのか，またどのような管理会計が企業経営のために必要かをより深く理解することを目的とする。

本講義では管理会計分野における修士論文を完成させることを到達目標とする。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　修士論文の中間報告①
第3回　修士論文の中間報告②
第4回　修士論文の中間報告③
第5回　修士論文の中間報告④
第6回　修士論文の中間報告⑤
第7回　修士論文の中間報告⑥
第8回　修士論文の中間報告⑦
第9回　修士論文の中間報告⑧
第10回　修士論文の中間報告⑨
第11回　修士論文の中間報告⑩
第12回　修士論文の中間報告⑪
第13回　修士論文の最終報告
第14回　秋学期の総括
＊履修者数等により内容が変更することがある。

履修上の注意

本講義では，経営及び管理会計の知識を得るため，経営・会計に関する研究書等を輪読する。しかし，指定された文献・資料のみを読むのではなく，討論に耐えうるよう必要な周辺知識を事前に各々身につけることを期待する。

本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

教科書

・Edward Blocher David Stout, Paul Juras, Gary Cokins. 2015. Cost Management: A Strategic Emphasis, 7th ed., McGraw–Hill Education.
上記を教科書とする。各自準備しておくこと。

参考書

・本橋正美，林總，片岡洋人（編）(2016)『要説管理会計事典』清文社。
上記以外の参考書等は適宜示す。

成績評価の方法

講義への貢献度（60％）を重視し，さらに研究発表や課題などの成績（40％）によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC562J			
会計系列		備 考	
科 目 名	監査論特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　加藤　達彦		

授業の概要・到達目標
講者各自が修士論文のテーマについて報告を行ない，問題点を議論して解決策を模索していく。演習では修士論文のテーマ探しが重要なポイントとなる。春学期は基本文献の講読を行い，秋学期は関連文献の講読をする。

授業内容
第１回　会計学・監査論分野のガイダンス（1）
第２回　会計学・監査論分野のガイダンス（2）
第３回　研究テーマの検討（1）
第４回　研究テーマの検討（2）
第５回　会計学・監査論分野の基本文献の購読（1）
第６回　会計学・監査論分野の基本文献の購読（2）
第７回　会計学・監査論分野の基本文献の購読（3）
第８回　会計学・監査論分野の基本文献の購読（4）
第９回　会計学・監査論分野の基本文献の購読（5）
第10回　会計学・監査論分野の分析手法に関する基本文献の講読（1）
第11回　会計学・監査論分野の分析手法に関する基本文献の講読（2）
第12回　会計学・監査論分野の分析手法に関する基本文献の講読（3）
第13回　会計学・監査論分野の分析手法に関する基本文献の講読（4）
第14回　問題点の確認とテーマの絞り込み

履修上の注意
演習に毎回出席することは必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容
前回までの予習をする。

教科書
加藤達彦『監査制度設計論―戦略的アプローチと実験的アプローチの応用―』森山書店（2005）

参考書

成績評価の方法
授業における報告の内容（100％）

その他

科目ナンバー：(CO) ACC562J			
会計系列		備 考	
科 目 名	監査論特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　加藤　達彦		

授業の概要・到達目標
講者各自が修士論文のテーマについて報告を行ない，問題点を議論して解決策を模索していく。演習では修士論文のテーマ探しが重要なポイントとなる。春学期は基本文献の講読を行い，秋学期は関連文献の講読をする。

授業内容
第１回　研究テーマに関する文献の紹介（1）
第２回　研究テーマに関する文献の紹介（2）
第３回　主要関連文献リストの作成
第４回　主要関連文献の講読（1）
第５回　主要関連文献の講読（2）
第６回　主要関連文献の講読（3）
第７回　主要関連文献の講読（4）
第８回　主要関連文献の講読（5）
第９回　主要関連文献の問題点の整理と検討（1）
第10回　主要関連文献の問題点の整理と検討（2）
第11回　分析方法に関する関連文献の講読（1）
第12回　分析方法に関する関連文献の講読（2）
第13回　分析方法に関する関連文献の講読（3）
第14回　演習内容の総括と修士論文テーマに関する指導

履修上の注意
演習に毎回出席することは必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容
前回までの講義の内容について十分な理解が必要である。

教科書
加藤達彦『監査制度設計論―戦略的アプローチと実験的アプローチの応用―』森山書店（2005）

参考書

成績評価の方法
授業における報告の内容（100％）

その他

科目ナンバー：(CO) ACC662J			
会計系列		備 考	
科 目 名	監査論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　加藤　達彦		

授業の概要・到達目標
受講者各自が修士論文のテーマについて報告を行ない，問題点を議論して解決策を模索していく。演習では，修士論文の作成が重要なポイントとなる。

授業内容
第1回　履修者による修士論文のテーマの報告（1）
第2回　履修者による修士論文のテーマの報告（2）
第3回　分析方法の検討（1）
第4回　分析方法の検討（2）
第5回　分析方法の検討（3）
第6回　分析方法の検討（4）
第7回　分析方法の検討（5）
第8回　履修者による修士論文の構成に関する報告（1）
第9回　履修者による修士論文の構成に関する報告（2）
第10回　追加文献・データ収集に関する検討（1）
第11回　追加文献・データ収集に関する検討（2）
第12回　追加文献・データ収集に関する検討（3）
第13回　予備的分析結果の検討（1）
第14回　予備的分析結果の検討（2）

履修上の注意
演習への毎回の出席は必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容
前回までの講義の内容について十分な理解が必要である。

教科書
加藤達彦『監査制度設計論―戦略的アプローチと実験的アプローチの応用―』森山書店（2005）

参考書

成績評価の方法
授業における報告の内容（100％）

その他

科目ナンバー：(CO) ACC662J			
会計系列		備 考	
科 目 名	監査論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　加藤　達彦		

授業の概要・到達目標
受講者各自が修士論文のテーマについて報告を行ない，問題点を議論して解決策を模索していく。演習では，修士論文の作成が重要なポイントとなる。

授業内容
第1回　履修者による修士論文の進捗状況の報告
第2回　修士論文作成に関する指導（1）
第3回　修士論文作成に関する指導（2）
第4回　修士論文作成に関する指導（3）
第5回　修士論文作成に関する指導（4）
第6回　修士論文作成に関する指導（5）
第7回　履修者による修士論文の中間報告（1）
第8回　履修者による修士論文の中間報告（2）
第9回　修士論文の執筆に関する指導（1）
第10回　修士論文の執筆に関する指導（2）
第11回　修士論文の執筆に関する指導（3）
第12回　履修者による修士論文の最終報告（1）
第13回　履修者による修士論文の最終報告（2）
第14回　演習内容の総括と残された課題の検討

履修上の注意
演習への毎回の出席は必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容
前回までの講義の内容について十分な理解が必要である。

教科書
加藤達彦『監査制度設計論―戦略的アプローチと実験的アプローチの応用―』森山書店（2005）

参考書

成績評価の方法
授業における報告の内容（100％）

その他

科目ナンバー：(CO) ACC572J			
会計系列		備 考	
科 目 名	国際会計論特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　山本　昌弘		

授業の概要・到達目標

国際会計論特論演習では，比較制度分析（CIA）の観点から2005年以降世界的に普及している国際会計基準，カナダや日本などでも解禁されている米国の財務会計基準，2011年以降に国際統合される日本の企業会計基準について，相互に比較しながら分析を進める。その際には，個々の会計基準の規定内容のみならず，それらの歴史的発達過程や社会経済特性にも注目する。

理論的には，国際会計基準の概念フレームワークや米国財務会計概念書（SFAC）などの抽象的な枠組について，重点的に考察する。そして概念フレームワークから演繹的に個々の会計基準，例えばキャッシュ・フロー計算書，企業結合，金融商品，外貨換算などへと踏み込んでいく。そこでは，国際資本市場における上場大企業のための会計基準のあり方を検討するとともに，圧倒的多数を占める地場の非上場中小企業の会計基準（例えば日本の中小企業の会計に関する指針）についても，比較対象として取り上げる。

その後，取り上げた主要テーマについて，企業の英文 Annual Reports を活用して実証分析を行う。授業では，テキスト・クリティークではなく，あくまでも会計制度上の諸問題について焦点を当て，それについて実証研究によって経験的な基礎付けを行いながら漸進的に会計理論を構築していくという Anglo-American な一連の研究プロセスが重要になる。

授業内容

第１回　国際会計論のガイダンス（1）
第２回　国際会計論のガイダンス（2）
第３回　研究テーマの検討（1）
第４回　研究テーマの検討（2））
第５回　国際会計分野の基本文献の講読（1）
第６回　国際会計分野の基本文献の講読（2）
第７回　国際会計分野の基本文献の講読（3）
第８回　国際会計分野の基本文献の講読（4）
第９回　国際会計分野の基本文献の講読（5）
第10回　国際会計分野の分析手法等に関する基本文献の講読（1）
第11回　国際会計分野の分析手法等に関する基本文献の講読（2）
第12回　国際会計分野の分析手法等に関する基本文献の講読（3）
第13回　国際会計分野の分析手法等に関する基本文献の講読（4）
第14回　問題点の確認とテーマの絞り込み

履修上の注意

国際会計論であるから，英語の文献（著書，論文，会計基準）を問題なく読みこなせる語学力が必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。復習として配布資料と教科書の突合せを行うこと。

教科書

Thomas G. Evans, Accounting Theory: Contemporary Accounting Issues（Thomson, 2003）あたりから始めたい。

参考書

IASB, International Financial Reporting Standards, FASB, Statements of Financial Accounting Concepts 及び日本の『企業会計法規集』

成績評価の方法

授業への貢献度（発言内容など）を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC572J			
会計系列		備 考	
科 目 名	国際会計論特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　山本　昌弘		

授業の概要・到達目標

国際会計論特論演習では，比較制度分析（CIA）の観点から2005年以降世界的に普及している国際会計基準，カナダや日本などでも解禁されている米国の財務会計基準，2011年以降に国際統合される日本の企業会計基準について，相互に比較しながら分析を進める。その際には，個々の会計基準の規定内容のみならず，それらの歴史的発達過程や社会経済特性にも注目する。

理論的には，国際会計基準の概念フレームワークや米国財務会計概念書（SFAC）などの抽象的な枠組について，重点的に考察する。そして概念フレームワークから演繹的に個々の会計基準，例えばキャッシュ・フロー計算書，企業結合，金融商品，外貨換算などへと踏み込んでいく。そこでは，国際資本市場における上場大企業のための会計基準のあり方を検討するとともに，圧倒的多数を占める地場の非上場中小企業の会計基準（例えば日本の中小企業の会計に関する指針）についても，比較対象として取り上げる。

その後，取り上げた主要テーマについて，企業の英文 Annual Reports を活用して実証分析を行う。授業では，テキスト・クリティークではなく，あくまでも会計制度上の諸問題について焦点を当て，それについて実証研究によって経験的な基礎付けを行いながら漸進的に会計理論を構築していくという Anglo-American な一連の研究プロセスが重要になる。

授業内容

第１回　研究テーマに関する文献の紹介（1）
第２回　研究テーマに関する文献の紹介（2）
第３回　主要関連文献リストの作成
第４回　主要関連文献の講読（1）
第５回　主要関連文献の講読（2）
第６回　主要関連文献の講読（3）
第７回　主要関連文献の講読（4）
第８回　主要関連文献の講読（5）
第９回　主要関連文献の問題点の整理と検討（1）
第10回　主要関連文献の問題点の整理と検討（2）
第11回　分析手法等に関する関連文献の講読（1）
第12回　分析手法等に関する関連文献の講読（2）
第13回　分析手法等に関する関連文献の講読（3）
第14回　演習内容の総括と修士論文テーマに関する指導

履修上の注意

国際会計論であるから，英語の文献（著書，論文，会計基準）を問題なく読みこなせる語学力が必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。復習として配布資料と教科書の突合せを行うこと。

教科書

Thomas G. Evans, Accounting Theory: Contemporary Accounting Issues（Thomson, 2003）あたりから始めたい。

参考書

IASB, International Financial Reporting Standards, FASB, Statements of Financial Accounting Concepts 及び日本の『企業会計法規集』

成績評価の方法

授業への貢献度（発言内容など）を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC672J			
会計系列		備 考	
科 目 名	国際会計論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演 2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　山本　昌弘		

授業の概要・到達目標

国際会計論特論演習では，比較制度分析（CIA）の観点から2005年以降世界的に普及している国際会計基準，カナダや日本などでも解禁されている米国の財務会計基準，2011年以降に国際統合される日本の企業会計基準について，相互に比較しながら分析を進める。その際には，個々の会計基準の規定内容のみならず，それらの歴史的発達過程や社会経済特性にも注目する。

理論的には，国際会計基準の概念フレームワークや米国財務会計概念書（SFAC）などの抽象的な枠組について，重点的に考察する。そして概念フレームワークから演繹的に個々の会計基準，例えばキャッシュ・フロー計算書，企業結合，金融商品，外貨換算などへと踏み込んでいく。そこでは，国際資本市場における上場大企業のための会計基準のあり方を検討するとともに，圧倒的多数を占める地場の非上場中小企業の会計基準（例えば日本の中小企業の会計に関する指針）についても，比較対象として取り上げる。

その後，取り上げた主要テーマについて，企業の英文 Annual Reports を活用して実証分析を行う。授業では，テキスト・クリティークではなく，あくまでも会計制度上の諸問題について焦点を当て，それについて実証研究によって経験的な基礎付けを行いながら漸進的に会計理論を構築していくという Anglo-American な一連の研究プロセスが重要になる。

授業内容

第１回　履修者による修士論文テーマの報告（1）
第２回　履修者による修士論文テーマの報告（2）
第３回　分析方法の検討等（1）
第４回　分析方法の検討等（2）
第５回　分析方法の検討等（3）
第６回　分析方法の検討等（4）
第７回　分析方法の検討等（5）
第８回　履修者による修士論文の構成等に関する報告（1）
第９回　履修者による修士論文の構成等に関する報告（2）
第10回　追加文献，データ収集等に関する検討（1）
第11回　追加文献，データ収集等に関する検討（2）
第12回　追加文献，データ収集等に関する検討（3）
第13回　予備的分析結果の検討等（1）
第14回　予備的分析結果の検討等（2）

履修上の注意

国際会計論であるから，英語の文献（著書，論文，会計基準）を問題なく読みこなせる語学力が必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。復習として配布資料と教科書の突合せを行うこと。

教科書

修士論文のテーマに応じて指定する。

参考書

IASB, International Financial Reporting Standards, FASB, Statements of Financial Accounting Concepts 及び日本の『企業会計法規集』

成績評価の方法

授業への貢献度（発言内容など）を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC672J			
会計系列		備 考	
科 目 名	国際会計論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演 2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　山本　昌弘		

授業の概要・到達目標

国際会計論特論演習では，比較制度分析（CIA）の観点から2005年以降世界的に普及している国際会計基準，カナダや日本などでも解禁されている米国の財務会計基準，2011年以降に国際統合される日本の企業会計基準について，相互に比較しながら分析を進める。その際には，個々の会計基準の規定内容のみならず，それらの歴史的発達過程や社会経済特性にも注目する。

理論的には，国際会計基準の概念フレームワークや米国財務会計概念書（SFAC）などの抽象的な枠組について，重点的に考察する。そして概念フレームワークから演繹的に個々の会計基準，例えばキャッシュ・フロー計算書，企業結合，金融商品，外貨換算などへと踏み込んでいく。そこでは，国際資本市場における上場大企業のための会計基準のあり方を検討するとともに，圧倒的多数を占める地場の非上場中小企業の会計基準（例えば日本の中小企業の会計に関する指針）についても，比較対象として取り上げる。

その後，取り上げた主要テーマについて，企業の英文 Annual Reports を活用して実証分析を行う。授業では，テキスト・クリティークではなく，あくまでも会計制度上の諸問題について焦点を当て，それについて実証研究によって経験的な基礎付けを行いながら漸進的に会計理論を構築していくという Anglo-American な一連の研究プロセスが重要になる。

授業内容

第１回　履修者による修士論文進捗状況の報告
第２回　修士論文作成に関する指導（1）
第３回　修士論文作成に関する指導（2）
第４回　修士論文作成に関する指導（3）
第５回　修士論文作成に関する指導（4）
第６回　修士論文作成に関する指導（5）
第７回　履修者による修士論文中間報告（1）
第８回　履修者による修士論文中間報告（2）
第９回　修士論文執筆に関する指導（1）
第10回　修士論文執筆に関する指導（2）
第11回　修士論文執筆に関する指導（3）
第12回　履修者による修士論文最終報告（1）
第13回　履修者による修士論文最終報告（2）
第14回　演習内容の総括と残された課題の検討

履修上の注意

国際会計論であるから，英語の文献（著書，論文，会計基準）を問題なく読みこなせる語学力が必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。復習として配布資料と教科書の突合せを行うこと。

教科書

修士論文のテーマに応じて指定する。

参考書

IASB, International Financial Reporting Standards, FASB, Statements of Financial Accounting Concepts 及び日本の『企業会計法規集』

成績評価の方法

授業への貢献度(出発言内容など)を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC532J			
会計系列		備 考	
科 目 名	会計情報論特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　名越　洋子		

授業の概要・到達目標

修士論文の執筆ができるよう支援すべく，また会計実務に関わる職種に携わる際に役立つよう，論文の執筆方法やプレゼンテーションのしかたを学ぶ。各自でテーマを持ち寄り，報告することを原則とする。その際，素材を探すために，コーポレート・ガバナンス，企業結合，連結経営，無形資産，転換社債などをテーマに，投資家向けの会計情報について考察した論文を読む。日本語と英語の両方を読む。

なお，論文の執筆力と執筆の際の効率性を高めるため，ワードのソフトの活用についても情報を提供したい。50,000～100,000字レベルの修士論文を，章や節として構成し，アウトラインで構想しながら執筆する手法も身につけてほしい。

授業内容

第1回　論文の書き方
第2回　テーマの見つけ方と研究方法
第3回　文献の選択
第4回　論文のアウトラインの報告（1）
第5回　論文のアウトラインの報告（2）
第6回　先行研究に関する報告：日本の会計基準（1）
第7回　先行研究に関する報告：日本の会計基準（2）
第8回　アウトラインの中で書きやすいところを探す（1）
第9回　アウトラインの中で書きやすいところを探す（2）
第10回　先行研究に関する報告：国際会計基準（財務報告基準）(1)
第11回　先行研究に関する報告：国際会計基準（財務報告基準）(2)
第12回　先行研究に関する報告：米国の会計基準（1）
第13回　先行研究に関する報告：米国の会計基準（2）
第14回　論文のアウトラインの見直し

履修上の注意

報告について積極的な姿勢を示してほしい。修士論文を完成すべく，テーマを設定し，追求してほしい。

英語により，米国の会計基準や国際財務報告基準の原文にあたる程度の英語力を求めたい。

パソコンによる執筆にある程度習熟してほしい。特に，ワードのソフトで，アウトラインで構想しながら執筆する姿勢を持ってほしい。修士論文の文字数は50,000～100,000字レベルを想定しているので，章や節も構想してほしい。執筆力と効率性も養ってほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文の執筆のための調査や下調べは必ず行ってほしい。

教科書

開講時に各自の関心に沿って決めたい。なお，執筆力を高めるために，田中幸夫『卒論執筆のための Word 活用術―美しく仕上げる最短コース』（講談社）を推薦する。

参考書

開講時に指定する。

成績評価の方法

報告時の内容，プレゼンテーションにより100％評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC532J			
会計系列		備 考	
科 目 名	会計情報論特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　名越　洋子		

授業の概要・到達目標

修士論文の執筆ができるよう支援すべく，また会計実務に関わる職種に携わる際に役立つよう，論文の執筆方法やプレゼンテーションのしかたを学ぶ。各自でテーマを持ち寄り，報告することを原則とする。その際，素材を探すために，コーポレート・ガバナンス，企業結合，連結経営，無形資産，転換社債などをテーマに，投資家向けの会計情報について考察した論文を読む。日本語と英語の両方を読む。

なお，論文の執筆力と執筆の際の効率性を高めるため，ワードのソフトの活用についても情報を提供したい。50,000～100,000字レベルの修士論文を，章や節として構成し，アウトラインで構想しながら執筆する手法も身につけてほしい。

授業内容

第1回　論文の書き方
第2回　テーマの見つけ方と研究方法
第3回　文献の選択
第4回　論文のアウトラインの報告（1）
第5回　論文のアウトラインの報告（2）
第6回　先行研究に関する報告：日本の会計基準（1）
第7回　先行研究に関する報告：日本の会計基準（2）
第8回　アウトラインの中で書きやすいところを探す（1）
第9回　アウトラインの中で書きやすいところを探す（2）
第10回　先行研究に関する報告：国際会計基準（財務報告基準）(1)
第11回　先行研究に関する報告：国際会計基準（財務報告基準）(2)
第12回　先行研究に関する報告：米国の会計基準（1）
第13回　先行研究に関する報告：米国の会計基準（2）
第14回　論文のアウトラインの見直し

履修上の注意

報告について積極的な姿勢を示してほしい。修士論文を完成すべく，テーマを設定し，追求してほしい。

英語により，米国の会計基準や国際財務報告基準の原文にあたる程度の英語力を求めたい。

パソコンによる執筆にある程度習熟してほしい。特に，ワードのソフトで，アウトラインで構想しながら執筆する姿勢を持ってほしい。修士論文の文字数は50,000～100,000字レベルを想定しているので，章や節も構想してほしい。執筆力と効率性も養ってほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文の準備のための調査や下調べは必ず行ってほしい。ワードについても，習熟しておくこと。

教科書

開講時に各自の関心に沿って決めたい。なお，執筆力を高めるために，田中幸夫『卒論執筆のための Word 活用術―美しく仕上げる最短コース』（講談社）を推薦する。

参考書

開講時に指定する。ただ，ジャーナルを素材にする予定である。

成績評価の方法

報告時の内容，プレゼンテーションで100％評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC632J			
会計系列		備 考	
科 目 名	会計情報論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　名越　洋子		

授業の概要・到達目標

修士論文の執筆ができるよう支援すべく，また会計実務に関わる職種に携わる際に役立つよう，論文の執筆方法やプレゼンテーションのしかたを学ぶ。各自でテーマを持ち寄り，報告することを原則とする。その際，素材を探すために，コーポレート・ガバナンス，企業結合，連結経営，無形資産，転換社債などをテーマに，投資家向けの会計情報について考察した論文を読む。日本語と英語の両方を読む。

なお，論文の執筆力と効率性を高めるために，ワードのソフトの活用方法についても，情報提供を行いたい。アウトライン機能を用いて，章や節の構想を立てながら，50,000～100,000字程度の修士論文の執筆にいかしてほしい。

授業内容

第1回　論文の書き方（ワードの活用方法の見直し）
第2回　テーマの見つけ方と研究方法
第3回　文献の選択
第4回　論文のアウトラインの報告（1）
第5回　論文のアウトラインの報告（2）
第6回　先行研究に関する報告：日本の会計基準（1）
第7回　先行研究に関する報告：日本の会計基準（2）
第8回　アウトラインの中で不十分なところを探す（1）
第9回　アウトラインの中で不十分なところを探す（2）
第10回　先行研究に関する報告：国際会計基準（財務報告基準）（1）
第11回　先行研究に関する報告：国際会計基準（財務報告基準）（2）
第12回　先行研究に関する報告：米国の会計基準（1）
第13回　先行研究に関する報告：米国の会計基準（2）
第14回　修士論文の骨格の完成

履修上の注意

報告について積極的な姿勢を示してほしい。修士論文を完成すべく，テーマを設定し，追求してほしい。

英語により，米国の会計基準や国際財務報告基準の原文にあたる程度の英語力を求めたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文執筆のための調査や下調べは必ず行ってほしい。また，50,000～100,000字程度の修士論文を執筆するというイメージを明快にし，ワードにも習熟してほしい。

教科書

開講時に指定する。ワードについては，田中幸夫『卒論執筆のための Word 活用術―美しく仕上げる最短コース』（講談社）をおすすめしたい。

参考書

開講時に指定する。ただ，ジャーナルを素材にする予定である。その他，IFRS や米国会計基準を用いる。

成績評価の方法

報告時の内容，プレゼンテーションで100％評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC632J			
会計系列		備 考	
科 目 名	会計情報論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　名越　洋子		

授業の概要・到達目標

修士論文の執筆ができるよう支援すべく，また会計実務に関わる職種に携わる際に役立つよう，論文の執筆方法やプレゼンテーションのしかたを学ぶ。各自でテーマを持ち寄り，報告することを原則とする。その際，素材を探すために，コーポレート・ガバナンス，企業結合，連結経営，無形資産，転換社債などをテーマに，投資家向けの会計情報について考察した論文を読む。日本語と英語の両方を読む。

なお，論文の執筆力と効率性を高めるために，ワードのソフトの活用方法についても，情報提供を行いたい。アウトライン機能を用いて，章や節の構想を立てながら，50,000～100,000字程度の修士論文の執筆にいかしてほしい。

授業内容

第1回　修士論文のテーマの再確認
第2回　論文のアウトラインの見直し（ワードの活用方法の確認）
第3回　論文のアウトラインの見直し
第4回　アウトラインの中で不十分なところを探す（1）
第5回　アウトラインの中で不十分なところを探す（2）
第6回　修士論文に関する報告：日本の会計基準（1）
第7回　修士論文に関する報告：日本の会計基準（2）
第8回　比較する論点をまとめる（1）
第9回　比較する論点をまとめる（2）
第10回　修士論文に関する報告：国際会計基準（財務報告基準）（1）
第11回　修士論文に関する報告：国際会計基準（財務報告基準）（2）
第12回　修士論文に関する報告：米国の会計基準（1）
第13回　修士論文に関する報告：米国の会計基準（2）
第14回　参考文献リストと注記の書き方の確認

履修上の注意

報告について積極的な姿勢を示してほしい。修士論文を完成すべく，テーマを設定し，追求してほしい。

英語により，米国の会計基準や国際財務報告基準の原文にあたる程度の英語力を求めたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文執筆の準備として，調査や下調べを必ず行ってほしい。また，50,000～100,000字程度の修士論文を執筆するというイメージを明快にし，ワードにも習熟してほしい。

教科書

開講時に指定する。ワードについては，田中幸夫『卒論執筆のための Word 活用術―美しく仕上げる最短コース』（講談社）をおすすめしたい。

参考書

開講時に指定する。ただ，ジャーナルを素材にする予定である。その他，IFRS や米国会計基準を用いる。

成績評価の方法

報告時の内容，プレゼンテーションで100％評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) LAW522J			
会計系列		備 考	
科 目 名	租税法特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　Dr. jur.　松原　有里		

授業の概要・到達目標

【授業の到達目標及びテーマ】

わが国の国際租税法および税制改正にも深く関係するOECD国際租税委員会の報告書（Piller I）を輪読する。大学院生として，必要な租税法に関する専門知識と語学力（英語）を身に着けると同時に，今後のわが国の租税政策の方向性および概要についても，参加者が自ら理解し，議論できるようにするべく，ディベート力を高める。

【授業の概要】

輪読方式で進める。参加者の語学力をUPさせることを目標に，割り当て分を事前に訳し，それを指導教員に提出した上で，当日の配布資料として全員で議論を進める。

授業内容

第１回　ガイダンス―テキストの説明および分担決定―
第２回　第１章　概要　（Executive Summary）
第３回　第２章　範囲　（Scope）
第４回　第３章　関連性　（Nexus）
第５回　第４章　収益源泉ルール（課税ベースの決定（Revenue sourcing rules）
第６回　第５章　課税ベースの決定（Tax Base Determination）
第７回　第６章　利益の分配（Profit Allocation）
第８回　第７章　二重課税の排除（Elimination of double taxation）
第９回　第８章　Amount A
第10回　第９章　税の確実性（Tax Certainty）
第11回　第10章　適用および行政（Implementation and administration）
第12回　補足 A,B,C
第13回　実務家によるゲスト講義
第14回　総括

履修上の注意

英語読解力が十分にあること，および大学学部レベルの租税法および財政学の基礎知識があることを前提とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

予め，英文の予習をしてくること。合わせて，わが国の現行制度についても考えてくること。

教科書

OECD　BEPS2.0　Blueprint
インターネット上でダウンロード可（初回に説明）

参考書

参加者のレベルに応じて，適宜指示する。

成績評価の方法

授業への参加態度（20％），発表および期末レポートの内容（合わせて80％）を総合的に判断して決める。

その他

科目ナンバー：(CO) LAW522J			
会計系列		備 考	
科 目 名	租税法特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　Dr. jur.　松原　有里		

授業の概要・到達目標

【授業の到達目標及びテーマ】

わが国の租税法および税制改正にも深く関係する近年のOECD国際租税員会のBEPS2.0のを輪読する。

大学院生として，必要な租税法に関する専門知識と語学力（英語）を身に着けると同時に，昨今話題となっている消費税や環境税，富裕税に対し，わが国は，どう向き合うべきか，今後の租税政策の方向性についても，参加者が自ら議論できるようにする。

なお，外国人専門家（ゲスト講師）による解説も予定しているのでその回は必ず出席すること。

【授業の概要】

輪読方式で進める。参加者は春学期同様，予め割り当てられた箇所を事前に全て訳し，それを至当教員に前日までに提出した上で，当日の配布資料として全員で議論を進める。

授業内容

第１回　ガイダンスーテキスト（Piller Ⅱの説明および分担決定―
第２回　第１章　総論
第３回　第２章　GloBEの範囲
第４回　第３章　GloBEルールの下でのETRの算定
第５回　第４章　繰り延べとカーブアウト
第６回　第５章　簡素化のオプション
第７回　第６章　所得含有およびスウィッチ・オーバールール
第８回　第７章　アンダータックス・ペイメント・ルール
第９回　第８章　関連・共同・孫会社のための特例
第10回　外国人ゲスト講師による近年の諸外国の環境税の解説（英語･日本語）
第11回　第９章　サブジェクト・トゥー・タックス・ルール
第12回　第10章　適用と規則　協力
第13回　Piller Ⅱへの橋渡し
第14回　総括

履修上の注意

英語読解力が十分にあること，および大学レベルでの租税法および財政学の基礎知識があることを前提とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

予め，英文の予習をしてくること。合わせて，わが国の現行制度との異同についても考えてくること。

教科書

OECD　Blueprint　Piller Ⅱ
インターネット上でダウンロード可（初回に説明）

参考書

参加者のレベルに応じて，適宜指示する。

成績評価の方法

授業への参加態度（20％），発表内容および期末レポートの内容（合わせて80％）を総合的に判断して決める。

その他

科目ナンバー：(CO) LAW622J			
会計系列		備 考	
科 目 名	租税法特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Dr. jur.　松原　有里		

授業の概要・到達目標

わが国の租税判例について，所得税・法人税・相続税・消費税，国際課税等の国税を中心に，近年の主要判例を題材に研究する。租税法学は，他の法律と同様，関連法規の各条文と裁判所の判例によって発達してきたが，その隙間を行政庁の解釈である通達が埋めている。3者の関係をよく理解することが重要である。なお，参加者は，演習の最後に，所定の論文（中間レポート）を提出できるようにする。場合によっては，租税法以外の隣接法律もしくは経済系科目を適宜学ぶことになるが，それらを全て総合して法律の論文の書き方の基本をマスターすることを目標とする。

授業内容

第1回　ガイダンスおよび分担テーマ・判例の決定
第2回　図書館ツアー（明大図書館）
第3回　租税法律主義の判例研究
第4回　租税法の解釈に関する判例研究（借用概念）
第5回　租税債権に関する判例研究（詐害行為取消権）
第6回　所得税判例研究（譲渡所得）
第7回　所得税判例研究（不動産所得）
第8回　所得税判例研究（一時所得）
第9回　所得税判例研究（雑所得）
第10回　相続税判例研究（相続財産の評価）
第11回　相続税判例研究（同族会社の行為計算否認）
第12回　国際課税判例研究（過小資本税制）
第13回　国際課税判例研究（タックス・ヘイブン税制）
第14回　国税課税判例研究（移転価格税制）

履修上の注意

最低限，学部レベルでの租税法の知識を有していることが前提である。国家試験準備等を理由とする欠席は，原則として認めない。

準備学習（予習・復習等）の内容

事案は必ず予習してくること。当日は，それを前提に授業を進める予定である。

教科書

金子宏他編『ケースブック租税法（最新版）』（弘文堂）
金子宏『租税法（最新版）』（弘文堂）ほか，適宜指示する。

参考書

各自のテーマに応じて適宜指示する。

成績評価の方法

日ごろの演習参加態度（15％），発表レジュメ（25％）および期末に提出する中間レポート（60％）の提出をもって評価対象とする。

その他

科目ナンバー：(CO) LAW622J			
会計系列		備 考	
科 目 名	租税法特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Dr. jur.　松原　有里		

授業の概要・到達目標

わが国の租税判例について，法人税・贈与税法・消費税法・手続税等の国税を中心に，近年の主要判例を題材に研究する。租税法学は，他の法律と同様，関連法規の各条文と裁判所の判例によって発達してきたが，その隙間を行政庁の解釈である通達が埋めている。3者の関係をよく理解することが重要である。なお，参加者は，演習の最後に，所定の論文(修士論文の完成版)を提出できるようにする。場合によっては，租税法以外の隣接法律を適宜学ぶことになるが，それらを全て総合して法律の論文の書き方をマスターし，租税法の最新判例および論点を理解した上で，所定の論文を完成させることを目標とする。

授業内容

第1回　中間レポート（1回目）の返却および講評
第2回　学外の租税専門図書館を見学
第3回　学術論文の書き方についてのレクチャー
第4回　法人税の判例研究（法人格の有無）
第5回　法人税の判例研究（低廉譲渡・無償譲渡）
第6回　法人税の判例研究（確定決算主義）
第7回　法人税の判例研究（交際費他）
第8回　消費税の判例研究（仕入税額控除）
第9回　流通税の判例研究（登録免許税）
第10回　加算金の判例研究
第11回　租税争訟法の判例研究（更正・再更生）
第12回　租税争訟法の判例研究（理由の差替え）
第13回　租税処罰法の判例研究（租税逋脱犯）
第14回　租税刑事手続の判例研究（犯則事件）

履修上の注意

最低限，学部レベルでの租税法の知識を有していることが前提である。また，国家試験準備等を理由とする欠席は，原則として認めない。

準備学習（予習・復習等）の内容

事案は必ず予習してくること。当日は，それを前提に授業を進める。

教科書

金子宏他編『ケースブック租税法（最新版）』（弘文堂）
金子宏『租税法（最新版）』（弘文堂）ほか，適宜指示する。

参考書

同左。参加者各自の論文のテーマに応じて，適宜指示する。

成績評価の方法

日ごろの演習参加態度（15％），中間レポート（2回目）提出1回（25％）および最終論文（60％）の提出をもって評価対象とする。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC552J			
会計系列		備 考	
科 目 名	企業評価論特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　奈良　沙織		

授業の概要・到達目標
《授業の概要》
本演習は，修士論文を作成する上で必要となる知識や分析手法等を身に着けることを目的とする。春学期は企業評価に関する文献の講読を通し，基本的な論点の整理を行う。
《到達目標》
修士論文を作成する上で必要となる基礎的な知識や分析手法を習得する。

授業内容
第1回　イントロダクション
第2回　企業価値評価に関する文献の講読（1）
第3回　企業価値評価に関する文献の講読（2）
第4回　企業価値評価に関する文献の講読（3）
第5回　企業価値評価に関する文献の講読（4）
第6回　企業価値評価に関する文献の講読（5）
第7回　企業価値評価に関する文献の講読（6）
第8回　企業価値評価に関する文献の講読（7）
第9回　企業価値評価に関する文献の講読（8）
第10回　企業価値評価に関する文献の講読（9）
第11回　企業価値評価に関する文献の講読（10）
第12回　企業価値評価に関する文献の講読（11）
第13回　企業価値評価に関する文献の講読（12）
第14回　企業価値評価に関する文献の講読（13）
＊講義の内容および進捗は履修者の興味および理解の状況により変更の可能性がある。

履修上の注意
演習への出席およびアサインされた課題の発表は必須とする。予習や準備には十分な時間を要することをあらかじめ理解しておくこと。日本語および英語の文献を参照するため，十分な日本語と英語の能力を要する。本演習では実証分析をベースに修士論文を執筆することを目標としていることから，会計や株価データ分析を用いた分析を行う。基本的な統計の知識があること，統計ソフトが使えることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容
文献を十分に読み込みレジュメを作成する。

教科書
必要に応じて紹介する。

参考書
必要に応じて紹介する。

成績評価の方法
報告の内容（50％），本演習での議論の状況，貢献度など（50％）

その他

科目ナンバー：(CO) ACC552J			
会計系列		備 考	
科 目 名	企業評価論特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　奈良　沙織		

授業の概要・到達目標
《授業の概要》
本演習は，修士論文を作成する上で必要となる知識や分析手法等を身に着けることを目的とする。秋学期はサーベイ論文などを中心に英語論文の講読を行い，企業価値評価に関連する具体的な研究を把握するとともに，分析手法などについても学ぶ。
《到達目標》
修士論文を作成する上で必要となる基礎的な知識や分析手法を習得する。

授業内容
第1回　イントロダクション
第2回　企業価値評価に関する文献の講読（1）
第3回　企業価値評価に関する文献の講読（2）
第4回　企業価値評価に関する文献の講読（3）
第5回　企業価値評価に関する文献の講読（4）
第6回　企業価値評価に関する文献の講読（5）
第7回　企業価値評価に関する文献の講読（6）
第8回　企業価値評価に関する文献の講読（7）
第9回　企業価値評価に関する文献の講読（8）
第10回　企業価値評価に関する文献の講読（9）
第11回　企業価値評価に関する文献の講読（10）
第12回　企業価値評価に関する文献の講読（11）
第13回　企業価値評価に関する文献の講読（12）
第14回　企業価値評価に関する文献の講読（13）
＊講義の内容および進捗は履修者の興味および理解の状況により変更の可能性がある。

履修上の注意
演習への出席およびアサインされた課題の発表は必須とする。予習や準備には十分な時間を要することをあらかじめ理解しておくこと。日本語および英語の文献を参照するため，十分な日本語と英語の能力を要する。本演習では実証分析をベースに修士論文を執筆することを目標としていることから，会計や株価データ分析を用いた分析を行う。基本的な統計の知識があること，統計ソフトが使えることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容
文献を十分に読み込みレジュメを作成する。

教科書
必要に応じて紹介する。

参考書
必要に応じて紹介する。

成績評価の方法
報告の内容（50％），本演習での議論の状況，貢献度など（50％）

その他

科目ナンバー：(CO) ACC652J			
会計系列		備 考	
科 目 名	企業評価論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　奈良　沙織		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本演習では，履修者の報告をベースに討論を行い，修士論文に必要な知識を身に着けるとともに具体的な分析を行うことで修士論文の土台を作る。修士論文を作成するにあたり各自テーマを設定の上，前半では研究テーマに関連する文献の報告を行ってもらう。後半では，データの収集方法について説明するので，先行研究に倣い分析を行った上で結果の報告をしてもらう。

《到達目標》

修士論文のテーマを決定し，必要なデータをそろえ，初歩的な分析を実施できるようになる。

授業内容

第1回　研究テーマについてのディスカッション
第2回　先行研究の調査方法について
第3回　研究テーマに関する文献の報告と討論（1）
第4回　研究テーマに関する文献の報告と討論（2）
第5回　研究テーマに関する文献の報告と討論（3）
第6回　研究テーマに関する文献の報告と討論（4）
第7回　研究テーマに関する文献の報告と討論（5）
第8回　データ取得のためのデータベースについて
第9回　研究テーマに関する分析結果の報告と討論（1）
第10回　研究テーマに関する分析結果の報告と討論（2）
第11回　研究テーマに関する分析結果の報告と討論（3）
第12回　研究テーマに関する分析結果の報告と討論（4）
第13回　研究テーマに関する分析結果の報告と討論（5）
第14回　研究テーマに関する分析結果の報告と討論（6）
＊講義の内容および進捗は履修者の興味および理解の状況により変更の可能性がある。

履修上の注意

演習への出席およびアサインされた課題の報告は必須とする。予習や準備には十分な時間を要することをあらかじめ理解しておくこと。日本語および英語の文献を参照するため，十分な日本語と英語の能力を要する。本演習では実証分析をベースに修士論文を執筆することを目標としていることから，会計や株価データ分析が必須である。基本的な統計の知識があること，統計ソフトの使い方に慣れていることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマに関連する文献を十分に読み込みレジュメを作成する。また，先行研究に倣いデータ分析を行い，報告のための資料を作成する。

教科書

必要に応じて紹介する。

参考書

必要に応じて紹介する。

成績評価の方法

報告の内容（50％），本演習での議論の状況，貢献度など（50％）

その他

科目ナンバー：(CO) ACC652J			
会計系列		備 考	
科 目 名	企業評価論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　奈良　沙織		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

本演習では，履修者の報告をベースに討論を行う。前半では修士論文のテーマに従って分析結果の報告を行ってもらう。後半では，先行研究と分析結果をもとに修士論文のドラフト発表を行う。最後の2回は修士論文の最終報告を予定している。

《到達目標》

修士論文を完成させる。

授業内容

第1回　修士論文のテーマと方向性についての確認
第2回　分析結果の報告と討論（1）
第3回　分析結果の報告と討論（2）
第4回　分析結果の報告と討論（3）
第5回　分析結果の報告と討論（4）
第6回　分析結果の報告と討論（5）
第7回　修士論文執筆に向けてのレクチャー
第8回　修士論文ドラフト発表（1）
第9回　修士論文ドラフト発表（2）
第10回　修士論文ドラフト発表（3）
第11回　修士論文ドラフト発表（4）
第12回　修士論文ドラフト発表（5）
第13回　修士論文最終報告（1）
第14回　修士論文最終報告（2）
＊講義の内容および進捗は履修者の興味および理解の状況により変更の可能性がある。

履修上の注意

演習への出席およびアサインされた課題の報告は必須とする。予習や準備には十分な時間を要することをあらかじめ理解しておくこと。日本語および英語の文献を参照するため，十分な日本語と英語の能力を要する。本演習では実証分析をベースに修士論文を執筆することを目標としていることから，会計や株価データ分析が必須である。基本的な統計の知識があること，統計ソフトの使い方に慣れていることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマに関連する文献を十分に読み込みレジュメを作成する。また，先行研究に倣いデータ分析を行い，報告のための資料を作成する。

教科書

必要に応じて紹介する。

参考書

必要に応じて紹介する。

成績評価の方法

報告の内容（50％），本演習での議論の状況，貢献度など（50％）

その他

科目ナンバー：(CO) ACC541J			
会計系列		備 考	
科 目 名	意思決定会計論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　前田　陽		

授業の概要・到達目標

本講義では管理会計をより深く理解するために，現代における管理会計研究の文献を輪読する。

管理会計にはマネジャーの意思決定に資するという役割が期待されている。本講義では，企業におけるマネジャーが日々の経営活動を行なう上で直面する諸問題に資する管理会計についての理解を深める。

本講義では修士論文等の研究を進めるために必要な管理会計研究における先行研究を輪読し，その知見を得ることを到達目標とする。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　原価計算の意義・原価計算モデル
第3回　原価計算制度の意義と基本構造
第4回　取得原価の計算・費目別計算
第5回　部門別計算
第6回　製品別計算　その1
第7回　製品別計算　その2
第8回　標準原価計算制度
第9回　直接原価計算制度・CVP分析
第10回　価格決定と原価計算
第11回　原価管理の充実
第12回　ABC
第13回　意思決定と差額原価収益分析
第14回　投資の意思決定とDCF法
※講義内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

本講義では経営・会計に関する研究書等を輪読するが，指定された文献・資料のみを読むのではなく，討論に耐えうるよう必要な周辺知識を事前に得ることを期待する。本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

教科書

・廣本敏郎・挽文子（2015）『原価計算論 第3版』中央経済社。

上記を教科書とする。各自準備しておくこと。

参考書

講義中に参考書等を適宜示す。

成績評価の方法

講義への貢献度（60％）を重視し，さらに研究発表や課題などの成績（40％）によって総合的に評価する。

その他

履修を希望するものは，初回授業前までにsun@meiji.ac.jpにメールし，履修予定である旨の連絡をすること。

科目ナンバー：(CO) ACC541J			
会計系列		備 考	
科 目 名	意思決定会計論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　前田　陽		

授業の概要・到達目標

本講義では管理会計をより深く理解するために，現代における管理会計研究の文献を輪読する。

管理会計にはマネジャーの意思決定に資するという役割が期待されている。本講義では，企業におけるマネジャーが日々の経営活動を行なう上で直面する諸問題に資する管理会計についての理解を深める。

本講義では修士論文等の研究を進めるために必要な管理会計研究における先行研究を輪読し，その知見を得ることを到達目標とする。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　戦略的管理会計とは何か
第3回　コーポレート・ガバナンスとサステナビリティー
第4回　会計とアナリティクス
第5回　戦略的管理会計の将来の方向性
第6回　財務報告2.0
第7回　理論から実務へ
第8回　市場の事例
第9回　統合報告と会計の将来
第10回　トヨタの原価企画の現状
第11回　戦略的管理会計
第12回　アンケート・インタビューの結果と考察
第13回　MCSの視点からの検討
第14回　車担のコミュニケーション力
※講義内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

本講義では経営・会計に関する研究書等を輪読するが，指定された文献・資料のみを読むのではなく，討論に耐えうるよう必要な周辺知識を事前に得ることを期待する。本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

教科書

・伊藤和憲・小西範幸 監訳（2018）『戦略的管理会計と統合報告』同文舘出版。
・小林英幸（2017）『原価企画とトヨタのエンジニアたち』中央経済社。

上記を教科書とする。各自準備しておくこと。

参考書

講義中に参考書等を適宜示す。

成績評価の方法

講義への貢献度（60％）を重視し，さらに研究発表や課題などの成績（40％）によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC561J			
会計系列		備 考	
科 目 名	監査論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　加藤　達彦		

授業の概要・到達目標

監査に関して現在もっとも重要な問題になっている事項をとりあげる。修士論文のテーマを決定する際に，参考となる情報を提示することを狙いとする。日本の会計制度と監査制度についての基礎的な理解とその問題点を整理することを到達目標とする。

授業内容

第1回　監査証拠と監査要点（フランスのシャンパン醸造会社の棚卸資産）
第2回　監査のリスク・アプローチ1（売掛金と貸倒引当金）
第3回　監査のリスク・アプローチ2（為替換算調整勘定と包括利益）
第4回　監査報告書の記載要件と監査意見（大塚家具の監査報告書日産のV字回復および東武鉄道の減価償却方法の変更）
第5回　監査制度改革の思わぬ落とし穴（退職給付債務の積み立て不足の会計処理）
第6回　監査意見の根拠の基礎（連結範囲の判断基準と税効果会計）
第7回　限定付適正意見と意見不表明（東芝の工事損失引当金の認識）
第8回　意見不表明の例と四半期レビュー（工事進行基準の乱用）
第9回　継続企業の前提に関する開示1（二重責任の原則）
第10回　継続企業の前提に関する開示2（レオパレスの四半期レビュー）
第11回　内部統制1（住友商事の巨額不正事件と住友重機械の労組における女性組員の横領事件）
第12回　内部統制2（ネットワンの循環取引）
第13回　監査上の主要な検討事項1（イギリスのロールスロイス社におけるリース会計の新基準の採用）
第14回　監査上の主要な検討事項2（ソニーの繰延税金資産の回収可能性）

履修上の注意

講義への毎回の出席は必須である。また毎回何度か出席者に意見の発言を求めるので，積極的な対応が望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容

前回の講義でとりあげたことについて配布資料を参考にしながら十分な理解ができたかを必ず確認する。

教科書

加藤達彦『監査制度デザイン論―戦略的アプローチと実験的アプローチの応用―』森山書店（2005）

参考書

講義の際に指示する。

成績評価の方法

授業での報告や発言またはレポートの提出（100%）により評価する。なおレポートはその講義の終了時に提出することを原則とする。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC561J			
会計系列		備 考	
科 目 名	監査論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　加藤　達彦		

授業の概要・到達目標

欧米における会計学および監査論の研究は，現在ほとんどすべてが統計学または経済学的アプローチをとっており，経済学の応用分野とみなされている。ここではその中でも中心的な役割を果たしているゲーム理論的アプローチを紹介する。また講義ではゲーム理論を基礎とした実験会計学的アプローチについても紹介する。実験では受講者が被実験者となってゲームに参加し，監査の役割の重要性を各自体験する機会を提供する可能性がある。ゲーム理論の基礎的枠組みを，受講者各自が関心がある会計・監査分野に応用して分析することを到達目標とする。

授業内容

第1回　監査と監査人の役割　―新興企業に対する監査難民問題
第2回　監査人のサポート1　―日本の仕組み
第3回　監査人のサポート2　―監査役と社外取締役
第4回　監査の生成要因1　―モニタリング仮説と保険仮説
第5回　監査の生成要因2　―情報仮説
第6回　資本市場におけるレモン問題　―「囚人のジレンマ」の応用
第7回　監査のシグナリング機能と監査制度の設計　―メカニズムデザインの応用
第8回　株式の持ち合いの解消と監査の重要性の再認識―「囚人のジレンマ」の繰り返しの応用
第9回　監査基準の存在意義　―監査の画一化と監査品質の監視の効率化
第10回　監査人の独立性1　―独立性の概念と監査市場の実態および監査法人の強制交代制度の導入の是非
第11回　監査人の独立性2　―競争やコンサルティング業務の供与が独立性に及ぼす影響と保証業務
第12回　監査制度の改善可能性1　―監査市場におけるレモン問題と歴史的経路依存性
第13回　監査制度の改善可能性2　―進化的安定戦略（ESS）と突然変異的変革
第14回　脳科学や行動経済学から見た会計士の倫理観

履修上の注意

講義への毎回の出席は必須である。理解度を確認するために毎回出席者に質問をするので，積極的な対応が望まれる。また要求される数学の程度は中学卒業程度で十分対応可能である。

準備学習（予習・復習等）の内容

前回の講義で配布した資料などを参考にして前回の講義内容を十分に理解しているかを確認する。

教科書

加藤達彦『監査制度デザイン論―戦略的アプローチと実験的アプローチの応用―』森山書店（2005）

参考書

なし

成績評価の方法

授業での報告や発言またはレポートの提出（100%）により評価する。なお，レポートはその講義の終了時に提出することを原則とする。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC571J			
会計系列		備 考	
科 目 名	国際会計論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　山本　昌弘		

授業の概要・到達目標

国際会計基準は，2005年1月からEUの上場企業に強制適用され，また米国財務会計基準との国際統合も進んでいる。日本では2002年に米国基準，2009年には国際会計基準が解禁されている。国際会計論特論の講義では，国際会計基準や米国財務会計基準など異なる会計基準が企業財務行動に及ぼす影響について検討していく。春学期Aは，国際会計論について，とりわけその比較制度論的側面に重点を置く。そこでは国際会計基準や米国会計基準の各論（連結会計，時価会計，キャッシュ・フロー会計）や，国際税務制度（移転価格税制，外国税額控除），外貨換算会計(決算日レート法，テンポラル法)などを取り上げる。

授業内容

第1回　国際会計総論（第1章）
第2回　概念フレームワーク
第3回　IFRSと日本の会計制度
第4回　連結の会計（第2章）
第5回　時価の会計
第6回　キャッシュ・フローの会計
第7回　国際会計基準審議会と国際統合報告評議会（第3章）
第8回　国際会計士連盟とOECD
第9回　米国会計制度発達史（第4章）
第10回　会計革命
第11回　会計し制度と不正対応
第12回　英国の会計制度（第5章）
第13回　ドイツの会計制度
第14回　英米型会計制度と大陸型会計制度

履修上の注意

国際会計論は国際会計の制度論（国際会計論A）と国際会計の実証論によって成立するので，国際会計論特論Bと同時に履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。復習として配布資料と教科書の突合せを行うこと。

教科書

山本昌弘『国際会計・財務論―IFRSの展開と国際経営財務の実践』文眞堂，2002年。

参考書

R.ワッツ・J.ジマーマン『実証理論としての会計学』白桃書房，1991年。
S.サンダー『会計とコントロールの理論』勁草書房，1998年。
山本昌弘『会計とは何か』講談社2008年。
山本昌弘『会計制度の経済学』日本評論社，2006年。

成績評価の方法

授業への貢献度（発言内容など）を重視して評価する。

その他

教材は原則として日本語のものを使用するため，高度な語学力は要求されない。

科目ナンバー：(CO) ACC571J			
会計系列		備 考	
科 目 名	国際会計論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　山本　昌弘		

授業の概要・到達目標

国際会計論特論Bは，国際会計論特論Aが国際会計の制度論を取り扱うのに対し，国際会計の実証論を主要テーマとする。その際にRoss WattsとJerold Zimmermanの実証会計理論（PAT）に依拠して出来る限り実証的に講義を行いたい。会計の研究は，会計基準のテキスト・クリティークによって完結するものではなく，そうした会計基準が現実の企業行動にどのような影響を及ぼしているかについて公表された財務データによって経験的に検証されてはじめて社会科学として成立するからである。実証研究はまた，規範的な政策を論理整合的に導き出すためにも不可欠である。

国際会計論特論Bでは，以前から米国基準による決算が認められてきた日本企業が国内基準で決算を行ってきた企業と統計上どのような財務特性が認識されるか，キャッシュ・フロー計算書の制度化が企業にどのような影響を及ぼしているか，企業の報告利益にはなんらかの政策が施されているかといった実証的な諸テーマについて重点的に取り上げる。

授業内容

第1回　経営財務総論（第6章）
第2回　伝統的な投資決定と企業分析
第3回　多元的な評価指標
第4回　外貨換算会計（第7章）
第5回　国際資金調達
第6回　為替リスク管理
第7回　国際課税の制度（第8章）
第8回　移転価格税制
第9回　過少資本税制と外国税額控除制度
第10回　海外進出の財務意思決定（第9章）
第11回　海外投資決定のプロセス
第12回　グロバル戦略と意思決定（第10章）
第13回　国際管理会計のシステム
第14回　グローバル・グループの経営管理

履修上の注意

国際会計論は国際会計の制度論と国際会計の実証論によって成立するので，国際会計論特論Aと同時に履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。復習として配布資料と教科書の突合せを行うこと。

教科書

山本昌弘『国際会計・財務論―IFRSの展開と国際経営財務の実践』文眞堂，2020年。他に，山本昌弘が執筆した『旬刊経理情報』や『週刊エコノミスト』などの雑誌論文やケース教材を使用する。

参考書

山本昌弘『株とは何か』講談社，2011年。山本昌弘『実証会計学で考える企業価値と株価』東洋経済新報社，2009年。山本昌弘『国際会計論』文眞堂，2008年。山本昌弘『戦略的投資決定の経営学』文眞堂，1998年。

成績評価の方法

授業への貢献度（発言内容など）を重視して評価する。

その他

教材は原則として日本語のものを使用するため，高度な語学力は要求されない。

科目ナンバー：(CO) ACC531J			
会計系列		備 考	
科 目 名	会計情報論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　名越　洋子		

授業の概要・到達目標

会計や金融を専攻する学生を対象として，会計を情報と見る立場から，情報開示の現状と決算を支えている考え方を議論する。

専門的な文献を読み，プレゼン資料を作成し，報告してもらう。修士論文の作成のほか，会計や金融をつかった職種に携わる際の報告のしかたを学んでいくことになる。

切り口は財務会計からであるが，金融，環境など，ビジネスに役立つ分野をとりあげる。

授業内容

第1回：イントロダクション（日本基準・米国基準・IFRS）（輪読する文献の選択）
第2回：財務会計の基礎概念（1）
第3回：財務会計の基礎概念（2）
第4回：財務会計の基礎概念（3）
第5回：財務会計の基礎概念（4）
第6回：企業会計制度と会計基準（1）
第7回：企業会計基準と会計基準（2）
第8回：資産会計各論
第9回：流動資産（1）
第10回：流動資産（2）
第11回：棚卸資産
第12回：暗号資産
第13回：固定資産（1）
第14回：固定資産（2）

履修上の注意

講義形式と報告形式を組み合わせて行う予定である。報告形式の際は準備をしてほしい。

会計学の基本的な知識があることを前提とする。ファイナンスや連結会計に関心があり，投資家への情報開示について興味のある者の受講を歓迎する。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告形式の場合は，割り当ての話し合いには参加し，割り当てられた担当部分の報告の際は，レジュメを作成すること。むろん口頭でプレゼンテーションを行ってもらう。

教科書

佐藤信彦・河崎照行・齋藤真哉・柴健次・高須教夫・松本敏史『財務会計論Ⅰ・Ⅱ』（中央経済社）を予定している。受講者による輪読の予定である。

参考書

IFRS と米国基準に関する英文解説書

成績評価の方法

報告時の内容，報告のしかたで100％評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC531J			
会計系列		備 考	
科 目 名	会計情報論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　名越　洋子		

授業の概要・到達目標

会計や金融を専攻する学生を対象として，会計を情報と見る立場から，情報開示の現状と決算を支えている考え方を議論する。

専門的な文献を読み，プレゼン資料を作成し，報告してもらう。修士論文の作成のほか，会計や金融をつかった職種に携わる際の報告のしかたを学んでいくことになる。

切り口は財務会計からであるが，資金調達，連結，経営統合など，ビジネスに役立つ分野をとりあげる。

授業内容

第1回：イントロダクション（金融商品取引法，有価証券報告書，日本基準と IFRS 基準）
第2回：繰延資産
第3回：負債（1）
第4回：負債（2）
第5回：純資産（1）
第6回：純資産（2）
第7回：収益と費用（1）
第8回：収益と費用（2）
第9回：連結会計（1）
第10回：連結会計（2）
第11回：修士論文の執筆に向けてのテーマ報告（1）
第12回：修士論文の執筆に向けてのテーマ報告（2）
第13回：修士論文の執筆に向けての研究報告（1）
第14回：修士論文の執筆に向けての研究報告（2）

履修上の注意

講義形式と報告形式を組み合わせて行う。報告形式の際には，準備をしてほしい。

会計学の基本的な知識があることを前提とする。ファイナンス，連結，コーポレート・ガバナンスに関心があり，投資家への情報開示につて興味のある者の受講を歓迎する。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告形式の場合は，割り当ての話し合いには参加し，割り当てられた担当部分の報告の際は，レジュメを作成すること。むろん口頭でプレゼンテーションを行ってもらう。

教科書

佐藤信彦・河崎照行・齋藤真哉・柴健次・高須教夫・松本敏史『財務会計論Ⅰ・Ⅱ』（中央経済社）の予定である。受講者による輪読の予定である。

参考書

IFRS と米国会計基準に関する英文解説書

成績評価の方法

報告時の内容，報告のしかたで100％評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) LAW521J			
会計系列		備 考	
科 目 名	租税法特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Dr. jur.　松原　有里		

授業の概要・到達目標

【授業の到達目標及びテーマ】

わが国の国際租税法および税制改正にも深く関係するOECD国際租税委員会の報告書（Piller I）を輪読する。大学院生として，必要な租税法に関する専門知識と語学力（英語）を身に着けると同時に，今後のわが国の租税政策の方向性および概要についても，参加者が自ら理解し，議論できるようにするべく，ディベート力を高める。

【授業の概要】

輪読方式で進める。参加者の語学力をUPさせることを目標に，割り当て分を事前に訳し，それを指導教員に提出した上で，当日の配布資料として全員で議論を進める。

授業内容

第1回　ガイダンス―テキストの説明および分担決定―
第2回　第1章　概要　（Executive Summary）
第3回　第2章　範囲　（Scope）
第4回　第3章　関連性　（Nexus）
第5回　第4章　収益源泉ルール（課税ベースの決定（Revenue sourcing rules）
第6回　第5章　課税ベースの決定（Tax Base Determination）
第7回　第6章　利益の分配（Profit Allocation）
第8回　第7章　二重課税の排除（Elimination of double taxation）
第9回　第8章　Amount A
第10回　第9章　税の確実性（Tax Certainty）
第11回　第10章　適用および行政（Implementation and administration）
第12回　補足A,B,C
第13回　実務家によるゲスト講義
第14回　総括

履修上の注意

英語読解力が十分にあること，および大学学部レベルの租税法および財政学の基礎知識があることを前提とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

予め，英文の予習をしてくること。合わせて，わが国の現行制度についても考えてくること。

教科書

OECD　BEPS2.0　Blueprint
インターネット上でダウンロード可（初回に説明）

参考書

参加者のレベルに応じて，適宜指示する。

成績評価の方法

授業への参加態度（20%），発表および期末レポートの内容（合わせて80%）を総合的に判断して決める。

その他

科目ナンバー：(CO) LAW521J			
会計系列		備 考	
科 目 名	租税法特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Dr. jur.　松原　有里		

授業の概要・到達目標

【授業の到達目標及びテーマ】

わが国の租税法および税制改正にも深く関係する近年のOECD国際租税員会のBEPS2.0のを輪読する。

大学院生として，必要な租税法に関する専門知識と語学力（英語）を身に着けると同時に，昨今話題となっている消費税や環境税，富裕税に対し，わが国は，どう向き合うべきか，今後の租税政策の方向性についても，参加者が自ら議論できるようにする。

なお，外国人専門家（ゲスト講師）による解説も予定しているのでその回は必ず出席すること。

【授業の概要】

輪読方式で進める。参加者は春学期同様，予め割り当てられた箇所を事前に全て訳し，それを至当教員に前日までに提出した上で，当日の配布資料として全員で議論を進める。

授業内容

第1回　ガイダンスーテキスト（Piller Ⅱの説明および分担決定―
第2回　第1章　総論
第3回　第2章　GloBEの範囲
第4回　第3章　GloBEルールの下でのETRの算定
第5回　第4章　繰り延べとカーブアウト
第6回　第5章　簡素化のオプション
第7回　第6章　所得含有およびスウィッチ・オーバールール
第8回　第7章　アンダータックス・ペイメント・ルール
第9回　第8章　関連・共同・孫会社のための特例
第10回　外国人ゲスト講師による近年の諸外国の環境税の解説（英語･日本語）
第11回　第9章　サブジェクト・トゥー・タックス・ルール
第12回　第10章　適用と規則　協力
第13回　Piller Ⅱ　への橋渡し
第14回　総括

履修上の注意

英語読解力が十分にあること，および大学レベルでの租税法および財政学の基礎知識があることを前提とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

予め，英文の予習をしてくること。合わせて，わが国の現行制度との異同についても考えてくること。

教科書

OECD　Blueprint　Piller Ⅱ
インターネット上でダウンロード可（初回に説明）

参考書

参加者のレベルに応じて，適宜指示する。

成績評価の方法

授業への参加態度（20%），発表内容および期末レポートの内容（合わせて80%）を総合的に判断して決める。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC551J			
会計系列		備 考	
科 目 名	企業評価論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　奈良　沙織		

授業の概要・到達目標
《授業の概要》
　会計やファイナンス分野で修士論文を執筆する学生を主な対象に，企業評価の基本的な考え方および手法を学ぶとともに，重要な論点について解説する。春学期は，財務諸表の概要および分析手法，様々なバリュエーションモデルについて学ぶ。そのうえで，財務諸表に大きな影響を与える経営戦略と会計戦略について講義を行う。
《到達目標》
　修士論文作成に必要となる基本的な企業価値評価の手法を身に着け，企業価値評価の主要な論点を押さえる。

授業内容
第1回：イントロダクション―なぜ企業価値評価か？
第2回：企業価値評価の概要
第3回：貸借対照表に関する論点
第4回：損益計算書に関する論点
第5回：キャッシュフロー計算書に関する論点
第6回：レシオ分析（1）収益性と成長性の分析
第7回：レシオ分析（2）安全性と効率性の分析
第8回：バリュエーションモデル（1）マーケットアプローチ
第9回：バリュエーションモデル（2）インカムアプローチ
第10回：経営戦略の分析（1）企業の事業内容に関する分析
第11回：経営戦略の分析（2）業界の分析，資本構成の分析
第12回：会計戦略の分析（1）会計のフレキシビリティと利益調整
第13回：会計戦略の分析（2）技術的会計政策と実質的会計政策
第14回：全体のまとめ
＊講義の内容および進捗は履修者の興味および理解の状況により変更の可能性がある。

履修上の注意
　講義内容をもとに実際の事例を用いたケーススタディを行うため，積極的な授業への参加が望まれる。基礎的な会計の知識があることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容
　事前に示した講義で扱う文献について，目を通してくること。

教科書
『企業評価論入門』　奈良沙織　（中央経済社）など。必要に応じて紹介する。

参考書
　必要に応じて紹介する。

成績評価の方法
　レポート（50％）と講義への貢献（50％）により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC551J			
会計系列		備 考	
科 目 名	企業評価論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　奈良　沙織		

授業の概要・到達目標
《授業の概要》
　会計やファイナンス分野で修士論文を執筆する学生を主な対象に，企業評価の基本的な考え方および手法を学ぶとともに，重要な論点について解説する。秋学期は，将来性の分析や資本コストの推定など企業価値評価の各論について講義を行う。また，企業評価の実践として，株式分析やEVA，M&Aなどをテーマに扱う。
《到達目標》
　修士論文作成に必要となる基本的な企業価値評価の手法を身に着け，企業価値評価の主要な論点を押さえる。

授業内容
第1回：イントロダクション―企業評価論特論Aの復習
第2回：将来性の分析
第3回：ディスクロージャーと株式市場（1）業績予想の開示
第4回：ディスクロージャーと株式市場（2）ディスクロージャー
第5回：ディスクロージャーと株式市場（3）アナリストの役割
第6回：株式分析（1）ファンドの運用と株式投資
第7回：株式分析（2）アノマリーと行動ファイナンス
第8回：資本コストとリスク評価（1）資本コストの計算
第9回：資本コストとリスク評価（2）負債の導入と評価
第10回：資本コストとリスク評価（3）EVA
第11回：M&A（1）企業価値向上のためのM&A
第12回：M&A（2）敵対的買収と買収防衛策
第13回：無形資産の評価
第14回：全体のまとめ
＊講義の内容および進捗は履修者の興味および理解の状況により変更の可能性がある。

履修上の注意
　講義内容をもとに実際の事例を用いたケーススタディを行うため，積極的な授業への参加が望まれる。企業評価論特論Aを履修していること。

準備学習（予習・復習等）の内容
　事前に示した講義で扱う文献について，目を通してくること。

教科書
『企業評価論入門』奈良沙織（中央経済社）など。必要に応じて紹介する。

参考書
　必要に応じて紹介する。

成績評価の方法
　レポート（50％）と講義への貢献（50％）により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備　考	
科 目 名	金融理論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　小原　英隆		

授業の概要・到達目標

《概要》
貨幣哲学に関して，研究を深め，修士論文を書きはじめる基礎レベルがための論文講読訓練を行う。貨幣哲学とは，企業への就職，キャリアアップ，お金稼ぎ，金融実務とは無関係の純粋学問的分野であり，数式モデルをも駆使して，現代貨幣経済の根源をなす貨幣の働き，貨幣とは何か，などを，抽象的，根源的に考察する。
初学者向けの概論などは，一切行わない。初学者向けレベル，概論レベルは，経済，商学部，経営学部の学部課程（Undergraduate）で，すでに習得しておくべきものであるからである。
また，当該分野以外のファイナンス分野一般，証券分析一般，金融実務（金融政策論，金融機関論や契約理論）や企業のデータ分析，ベンチャー起業，FIN-TECH，キャッシュレス，仮想通貨等にも一切対応しない。他の該当科目を受講すること。
学部と違って，大学院での教員ごとの専門細目は極めて厳格なものである。大学院レベルでは，金融一般何でも対応してくれというわけにはいかない。ピンポイントの専門細目によって，事前に十分調査し，慎重に指導教員を選択しないといけない。
研究型大学院では，知識を教員から与えられて覚えるということではなく，研究のやり方と作法を学んで，研究活動自体は授業時間以外にも，学生が自主的に量的にはるかに大量に行うものである。
本クラスは，コンピューター実習室において，学問的歴史研究の原資料の研究手法の訓練も行う予定である。学問的研究の第一次史料の実践的解読も行うので，一部，縦書き，旧かな遣いの日本語が読めることを必要とする。
研究型大学院の本研究室は，企業への就職やキャリアアップや金儲けのためのことは一切しないし，初学者が教員から広く浅く，効率よく知識を得る場ではありません。それを求める人は，ビジネススクール（経営大学院）に行くか，1～2年間で済む学士入学，編入学の形で学部の金融専攻をやること。研究型大学院は，学問の世界・研究の世界であり，慎重な真理追求のために，「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究する。音楽でいえば，古典＝クラシックである。それこそが，学問研究の道なのだ。研究大学院は，決して，手っ取り早く，現代にすぐ役立ちそうな知識だけをやる場ではない。
研究型大学院では，授業時間以外も，自立的に自分で研究活動を行うものだ。
もし，あなたが，「古臭い」偉い学者の説の検討やむかし経済の歴史を研究することに意義を感じられないタイプの人の場合は，ビジネススクール（経営大学院）に行くしかない。研究型大学院の院生は，ビジネススクールの授業や演習を一切聴講できない。実践的なビジネススクールの授業を受けたければ，最初からビジネススクールの入試で入学すること。ビジネススクールと研究型大学の根本的な違いは，良し悪しでも上下でもなく，タイプの違いであり，教育機関としての目的が全く異なるということなので，自分の目的に合う方を選択しなければならない。
また私の場合，学部と大学院での教育方針・内容が全く異なる。学部のディベートも，大学院では一切行わない。必ず大学院教育のシラバスだけを厳密に区別して読んで，志願先を判断すること。
なお入学後，途中で指導教員は変えられないので，本研究室の２年目の義務のことを予め述べておくと，２年目に書く修士論文のテーマは，貨幣哲学，貨幣数量理論の批判，貨幣理論の範囲内に限られる。修士論文は，学部の卒業論文のように，思いつきでの自由研究というわけには行かない。テーマはその学問分野の正統を踏まえた範囲に限られる。これは研究者人生のスタートとして，学問細目分野ごとのいわゆる学問的ディシプリン（規律，discipline）「スポーツで言う正しい基本フォーム，音楽で言う課題曲」をしっかり身に着けないと，最初から我流の剣では全くものにならないからである。だから，修士論文は自分の好き勝手なテーマでやれるものではない。自由研究などは，専門細目での学問的作法が身についた後，正しいフォームが身についた後，学問の体系に自分なりの独創性をどこまで加えられるかの話である。また，大学院の学位論文というものは，長い時間をかけて，計画的に研究活動・執筆を行わないと合格しないものである。修士課程は現実問題，時間がなく，正味１年と10か月で，修士論文を自力で，完成・提出しなければならない。２年目は，知識を広げるような展開は控え，自分の狭い専門分野細目内で腸目もふらず修士論文作成に集中することになる。これらを踏まえて，事前に指導教員の選択を十分に検討すること。
《授業の到達目標》
純粋学問的研究作法を身につけ，学術的研究を自力で行う端緒とする。修士論文は自力で書かないといけない。

授業内容

日本独自のケインズ貨幣理論の革新性の解明研究
第１回　貨幣の理論への扉
第２回　日本における受容過程
第３回　貨幣ヴェール観と貨幣の非中立性
第４回　高橋泰蔵の貨幣論解釈
第５回　貨幣の産業的流通と金融的流通
第６回　極限概念としての貨幣利子率
第７回　矢尾次郎の貨幣論解釈
第８回　貨幣の産業的流通と金融的流通
第９回　貨幣経済の本質　ニューメレールと貨幣
第10回　生産の貨幣的理論への探求
第11回　自然利子率概念の批判的検討
第12回　投資の利子弾力性
第13回　Sraffa による Hayek の自然利子率理論批判とケインズ擁護
第14回　貨幣数量理論の批判的再検討

履修上の注意

学部上級レベル（Advanced Level）の金融論，ミクロ経済学，マクロ経済学の知識を前提とする。数学（ファイナンスのための数学とも異なる）の知識を前提として要求する。
私の金融理論特論Ａ，Ｂとの同時履修を必須とする。
学問的研究の第一次史料の実際の解読を行うので，一部，縦書き，旧かな遣いの日本語文書が読めることを必要とする。
教室での議論は，輪番報告形式，日本語で行われる。演習は学究者同士が事前に十分な予習をしてきたうえで，リアルタイムに面と向かって，知恵を出し合い，そのコラボレーションで，皆が成長できる場となる。毎回，学生がレジュメを作ってきての発表プレゼンテーションの訓練，報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加が義務となる。
毎回出欠をとり，一回でも正当な事由のない欠席をした学生は，即Ｆとなる。ただ出席していても，毎回，予習を反映した有効な発言をしないと出席していることはみなさない。
日本の研究大学院のスタイルとして，教材は，基本的に英語となる。教室での議論やレジュメは，日本語で行う。英語の教材を読解・要約して，日本語レジュメを作る能力が必要である。
大学院での演習は学究者同士が事前に上記該当の回の教科書，論文を十分な予習をしてきたうえで，リアルタイムに面と向かって，ディスカッションする。報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加できるように，しっかりと予習をする義務がある。
また，貨幣理論では，受動的な姿勢では全く身につかず，自ら数式や論理をノートに手で書いて確認しないと，よく理解できない。報告者が他人の場合もしっかりと，毎回の予習と参加と復習が必須である。
修士課程（博士前期課程）ではまず理論モデルの力をつけることが第一と考え，理論のみに集中し，金融の制度的側面，国際比較，政策論，実証データ分析等は一切取り扱わない。
あなたの母国の金融制度・政策・インフレ等についても一切取り扱わない。それらは，それらに詳しいあなたの国の経済学者のもとで研究すべき課題だ。日本との金融政策などの比較研究の類も一切取り扱わない。理由は，今やインターネットで，日本銀行の金融政策の資料や外国の論文や資料のほとんどは母国に居ながらにして手に入るからである。だから，それは日本留学の理由にならない。母国で早く研究を始めてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

大学院での演習は学究者同士が事前に上記該当の回の教科書，論文を十分な予習をしてきたうえで，リアルタイムに面と向かって，ディスカッションする。報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加できるように，しっかりと予習をする義務がある。また，授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

『貨幣的経済理論の新展開』，高橋泰蔵，（勁草書房）
『貨幣的経済理論の基本問題―貨幣経済の構造と貨幣の作用』，矢尾次郎，（千倉書房）

参考書

この枠に入る範囲内，字数で少数の本を特に指定はしないが，研究型大学院では，使用した論文の参考文献一覧に載っている論文文献を学ぶ式に，膨大な量読むことになる。

成績評価の方法

Term Paper（期末論文）60％，上記授業での積極的発言の貢献度評価　40％。論文とは，単なるレポートではなく，きちっとした「論文」である必要がある。院生は，論文を書くのが仕事である。
学問的大学院では，講義に身を置いて，単位が取れればよいというものではなく，受身で人から知識を与えられることではなく，自ら研究活動を行い，研究論文を書くことが仕事である。研究活動とは，授業以外でも自発的にたくさんの文献の調査探求，思考，考察，取りまとめ整理，読者を説得する執筆すべてを含む。
期末論文必須は日本の他大学院や欧米の大学院では常識である。期末論文は，貨幣的経済理論に関する２年次修士論文への準備的論文であればそれを以って替えることができる。ただし，論文テーマは，教員の承認が必要。

その他

大学院は，学問の世界・研究の世界であり，慎重な真理追求のために，「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究する。自発的に自分で研究を深めてゆく，それこそが，学問研究の道なのだ。
研究大学院は，決して，手っ取り早く，現代にすぐ役立ちそうな知識や金儲けをやる場ではない。もし，あなたが，「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究することに意義を感じられないような人の場合は，ビジネススクール（経営大学院）に行ってください。
学部と違って，大学院は研究者への長い修業生活であり，大変厳しいものになることを覚悟すること。大学院は，訓練・修業の場である。決して学部の延長線上ではない。仕事として研究活動を行う容赦なく厳しい修業の日々である。大学院では，教員は「鬼」と化す。大学院では，学部と違って普段遊んだり，アルバイトなどをしている暇はない。
大学院のクラスは全て，その専門分野（経済学部，あるいは金融学科）の主要８科目くらいで学部上級レベルの予備知識のあることと毎回の予習・報告が前提となって並ぶ。クラスでは，基本的に院生の発表と議論しか行われない。
学部時代の講義やビジネススクールのように，実務に役立つ基準で，広く概論的基礎知識を一方的に与えられる場ではないことを心得よ。研究型大学院では，真理追求を目的に，自発的に自分で研究を深めてゆく。
研究型大学院のクラスは，教員から広く浅く，効率よく知識を得る場では断じてない。それを求める人は，ビジネススクール（経営大学院）に行くか，1～2年間の編入学，学士入学の学部 Undergraduate の金融専攻をやるべきである。
本校のような研究型大学院とビジネススクールでは，良し悪しではなく，目的が全く異なるのだ。ビジネススクールならば，現代の実務の必要なところだけの知識が効率的に与えられ，初学者でも OK，概論の講義が展開されるのだ。
この研究型大学院の院生は，ビジネススクールの授業や演習を一切聴講できない。実践的なビジネススクールの授業を受けたければ，最初からビジネススクールの入試で入学すること。
なお，日本では，いわゆるイブニング・スクールとして夜や土曜日曜でも習得できるビジネススクールが多いが，教授陣も優れており，大手金融機関，大企業の優秀な社員なども通学してくるので，アジア諸国とは逆に，日本では，イブニングスクールの地位は高いので，誤解のないようにすること。明治大学にも独立研究科，専門職大学院としてビジネススクールがあるので，進路をよく考えること。
どこでも入れば何とかなると考えるのは，全くの間違いだ。事前に慎重すぎるほど，大学や指導教員選びなど進路戦略を考えておくこと。

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備　考	
科 目 名	金融理論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　小原　英隆		

授業の概要・到達目標

《概要》
貨幣哲学に関して，研究を深め，修士論文を書きはじめる基礎レベルがための論文講読訓練を行う。貨幣哲学とは，企業への就職，キャリアアップ，お金稼ぎ，金融実務とは無関係の純粋学問的分野であり，数式モデルをも駆使して，現代貨幣経済の根源をなす貨幣の働き，貨幣とは何か，などを，抽象的，根源的に考察する。
初学者向けの概論などは，一切行わない。初学者向けレベル，概論レベルは，経済，商学部，経営学部の学部課程（Undergraduate）で，すでに習得しておくべきものであるからである。
また，当該分野以外のファイナンス分野一般，証券分析一般，金融実務（金融政策論，金融機関論や契約理論）や企業のデータ分析，ベンチャー起業，FIN-TECH，キャッシュレス，仮想通貨等にも一切対応しない。他の該当科目を受講すること。
学部と違って，大学院での教員ごとの専門細目は極めて厳格なものである。大学院レベルでは，金融一般何でも対応してくれというわけにはいかない。ピンポイントの専門細目によって，事前に十分調査し，慎重に指導教員を選択しないといけない。
研究型大学院では，知識を教員から与えられて覚えるということではなく，研究のやり方と作法を学んで，研究活動自体は授業時間以外にも，学生が自主的に量的にはるかに大量に行うものである。
本クラスは，コンピューター実習室において，学問的歴史研究の原資料の研究手法の訓練も行う予定である。学問的研究の第一次史料の実践的解読も行うので，一部，縦書き，旧かな遣いの日本語が読めることを必要とする。
研究型大学院の本研究室は，企業への就職やキャリアアップや金儲けのためのことは一切しないし，初学者が教員から広く浅く，効率よく知識を得る場ではありません。それを求める人は，ビジネススクール（経営大学院）に行くか，1～2年間で済む学士入学，編入学の形で学部の金融専攻をやること。研究型大学院は，学問の世界・研究の世界であり，慎重な真理追求のために，「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究する。音楽でいえば，古典＝クラシックである。それこそが，学問研究の道なのだ。研究大学院は，決して，手っ取り早く，現代にすぐ役立ちそうな知識だけをやる場ではない。
研究型大学院では，授業時間以外も，自立的に自分で研究活動を行うものだ。
もし，あなたが，「古臭い」偉い学者の説の検討やむかし経済の歴史を研究することに意義を感じられないタイプの人の場合は，ビジネススクール（経営大学院）に行くしかない。研究型大学院の院生は，ビジネススクールの授業や演習を一切聴講できない。実践的なビジネススクールの授業を受けたければ，最初からビジネススクールの入試で入学すること。ビジネススクールと研究型大学の根本的な違いは，良し悪しでも上下でもなく，タイプの違いであり，教育機関としての目的が全く異なるということなので，自分の目的に合う方を選択しなければならない。
また私の場合，学部と大学院での教育方針・内容が全く異なる。学部のディベートも，大学院では一切行わない。必ず大学院教育のシラバスだけを厳密に区別して読んで，志願先を判断すること。
なお入学後，途中で指導教員は変えられないので，本研究室の２年目の義務のことを予め述べておくと，２年目に書く修士論文のテーマは，貨幣哲学，貨幣数量理論の批判，貨幣理論の範囲内に限られる。修士論文は，学部の卒業論文のように，思いつきでの自由研究というわけには行かない。テーマはその学問分野の正統を踏まえた範囲に限られる。これは研究者人生のスタートとして，学問細目分野ごとのいわゆる学問的ディシプリン（規律，discipline）「スポーツで言う正しい基本フォーム，音楽で言う課題曲」をしっかり身に着けないと，最初から我流の剣では全くものにならないからである。だから，修士論文は自分の好き勝手なテーマでやれるものではない。自由研究などは，専門細目での学問的作法が身についた後，正しいフォームが身についた後，学問の体系に自分なりの独創性をどこまで加えられるかの話である。また，大学院の学位論文というものは，長い時間をかけて，計画的に研究活動・執筆を行わないと合格しないものである。修士課程は現実問題，時間がなく，正味１年と10か月で，修士論文を自力で，完成・提出しなければならない。２年目は，知識を広げるような展開は控え，自分の狭い専門分野細目内で腸目もふらず修士論文作成に集中することになる。これらを踏まえて，事前に指導教員の選択を十分に検討すること。
《授業の到達目標》
純粋学問的研究作法を身につけ，学術的研究を自力で行う端緒とする。

授業内容

JMKeynes 貨幣的理論のミクロ的基礎
第１回　貨幣哲学　理論モデルへの扉を開く
第２回　経済における貨幣のサーキュラー・フロー
第３回　I–S バランス論。
第４回　そもそも本質的な需要とは
第５回　貨幣所得外部性
第６回　Clower-佐藤和夫の見出した JMKeynes の本質メカニズム
第７回　総需要の縮合
第８回　貨幣所得外部性を加えたミクロ的な需要。ミッシングリンク。
第９回　他の外部性の諸解釈の誤り。ピグー効果に依存する陥穽。
第10回　独占的競争経済
第11回　マーシャルの調整過程
第12回　新しいマクロの総需要
第13回　オーバーオールの均衡
第14回　このモデルによる一般性の高い乗数

履修上の注意

学部上級レベル（Advanced Level）の金融論，ミクロ経済学，マクロ経済学の知識を前提とする。数学（ファイナンスのための数学とも異なる）の知識を前提として要求する。
私の金融理論特論Ａ，Ｂと金融理論特論演習ＩＡの履修を必須とする。
学問的研究の第一次史料の実際の解読を行うので，一部，縦書き，旧かな遣いの日本語文書が読めることを必要とする。
教室での議論は，輪番報告形式，日本語で行われる。演習は学究者同士が事前に十分な予習をしてきたうえで，リアルタイムに面と向かって，知恵を出し合い，そのコラボレーションで，皆が成長できる場となる。毎回，学生がレジュメを作ってきての発表プレゼンテーションの訓練，報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加が義務となる。
毎回出欠をとり，一回でも正当な事由のない欠席をした学生は，即Ｆとなる。
日本の研究大学院のスタイルとして，教材は，基本的に英語となる。教室での議論やレジュメは，日本語で行う。英語の教材を読解・要約して，日本語レジュメを作る能力が必要である。
大学院での演習は学究者同士が事前に上記該当の回の教科書，論文を十分な予習をしてきたうえで，リアルタイムに面と向かって，ディスカッションする。報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加できるように，しっかりと予習をする義務がある。
また，貨幣理論では，受動的な姿勢では全く身につかず，自ら数式や論理をノートに手で書いて確認しないと，よく理解できない。報告者が他人の場合もしっかりと，毎回の予習と参加と復習が必須である。毎回出欠をとり，一回でも正当な事由のない欠席をした学生は，即Ｆとなる。出席していても，毎回，予習を反映した有効な発言をしないと欠席にカウントする。
修士課程（博士前期課程）ではまず理論モデルの力をつけることが第一と考え，理論のみに集中し，金融の制度的側面，国際比較，政策論，実証データ分析等は一切取り扱わない。
あなたの母国の金融制度・政策・インフレ等についても一切取り扱わない。それらは，それらに詳しいあなたの国の経済学者のもとで研究すべき課題だ。日本との金融政策などの比較研究の類も一切取り扱わない。理由は，今やインターネットで，日本銀行の金融政策の資料や外国の論文や資料のほとんどは母国に居ながらにして手に入るからである。だから，それは日本留学の理由にならない。母国で早く研究を始めて，母国に早く貢献してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

大学院での演習は学究者同士が事前に上記該当の回の教科書，論文を十分な予習をしてきたうえで，リアルタイムに面と向かって，ディスカッションする。報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加できるように，しっかりと予習をする義務がある。また，授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

"Keynes' General Theory: the Marshall Connection" Robert Clower,（Elgar Press）

参考書

この枠に入る範囲内，字数で少数の本を特に指定はしないが，研究型大学院では，使用した論文の参考文献一覧に載っている論文文献を学ぶ式に，膨大な量読むことになる。

成績評価の方法

Term Paper（期末論文）60％，上記授業での積極的発言の貢献度評価　40％。論文とは，単なるレポートではなく，きちっとした「論文」である必要がある。院生は，論文を書くのが仕事である。
学問的大学院では，講義に身を置いて，単位が取れればよいというものではなく，受身で人から知識を与えられることではなく，自ら研究活動を行い，研究論文を書くことが仕事である。研究活動とは，授業以外でも自発的にたくさんの文献の調査探求，思考，考察，取りまとめ整理，読者を説得する執筆すべてを含む。
期末論文必須は日本の他大学院や欧米の大学院では常識である。期末論文は，貨幣的経済理論に関する２年次修士論文への準備的論文であればそれを以って替えることができる。ただし，論文テーマは，教員の承認が必要。

その他

大学院は，学問の世界・研究の世界であり，慎重な真理追求のために，「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究する。自発的に自分で研究を深めてゆく，それこそが，学問研究の道なのだ。
研究大学院は，決して，手っ取り早く，現代にすぐ役立ちそうな知識や金儲けをやる場ではない。もし，あなたが，「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究することに意義を感じられないような人の場合は，
ビジネススクール（経営大学院）に行ってください。
学部と違って，大学院は研究者への長い修業生活であり，大変厳しいものになることを覚悟すること。大学院は，訓練・修業の場である。決して学部の延長線上ではない。仕事として研究活動を行う容赦なく厳しい修業の日々である。
院では，教員は「鬼」と化す。
大学院のクラスは全て，その専門分野（経済学部，あるいは金融学科）の主要８科目くらいで学部上級レベルの予備知識のあることと毎回の予習・報告が前提となっており，クラスでは，基本的に院生の発表と議論しか行われない。
学部時代の講義やビジネススクールのように，実務に役立つ基準で，広く概論的基礎知識を一方的に与えられる場ではないことを心得よ。研究型大学院では，真理追求を目的に，自発的に自分で研究を深めてゆく。
研究型大学院のクラスは，教員から広く浅く，効率よく知識を得る場では断じてない。それを求める人は，ビジネススクール（経営大学院）に行くか，1～2年間の編入学，学士入学の学部 Undergraduate の金融専攻をやるべきである。
この研究型大学院の院生は，ビジネススクールの授業や演習を一切聴講できない。実践的なビジネススクールの授業を受けたければ，最初からビジネススクールの入試で入学すること。
本校のような研究型大学院とビジネススクールでは，良し悪しではなく，目的が全く異なるのだ。ビジネススクールならば，現代の実務の必要なところだけの知識が効率的に与えられ，初学者でも OK，概論の講義が展開されるのだ。
なお，日本では，いわゆるイブニング・スクールとして夜や土曜日曜でも習得できるビジネススクールが多いが，教授陣も優れており，大手金融機関，大企業の優秀な社員なども通学してくるので，アジア諸国とは逆に，日本では，イブニングスクールの地位は高いので，誤解のないようにすること。明治大学にも独立研究科，専門職大学院としてビジネススクールがあるので，進路をよく考えること。
どこでも入れば何とかなると考えるのは，全くの間違いだ。事前に慎重すぎるほど，進路戦略を考えておくこと。

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		小原　英隆

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
金融理論特論A，B，金融理論特論演習ⅠA，ⅠBのシラバスで述べられたことを前提に，貨幣的経済理論モデル（抽象的数式モデル）の専門細目分野で，修士論文レベルの論文を書く演習。それ以外の金融(金融機関論・銀行論や契約理論，金融政策論)や，証券分析・ファイナンス分野一般，企業のデータ分析，ベンチャー起業，FIN-TECH，キャッシュレス，仮想通貨等には一切対応しない。
なお，入学後，途中で指導教員は変えられないので，本研究室の2年目の義務のことを，予め述べておくと，2年目に書く修士論文のテーマは，貨幣哲学，貨幣数量理論の批判，貨幣理論の範囲内に限られる。修士論文は，研究者人生の将来を規定するものとして非常に重要であり，学部の卒業論文のように，思いつきでの自由研究というわけには行かない。これは，研究者人生のスタートとして，学問細目分野ごとでのいわゆる学問的ディシプリン（規律，discipline）[スポーツで言う正しい基本フォーム，音楽で言う課題曲]をしっかり身に着けないと，最初から我流の剣では全くものにならないからである。大学院では，自分の好き勝手なテーマでやれるものではない。自由研究などは，専門細目での学問的作法が身についた後，正しいフォームが身についた後，一人前の学者になれてから，学問の体系に自分なりの独創性をどこまで加えられるかの話である。また，大学院の学位論文というものは，長い時間をかけて，計画的に研究活動・執筆を行わないと合格しないものである。修士課程は，現実問題，時間がなく，正味1年と10か月で，修士論文を自力で，完成・提出しなければならない。2年目は特に，知識を広げるような展開は控え，自分の狭い専門分野細目内で脇目もふらず修士論文作成に集中することになる。これらを踏まえて，受験・志願する事前に指導教員の選択を十分に検討すること。
《授業の到達目標》
純粋学問的研究作法を身につけ，学術的研究を自力で行う端緒とする。

授業内容

第1回　修士論文執筆への扉を開く。論文執筆というものは，先行研究を研究しつくし，資料の収集が終わり，自分なりの分析が終わり，骨格が見えてから，読者に理解されるまでの文章に落とし込む方が，1.5倍から2倍の時間がかかり，予想外に時間がかかるものなので，後で困らないように，全体に早め早めに準備を進める。修士論文の中間発表・報告も相当早くから繰り返し要求する。
第2回　履修者による修士論文テーマの提案・検討
第3回　修士論文テーマの決定
第4回　分析方法の検討
第5回　分析方法の再検討
第6回　予備的分析の検討
第7回　論文のオリジナリティの核をどこに置くか
第8回　履修者による修士論文の構成に関する報告
第9回　履修者による修士論文のアウトラインに関する報告
第10回　追加文献に関する検討
第11回　修士論文骨格に関する検討
第12回　修士論文　序章の検討
第13回　修士論文　本文の検討
第14回　中間報告

履修上の注意

INBOUNDの留学生については，日本語ライティングの授業，支援室の受講を必須とする。
私の金融理論特論A，B，金融理論特論演習ⅠA，ⅠBの履修を必須の前提とする。
文献は英語も多いが，教室での議論は日本語で行われる。演習は学究者同士が上記該当の回の論文を事前に十分な予習をしてきたうえで，リアルタイムに面と向かって，知恵を出し合い，そのコラボレーションで，皆が成長できる場となる。学生はレジュメを作ってきての発表プレゼンテーションの訓練，報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加が義務となる。
毎回出欠をとり，一回でも正当な事由のない欠席をした学生は，即Fとなる。

準備学習（予習・復習等）の内容

大学院では，報告者も報告者以外も，各回該当箇所の十分な予習[このクラスの場合は，修士論文の準備を授業時間外に十分な時間をかけて，できるだけ前進させる努力をすること]をしてくることが義務である。教員から当てて発言を求める。また，授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

この枠に入る範囲内，字数で少数の本を特に指定はしないが，研究型大学院では，修士論文のテーマの範囲内の専門論文の末尾の参考文献一覧に載っている論文文献を芋づる式に，膨大な量読むことになる。

参考書

この枠に入る範囲内，字数で少数の本を特に指定はしないが，研究型大学院では，修士論文のテーマの範囲内の専門論文の末尾の参考文献一覧に載っている論文文献を芋づる式に，膨大な量読むことになる。

成績評価の方法

Term Paper（期末論文）70%，授業への参加度30%。期末論文を出さないと不可。
論文の場合，単なるレポートや調べ物ではなく，きちっとした「論文」である必要がある。院生は，論文を書くのが仕事である。
学問的大学院では，他人から知識を得ることではなく，自ら研究活動を行い，研究論文を書くことが仕事である。
研究活動とは，授業以外でも自発的にたくさんの文献の調査探求，思考，考察，取りまとめ整理，読者を説得する執筆すべてを含む。
期末論文必須は日本の他大学院や欧米の大学院では常識である。期末論文は，貨幣的経済理論に関する2年次修士論文への準備的論文であればそれを以って替えることができる。ただし，論文テーマは，教員の承認が必要。
とにかく，この大学院の演習では，期末論文は必須。

その他

学部とは違って，大変厳しい訓練の場となることを覚悟すること。大学院とは，学部の延長線上ではなく，容赦なく厳しい修業の日々である。大学院では教員も，学部とは違って，「鬼」となる。毎回の予習と報告と復習が必須。授業時間以外も，自発的に論文を読んで研究活動を行う必要がある。

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		小原　英隆

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
金融理論特論A，B，金融理論特論演習ⅠA，ⅠBのシラバスで述べられたことを前提に，貨幣的経済理論モデル（抽象的数式モデル）の専門細目分野で，修士論文レベルの論文を書く演習。それ以外の金融(金融機関論・銀行論や契約理論，金融政策論)や，証券分析・ファイナンス分野一般，企業のデータ分析，ベンチャー起業，FIN-TECH，キャッシュレス，仮想通貨等には一切対応しない。
なお，入学後，途中で指導教員は変えられないので，本研究室の2年目の義務のことを，予め述べておくと，2年目に書く修士論文のテーマは，貨幣哲学，貨幣数量理論の批判，貨幣理論の範囲内に限られる。修士論文は，研究者人生の将来を規定するものとして非常に重要であり，学部の卒業論文のように，思いつきでの自由研究というわけには行かない。これは，研究者人生のスタートとして，学問細目分野ごとでのいわゆる学問的ディシプリン（規律，discipline）[スポーツで言う正しい基本フォーム，音楽で言う課題曲]をしっかり身に着けないと，最初から我流の剣では全くものにならないからである。大学院では，自分の好き勝手なテーマでやれるものではない。自由研究などは，専門細目での学問的作法が身についた後，正しいフォームが身についた後，正しいフォームが身についた後，一人前の学者になれてから，学問の体系に自分なりの独創性をどこまで加えられるかの話である。また，大学院の学位論文というものは，長い時間をかけて，計画的に研究活動・執筆を行わないと合格しないものである。修士課程は，現実問題，時間がなく，正味1年と10か月で，修士論文を自力で，完成・提出しなければならない。2年目は特に，知識を広げるような展開は控え，自分の狭い専門分野細目内で脇目もふらず修士論文作成に集中することになる。これらを踏まえて，受験・志願する事前に指導教員の選択を十分に検討すること。
《授業の到達目標》
純粋学問的研究作法を身につけ，学術的研究を自力で行う端緒とする。

授業内容

論文執筆というものは，先行研究を研究しつくし，資料の収集が終わり，自分なりの分析が終わり，骨格が見えてから，読者に理解されるまでの文章に落とし込む方が，1.5倍から2倍の時間がかかるものである。なので，早めに進捗するように，中間報告で規律化する。
第1回　履修者による修士論文作成の進捗状況の報告
第2回　履修者による修士論文テーマの再検討
第3回　分析方法の検討
第4回　分析方法の再検討
第5回　予備的分析の検討
第6回　中間報告
第7回　本文の洗練化
第8回　履修者による修士論文の構成に関する報告
第9回　履修者による修士論文のアウトラインに関する報告
第10回　追加文献に関する検討
第11回　修士論文骨格に関する検討
第12回　修士論文　序章の検討
第13回　修士論文　本文の検討
第14回　修士論文　参考文献表の完成　学術論文の様式クリアー

履修上の注意

INBOUNDの留学生については，日本語ライティングの授業，支援室の受講を必須とする。
金融理論特論A，B，金融理論特論演習ⅠA，ⅠBの履修を前提とする。
教室での議論は日本語で行われる。演習は学究者同士が毎回，上記該当の箇所の論文を事前に十分な予習をしてきたうえで，リアルタイムに面と向かって，知恵を出し合い，そのコラボレーションで，皆が成長できる場となる。学生はレジュメを作ってきての発表プレゼンテーションの訓練，報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加が義務となる。
毎回出欠をとり，一回でも正当な事由のない欠席をした学生は，即Fとなる。

準備学習（予習・復習等）の内容

大学院では，報告者も報告者以外も，十分な予習[このクラスの場合は，修士論文の準備を授業時間外に十分な時間をかけて，できるだけ前進させる努力をすること]をしてくることが義務である。教員から当てて発言を求める。また，授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

この枠に入る範囲内，字数で少数の本を特に指定はしないが，研究型大学院では，修士論文のテーマの範囲内の専門論文の末尾の参考文献一覧に載っている論文文献を芋づる式に，膨大な量読むことになる。

参考書

この枠に入る範囲内，字数で少数の本を特に指定はしないが，研究型大学院では，修士論文のテーマの範囲内の専門論文の末尾の参考文献一覧に載っている論文文献を芋づる式に，膨大な量読むことになる。

成績評価の方法

Term Paper（期末論文）70%，授業への参加度30%。期末論文を出さないと不可。
論文の場合，単なるレポートや調べ物ではなく，きちっとした「論文」である必要がある。院生は，論文を書くのが仕事である。
学問的大学院では，ただ他人から知識を与えられることではなく，自ら研究活動を行い，研究論文を書くことが仕事である。
研究活動とは，授業以外でも自発的にたくさんの論文文献の調査探求，思考，考察，取りまとめ整理，読者を説得する執筆すべてを含む。
期末論文必須は日本の他大学院や欧米の大学院では常識である。期末論文は，貨幣的経済理論に関する2年次修士論文への準備的論文であればそれを以って替えることができる。ただし，論文テーマは，教員の承認が必要。
とにかく，この演習では期末論文は必修。

その他

学部とは違って，大変厳しい訓練の場となることを覚悟すること。大学院とは，学部の延長線上ではなく，容赦なく厳しい修業の日々である。大学院では教員も，学部とは違って，「鬼」となる。毎回の予習と報告と復習が必須。授業時間以外も，自発的に，専門分野の論文を読んで，研究活動を行うことが必要である。

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融機関論特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）・博士（経営学）　伊藤　隆康		

授業の概要・到達目標

金融問題は多岐にわたっているが，本演習では金融機関と金融システム，中央銀行，金融市場等に絡んだ側面から，金融問題を考察していく。こうした側面から金融問題を理解し，データを分析してレポートを作成することができるようになることが目標である。

授業内容

第1回　研究テーマの検討（1）
第2回　研究テーマの検討（2）
第3回　金融分野の文献輪読（1）
第4回　金融分野の文献輪読（2）
第5回　金融分野の文献輪読（4）
第6回　金融分野の文献輪読（5）
第7回　金融分野の文献輪読（6）
第8回　金融分野の文献輪読（7）
第9回　金融分野の文献輪読（8）
第10回　データを用いた演習（1）
第11回　データを用いた演習（2）
第12回　データを用いた演習（3）
第13回　データを用いた演習（4）
第14回　研究テーマの再検討

履修上の注意

修士論文の作成にとりかかる準備として，研究テーマの検討や基礎的な演習を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に関連論文を熟読すること。

教科書

鹿野嘉昭「日本の金融制度」（東洋経済新報社）
白川方明「現代の金融政策―理論と実際」（日本経済新聞社）
上記以外に関しては，必要に応じて別途紹介する。

参考書

必要に応じて別途紹介する。

成績評価の方法

レポート（50％）と授業への貢献度（50％）で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融機関論特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）・博士（経営学）　伊藤　隆康		

授業の概要・到達目標

金融問題は多岐にわたっているが，本演習では金融機関と金融システム，中央銀行，金融市場等に絡んだ側面から，金融問題を考察していく。こうした側面から金融問題を理解し，データを分析してレポートを作成することができるようにすることが目標である。さらに，修士論文のテーマに関連した先行研究をレビューできることも目標とする。

授業内容

第1回　研究テーマの絞り込み（1）
第2回　研究テーマの絞り込み（2）
第3回　関連論文の輪読（1）
第4回　関連論文の輪読（2）
第5回　関連論文の輪読（3）
第6回　関連論文の輪読（4）
第7回　関連論文の輪読（5）
第8回　関連論文の輪読（6）
第9回　関連論文の輪読（7）
第10回　関連論文の輪読（8）
第11回　予備的な分析（1）
第12回　予備的な分析（2）
第13回　予備的な分析（3）
第14回　研究テーマの決定

履修上の注意

修士論文の作成にとりかかる準備として，研究テーマの検討や基礎的な演習を行う。また，修士論文のテーマに関連した先行研究をレビューする。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に関連論文を熟読すること。

教科書

鹿野嘉昭「日本の金融制度」（東洋経済新報社）
白川方明「現代の金融政策―理論と実際」（日本経済新聞社）
上記以外に関しては，必要に応じて別途紹介する。

参考書

必要に応じて別途紹介する。

成績評価の方法

レポート（50％）と授業への貢献度（50％）で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融機関論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(経済学)・博士(経営学) 伊藤 隆康		

授業の概要・到達目標

金融問題は多岐にわたっているが，本演習では金融機関と金融システム，中央銀行，金融市場等に絡んだ側面から，金融問題を考察していく。修士論文の骨格が完成することを目標とする。

授業内容

第1回　修士論文の概要報告（1）
第2回　修士論文の概要報告（2）
第3回　先行研究に関するサーベイ報告（1）
第4回　先行研究に関するサーベイ報告（2）
第5回　先行研究に関するサーベイ報告（3）
第6回　先行研究に関するサーベイ報告（4）
第7回　分析結果の報告（1）
第8回　分析結果の報告（2）
第9回　分析結果の報告（3）
第10回　分析結果の報告（4）
第11回　修士論文テーマの最終決定（1）
第12回　修士論文テーマの最終決定（2）
第13回　修士論文作成のための必要事項確認（1）
第14回　修士論文作成のための必要事項確認（2）

履修上の注意

修士論文の完成に向けて，サーベイやデータの分析にめどをつける。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に関連論文を熟読すること。

教科書

鹿野嘉昭「日本の金融制度」(東洋経済新報社)
白川方明「現代の金融政策―理論と実際」(日本経済新聞社)
上記以外に関しては，必要に応じて別途紹介する。

参考書

必要に応じて別途紹介する。

成績評価の方法

レポート（50％）や授業への貢献度（50％）で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融機関論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授 博士(経済学)・博士(経営学) 伊藤 隆康		

授業の概要・到達目標

金融問題は多岐にわたっているが，本演習では金融機関と金融システム，中央銀行，金融市場等に絡んだ側面から，金融問題を考察していく。修士論文が最終的に完成することを目標とする。

授業内容

第1回　修士論文の1回目中間報告（1）
第2回　修士論文の1回目中間報告（2）
第3回　修士論文作成に関する指導（1）
第4回　修士論文作成に関する指導（2）
第5回　修士論文作成に関する指導（3）
第6回　修士論文作成に関する指導（4）
第7回　修士論文作成に関する指導（5）
第8回　修士論文作成に関する指導（6）
第9回　修士論文の2回目中間報告（1）
第10回　修士論文の2回目中間報告（2）
第11回　修士論文の残された課題の検討（1）
第12回　修士論文の残された課題の検討（2）
第13回　修士論文の最終報告
第14回　修士論文の最終確認

履修上の注意

夏休み中に修士論文の第1次ドラフトが完成し，第1回目の中間報告に間に合うようにする。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に関連論文を熟読すること。修士論文の作成を進めること。

教科書

鹿野嘉昭「日本の金融制度」(東洋経済新報社)
白川方明「現代の金融政策―理論と実際」(日本経済新聞社)
上記以外に関しては，必要に応じて別途紹介する。

参考書

必要に応じて別途紹介する。

成績評価の方法

修士論文で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融取引論特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　萩原　統宏		

授業の概要・到達目標

授業概要

金融取引（投資・資金調達）の比較的最近の理論について学ぶ。

到達目標

金融取引論分野における修士論文作成に資すると思われる知識を取得する。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　修士論文の関連文献精読(タームストラクチャー)
第3回　修士論文の関連文献精読（株式評価）
第4回　修士論文の関連文献精読（債券評価）
第5回　修士論文の関連文献精読（連続複利）
第6回　修士論文の関連文献精読（ポートフォリオの効率化）
第7回　修士論文の関連文献精読（ポートフォリオの最適化）
第8回　修士論文の具体的題目設定に関する議論
第9回　修士論文の関連文献精読（パフォーマンス尺度）
第10回　修士論文の関連文献精読（リスク中立評価）
第11回　修士論文の関連文献精読（株式デリバティブ）
第12回　修士論文の関連文献精読（債券デリバティブ）
第13回　修士論文の関連文献精読（金利デリバティブ）
第14回　修士論文の具体的作業方針に関する議論

履修上の注意

ある程度の数学的知識を要求するため，学部において数学関連の講義を履修していることが望ましい。また，修士論文作成において必要となる統計的手法を学ぶため，大学院において統計分析の手法を学ぶ講義を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回，プレゼンテーションを行いながら精読するため，資料作成・配布を通じて，毎回の予習復習を習慣づける

教科書

『フィナンシャルエンジニアリング〔第9版〕―デリバティブ取引とリスク管理の総体系』ジョン ハル（きんざい）
『金融工学入門 第2版』 デービッド・G.ルーエンバーガー（日本経済新聞出版社）
『企業価値評価 第6版[上][下]―バリュエーションの理論と実践』マッキンゼー・アンド・カンパニー（ダイヤモンド社）

参考書

使用する予定は無い。

成績評価の方法

授業への参加態度･貢献度　50％
レポート・プレゼンテーションのレベル　50％

その他

実務家志望者あるいは実務経験のある者を特に歓迎する。

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融取引論特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　萩原　統宏		

授業の概要・到達目標

授業概要

金融取引（投資・資金調達）の比較的最近の理論について学ぶ。

到達目標

金融取引論分野における修士論文作成に資すると思われる知識を取得する

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　修士論文の関連文献精読（MM理論）
第3回　修士論文の関連文献精読（資本コスト）
第4回　修士論文の関連文献精読（CAPM）
第5回　修士論文の関連文献精読（加重平均資本コスト）
第6回　修士論文の関連文献精読(キャッシュフロー分析)
第7回　修士論文で用いる統計的手法に関する議論
第8回　修士論文の関連文献精読（NPV）
第9回　修士論文の関連文献精読（EVA）
第10回　修士論文の関連文献精読（予想財務諸表に基づく企業価値評価）
第11回　修士論文の関連文献精読（M&Aの理論）
第12回　修士論文の関連文献精読（M&Aの実際・分析事例）
第13回　修士論文のイントロダクション部分書き始め
第14回　修士論文に関する次年度の作業方針に関する計画

履修上の注意

ある程度の数学的知識を要求するため，学部において数学関連の講義を履修していることが望ましい。また，修士論文作成において必要となる統計的手法を学ぶため，大学院において統計分析の手法を学ぶ講義を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回，プレゼンテーションを行いながら精読するため，資料作成・配布を通じて，毎回の予習復習を習慣づける。

教科書

『フィナンシャルエンジニアリング〔第9版〕―デリバティブ取引とリスク管理の総体系』ジョン ハル（きんざい）
『金融工学入門 第2版』デービッド・G.ルーエンバーガー（日本経済新聞出版社）
『企業価値評価 第6版[上][下]―バリュエーションの理論と実践』マッキンゼー・アンド・カンパニー（ダイヤモンド社）

参考書

使用する予定は無い。

成績評価の方法

授業への参加態度･貢献度　50％
レポート・プレゼンテーションのレベル　50％

その他

実務家志望者あるいは実務経験者を特に歓迎する。

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融取引論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　萩原　統宏		

授業の概要・到達目標

授業概要

修士学位論文作成に向けて必要な金融取引（投資・資金調達）の比較的最近の理論について学ぶ。

到達目標

金融取引論分野における修士論文作成に資すると思われる知識を取得し，修士学位論文を作成する。

授業内容

第1回　修士論文部分作成に向けた具体的作業方針に関する議論
第2回　修士論文作成の方針に関する議論
第3回　修士論文部分作成に関する独創的な研究側面に関する議論
第4回　修士論文作成に関する統計的手法に関する議論
第5回　修士論文作成に関する先行研究の選定
第6回　修士論文作成に関する先行研究の精読・報告
第7回　修士論文作成に関するデータベース構築に関する議論
第8回　修士論文イントロ部分執筆作業状況に関する経過確認
第9回　修士論文作成に関する発展作業に関する議論
第10回　修士論文作成に関する先行研究の増補・選定
第11回　修士論文作成に関する統計的手法に関する検討
第12回　修士論文作成に関する実務的含意に関する議論
第13回　修士論文データベース作成作業状況に関する経過確認
第14回　修士論文作成に関する進捗状況の総括・今後の計画

履修上の注意

ある程度の数学的知識を要求するため，学部において数学関連の講義を履修していることが望ましい。また，修士論文作成において必要となる統計的手法を学ぶため，大学院において統計分析の手法を学ぶ講義を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回，プレゼンテーションを行いながら精読するため，資料作成・配布を通じて，毎回の予習復習を習慣づける

教科書

『フィナンシャルエンジニアリング〔第9版〕―デリバティブ取引とリスク管理の総体系』ジョン ハル（きんざい）
『金融工学入門 第2版』デービッド・G.ルーエンバーガー（日本経済新聞出版社）
『企業価値評価 第6版[上][下]―バリュエーションの理論と実践』マッキンゼー・アンド・カンパニー（ダイヤモンド社）

参考書

使用する予定は無い。

成績評価の方法

授業への参加態度･貢献度　50％
レポート・プレゼンテーションのレベル　50％

その他

実務家志望者または実務経験者を特に歓迎する。

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融取引論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　萩原　統宏		

授業の概要・到達目標

授業概要

修士学位論文作成に向けて必要な金融取引（投資・資金調達）の比較的最近の理論について学ぶ。

到達目標

金融取引論分野における修士論文作成に資すると思われる知識を取得し，修士学位論文を作成する。

授業内容

第1回　修士論文部分作成に向けた具体的作業方針に関する再確認
第2回　修士論文の題目・仮説設定に関する最終確認
第3回　修士論文部分作成に関する独創的な研究側面に関する再確認
第4回　修士論文作成に関する統計的手法に関する再確認
第5回　修士論文作成に関する先行研究の再検索・増補
第6回　増補した修士論文作成に関する先行研究の精読・報告
第7回　修士論文作成に関するデータベース構築に関する最終確認
第8回　修士論文執筆状況に関する経過確認
第9回　修士論文作成に関するさらなる発展作業に関する議論
第10回　修士論文作成に関する先行研究の最終確認
第11回　修士論文作成に関する統計的手法に関する最終確認
第12回　修士論文作成に関する実務的含意に関する最終確認
第13回　修士論文作成に関する進捗状況の総括・反省
第14回　修士学位請求に関する面接に向けた準備

履修上の注意

ある程度の数学的知識を要求するため，学部において数学関連の講義を履修していることが望ましい。また，修士論文作成において必要となる統計的手法を学ぶため，大学院において統計分析の手法を学ぶ講義を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回，プレゼンテーションを行いながら精読するため，資料作成・配布を通じて，毎回の予習復習を習慣づける

教科書

『フィナンシャルエンジニアリング〔第9版〕―デリバティブ取引とリスク管理の総体系』ジョン ハル（きんざい）
『金融工学入門 第2版』 デービッド・G.ルーエンバーガー（日本経済新聞出版社）
『企業価値評価 第6版[上][下]―バリュエーションの理論と実践』マッキンゼー・アンド・カンパニー（ダイヤモンド社）

参考書

使用する予定は無い。

成績評価の方法

授業への参加態度･貢献度　50％
レポート・プレゼンテーションのレベル　50％

その他

実務家志望者または実務経験者を特に歓迎する。

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特論Ａ		
開 講 期	春学期	単 位	講２
担 当 者	専任教授		小原　英隆

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
貨幣哲学に関して，研究を深め，修士論文を書きはじめる基礎レベルがための論文講読訓練を行う。貨幣哲学とは，企業への就職，キャリアアップ，お金稼ぎ，金融実務とは無関係の純粋学問的な学問であり，抽象的数式モデルをも駆使して，現代貨幣経済の根源をなす貨幣の働き，貨幣とは何か，などを，抽象的，根源的に考察する。
注意すべきは，当科目は，金融・証券系列全般の科目の基礎知識を提供するものでは決してないことである。概論，総論では決してない。当科目は，他の専門講義と並列に，独立に，貨幣理論の高度な専門的内容を研究する。初学者向けの概論などは，一切行わない。初学者向けレベル，概論レベルは，経済，商，経営学部の学部課程（Undergraduate）で，すでに習得しておくべきものであるからである。
また，当該分野以外のファイナンス分野一般，証券分析一般，金融実務（金融政策論，金融機関論・銀行論や契約理論）や，企業金融（コーポレート・ファイナンス論），企業のデータ分析，ベンチャー起業，FIN-TECH，仮想通貨等にも，一切，対応しない。他の該当科目を受講すること。その理由は，学部と違って，大学院での教員ごとの専門細目は極めて厳格なものだからである。大学院レベルでは，金融一般何でも対応してくれというわけにはいかない。学生側がピンポイントの専門細目を，事前に十分調査し，慎重に指導教員を選択しないといけない。
本クラスは，コンピューター実習室において，学問的歴史研究の原資料の研究手法の訓練も行う予定である。学問的研究の第一次史料の実践的解読も行うので，一部，緻密さ，旧かな遣いの日本語が読めることを必要とする。
研究型大学院の本研究室は，企業への就職やキャリアアップや金儲けのためのことは一切しないし，初学者が教員から広く浅く，効率よく知識を得る場では断じてない。それを求める人は，ビジネススクール（経営大学院）に行くか，1～2年間で済む学士入学，編入学の形で学部 Undergraduate の金融専攻をやること。研究型大学院は，学問の世界・研究の世界であり，慎重な真理追求のために，「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究する。音楽でいえば，古典＝クラシックである。それこそが，学問研究の道なのだ。研究大学院は，決して，手っ取り早く，現代にすぐ役立ちそうな知識をやる場ではない。
研究型大学院では，授業時間以外も，自立的に自分で自主的に研究活動を行うものだ。
もし，あなたが，「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究することに意義を感じられないタイプの人の場合は，ビジネススクール（経営大学院）に行くしかない。この研究型大学院の院生は，ビジネススクールの授業や演習を一切聴講できない。実践的なビジネススクールの授業を受けたければ，最初からビジネススクールの入試で入学すること。ビジネススクールと研究型大学の根本的な違いは，良し悪しでも上下でもなく，タイプの違いであり，教育機関としての目的が全く異なるということなので，自分の目的に合う方を選択しなければならない。
また，私の場合，学部と大学院での教育方針・内容が全く異なる。学部教育のようなディベート教育も，大学院では一切行わない。学部教育と大学院教育のシラバスを厳密に区別して読んで，必ず大学院部分のみのシラバスで志願先を判断すること。
《授業の到達目標》
純粋学問としての貨幣哲学について，学部上級レベルを前提・踏み台に始めて，自分で自立的に研究活動ができるように，学問内容を大学院レベルで自身で理解・解説できるようになること。

授業内容

ネガとポジ，Robertson を通じて浮き彫りになる JM Keynes 貨幣理論の革新性，天才性
第１回　貨幣哲学への扉
第２回　D. H. Robertson　実物的景気循環論
第３回　D. H. Robertson　ホートレー貨幣的循環論との論争
第４回　D. H. Robertson　RBC との根本的違い
第５回　D. H. Robertson の貨幣論
第６回　D. H. Robertson の The Quantity Theory of Money
第７回　D. H. Robertson Saving と Hoarding の違い
第８回　D. H. Robertson の貨幣保蔵のデフレ効果
第９回　D. H. Robertson の生産性向上のデフレ効果
第10回　D. H. Robertson JMKeynes『貨幣論』をめぐる論争
第11回　D. H. Robertson 実物＋貨幣統合理論 OLG と保蔵のラッキングへの転化
第12回　D. H. Robertson Saving and Hoarding（1933）
第13回　D. H. Robertson JMKeynes GT 解釈
第14回：a：D. H. Robertson 不況調整の先駆者か
　　b：試験

履修上の注意

注意すべきは，当科目は，金融・証券系列全般の科目の基礎知識を提供するものでは決してないことである。概論，総論では決してない。当科目は，他の専門講義と並列に，独立に，貨幣理論の高度な専門的内容を研究する。
学部上級レベル（Advanced Level）の金融論，ミクロ経済学，マクロ経済学の知識を前提とする。数学（ファイナンスのための数学とも異なる）の知識を前提として要求する。本学商学部卒業生については，金融総論Ａ，Ｂ，金融論Ａ，Ｂも必須の前提とする。
日本の研究大学院のスタイルとして，教材は，基本的に英語となる。教室での議論やレジュメは，日本語で行う。英語の教材を読解・要約して，日本語レジュメを作る能力が必要である。
学問的研究の第一次史料の実際の解読を行うので，一部，緻密さ，旧かな遣いの日本語文書が読めることを必要とする。
教室での議論は，輪番報告形式，日本語で行われる。演習は学究者同士か事前に十分な予習をしてきたうえで，リアルタイムに面と向かって，知恵を出し合い，そのコラボレーションで，皆が成長できる場となる。毎回，学生がレジュメを作ってきての発表プレゼンテーションの訓練，報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加が義務となる。
毎回出欠をとり，一回でも正当な事由のない欠席をした学生は，即Ｆとなる。
大学院での演習は学究者同士か事前に上記該当の回の教科書，論文を十分な予習をしてきたうえで，リアルタイムに面と向かって，ディスカッションする。報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加できるように，しっかりと予習をする義務がある。
また，貨幣理論では，受動的な姿勢では全く身につかず，自ら数式や論理をノートに手で書いて確認しないと，よく理解できない。報告者が他人の場合もしっかりと，毎回の予習と参加と復習が必須である。毎回出欠をとり，一回でも正当な事由のない欠席をした学生は，即Ｆとなる。その場に居ても，毎回，予習を反映した有効な発言をしないと欠席にカウントする。
修士課程（博士前期課程）ではまず理論モデルの力をつけることが第一と考え，理論のみに集中し，金融の制度的側面，国際比較，政策論，実証データ分析等は一切取り扱わない。
あなたの母国の金融制度・政策・インフレ等についても一切取り扱わない。それらは，それらに詳しいあなたの国の経済学者のもとで研究すべき課題だ。日本に留学する必要性が全くない。今やインターネットで，日本銀行の金融政策の資料や外国の論文や資料のほとんどは居ながらにして手に入る。母国で早く研究を始めて，一刻も早く母国に貢献してほしい。
このクラスでは，純粋学問的なことしか行わない。実践的な学部ゼミやビジネススクールの授業の聴講は一切出来ない。

準備学習（予習・復習等）の内容

大学院での演習は学究者同士か事前に上記該当の回の教科書，論文を十分な予習をしてきたうえで，リアルタイムに面と向かって，ディスカッションする。報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加できるように，しっかりと予習をする義務がある。また，授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

“Banking Policy and Price Level” D. H. Robertson,（P. S. King & Son）.

参考書

この枠に入る範囲内，字数で少数の本を特に指定はしないが，研究型大学院では，使用した論文の参考文献一覧に載っている論文文献を手づる式に，膨大な量，読むことになる。

成績評価の方法

期末試験50％，Term Paper（期末論文）30％，上記授業での積極的発言の貢献度評価　20％。論文とは，単なるレポートではなく，きちっとした「論文」である必要がある。院生は，論文を書くのが仕事である。
学問的大学院では，講義に身を置いて，単位が取れればよいというものではなく，受身で人から知識を与えられることではなく，自ら研究活動を行い，研究論文を書くことが仕事である。研究活動とは，自ら，調査探求，思考，考察，取りまとめ整理，読者を説得する執筆活動すべてを含む。
期末論文必須は日本の他大学院や欧米の大学院では常識である。ただし，論文テーマは，授業科目に関連したテーマに限られ，教員の承認が必要。

その他

大学院は，学問の世界・研究の世界であり，慎重な真理追求のために，「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究する。自発的に自分で研究を深めてゆく，それこそが，学問研究の道なのだ。
研究大学院は，決して，手っ取り早く，就職や現代にすぐ役立ちそうな知識や金儲けをやる場ではない。もし，あなたが，「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究することに意義を感じられないような人の場合は，ビジネススクール（経営大学院）に行ってください。
学部と違って，大学院は研究者への長い修業生活であり，大変厳しいものになることを覚悟すること。大学院は，訓練・修業の場である。決して学部の延長線上ではない。仕事として研究活動を行う容赦なく厳しい修業の日々である。学部と違って，普段遊んだり，アルバイトをしている暇はない。大学院では，教員は「鬼」と化す。
大学院のクラスは全て，その専門分野（経済学部，あるいは金融学科）の主要８科目くらいで学部上級レベルの予備知識のあることと毎回の予習・報告が前提となっており，クラスでは，基本的に院生の発表と議論しか行わない。
学部時代の講義やビジネススクールのように，実務に役立つ基準で，広く概論的基礎知識を一方的に与えられる場ではないことを心得よ。研究型大学院では，真理追求を目的に，自発的に自分で研究を深めてゆく。
研究型大学院のクラスは，教員から広く浅く，効率よく知識を得る場では断じてない。それを求める人は，ビジネススクール（経営大学院）に行くか，1～2年間の編入学，学士入学の学部 Undergraduate の金融専攻をやるべきである。
この研究型大学院の院生は，ビジネススクールの授業や演習を一切聴講できない。実践的なビジネススクールの授業を受けたければ，最初からビジネススクールの入試で入学すること。
本校のような研究型大学院とビジネススクールでは，良し悪しではなく，目的が全く異なるのだ。ビジネススクールならば，現代の実務の必要なところだけの知識が効率的に与えられ，初学者でも OK，概論の講義が展開されるのだ。
なお，日本では，いわゆるイブニング・スクールとして夜や土曜日曜でも習得できるビジネススクールが多いが，教授陣も優れており，大手金融機関，大企業の優秀な社員なども通学してくるので，アジア諸国とは逆に，日本では，イブニングスクールの地位は高いので，誤解のないようにすること。明治大学にも独立研究科，専門職大学院としてビジネススクールがあるので，進路をよく考えること。
どこでも入れば，なんとなるという考え方は全くの間違いだ。大学と指導教員選びなどの進路戦略をしっかりと立てること。

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特論Ｂ		
開 講 期	秋学期	単 位	講２
担 当 者	専任教授		小原　英隆

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
貨幣哲学に関して，研究を深め，修士論文を書きはじめる基礎レベルがための論文講読訓練を行う。貨幣哲学とは，企業への就職，キャリアアップ，お金稼ぎ，金融実務とは無関係の純粋学問的な学問であり，抽象的数式モデルをも駆使して，現代貨幣経済の根源をなす貨幣の働き，貨幣とは何か，などを，抽象的，根源的に考察する。
注意すべきは，当科目は，金融・証券系列全般の科目の基礎知識を提供するものでは決してないことである。概論，総論では決してない。当科目は，他の専門講義と並列に，独立に，貨幣理論の高度な専門的内容を研究する。初学者向けの概論などは，一切行わない。初学者向けレベル，概論レベルは，経済，商，経営学部の学部課程（Undergraduate）で，すでに習得しておくべきものであるからである。
また，当該分野以外のファイナンス分野一般，証券分析一般，金融実務（金融政策論や金融機関論・銀行論や契約理論）や，企業金融（コーポレート・ファイナンス論），企業のデータ分析，ベンチャー起業，FIN-TECH 等にも，一切，対応しない。他の該当科目を受講すること。その理由は学部と違って，大学院での教員ごとの専門細目は極めて厳格なものであるからである。大学院レベルでは，金融一般何でも対応してくれというわけにはいかない。よって学生側が事前に十分調査し，ピンポイントの専門細目によって，慎重に指導教員を選択しないといけない。
本クラスは，コンピューター実習室において，学問的歴史研究の原資料の研究手法の訓練も行う予定である。学問的研究の第一次史料の実践的解読も行うので，一部，緻密さ，旧かな遣いの日本語が読めることを必要とする。
研究型大学院の本研究室は，企業への就職やキャリアアップや金儲けのためのことは一切しないし，初学者が教員から広く浅く，効率よく知識を得る場では断じてない。それを求める人は，ビジネス・スクール（経営大学院）に行くか，1～2年間で済む学士入学，編入学の形で学部 Undergraduate の金融専攻をやること。研究型大学院は，学問の世界・研究の世界であり，慎重な真理追求のために，「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究する。音楽でいえば，古典＝クラシックである。それこそが，学問研究の道なのだ。研究大学院は，決して，手っ取り早く，現代にすぐ役立ちそうな知識をやる場ではない。
研究型大学院では，授業時間以外も，自立的に自分で自主的に研究活動を行うものだ。
もし，あなたが，「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究することに意義を感じられないタイプの人の場合は，ビジネススクール（経営大学院）に行くしかない。この研究型大学院の院生は，ビジネススクールの授業や演習を一切聴講できない。実践的なビジネススクールの授業を受けたければ，最初からビジネススクールの入試で入学すること。ビジネススクールと研究型大学の根本的な違いは，良し悪しでも上下でもなく，タイプの違いであり，教育機関としての目的が全く異なるということなので，自分の目的に合う方を選択しなければならない。
また，私の場合，学部と大学院での教育方針・内容が全く異なる。学部教育のようなディベート教育も，大学院では一切行わない。学部教育と大学院教育のシラバスを厳密に区別して読んで，必ず大学院部分のみのシラバスで志願先を判断すること。
《授業の到達目標》
純粋学問としての貨幣哲学について，学部上級レベルを前提・踏み台に始めて，自分で自立的に研究活動ができるように，学問内容を大学院レベルで自身で理解・解説できるようになること。

授業内容

第１回　貨幣抽象理論への扉
第２回　Parsson 研究序説。
第３回　物価変動の理論
第４回　ハイパー現象発生の理論
第５回　ハイパー現象の弊害：WWⅠ後ドイツ
第６回　ハイパー現象の弊害：アメリカ南北戦争期
第７回　貨幣的現象：1970年代アメリカ
第８回　The Dying of the Money 貨幣の死とは
第９回　貨幣的現象：ハンガリー
第10回　貨幣的現象：アルゼンチン
第11回　貨幣的現象：ブラジル
第12回　貨幣的現象：ジンバブエ
第13回　貨幣的現象：WWⅡ後
第14回：a：貨幣とは　始原的意味を探る
　　b：試験

履修上の注意

金融理論特論Ａの履修を前提とする。
注意すべきは，当科目は，金融・証券系列全般の科目の基礎知識を提供するものでは決してないことである。概論，総論では決してない。当科目は，他の専門講義と並列に，独立に，貨幣理論の高度な専門的内容を研究する。
学部上級レベル（Advanced Level）の金融論，ミクロ経済学，マクロ経済学の知識を前提とする。数学（ファイナンスのための数学とも異なる）の知識を前提として要求する。本学商学部卒業生については，金融総論Ａ，Ｂ，金融論Ａ，Ｂも必須の前提とする。
日本の研究大学院のスタイルとして，教材は，基本的に英語となる。教室での議論やレジュメは，日本語で行う。英語の教材を読解・要約して，日本語レジュメを作る能力が必要である。
学問的研究の第一次史料の実際の解読を行うので，一部，緻密さ，旧かな遣いの日本語文書が読めることを必要とする。
教室での議論は，輪番報告形式，日本語で行われる。演習は学究者同士か事前に十分な予習をしてきたうえで，リアルタイムに面と向かって，知恵を出し合い，そのコラボレーションで，皆が成長できる場となる。毎回，学生がレジュメを作ってきての発表プレゼンテーションの訓練，報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加が義務となる。
毎回出欠をとり，一回でも正当な事由のない欠席をした学生は，即Ｆとなる。発表者以外も全員が，その場に居ても，毎回，予習を反映した有効な発言をしないと欠席にカウントする。
大学院での演習は学究者同士か事前に上記該当の回の教科書，論文を十分な予習をしてきたうえで，リアルタイムに面と向かって，ディスカッションする。報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加できるように，しっかりと予習をする義務がある。
また，貨幣理論では，受動的な姿勢では全く身につかず，自ら数式や論理をノートに手で書いて確認しないと，よく理解できない。報告者が他人の場合もしっかりと，毎回の予習と参加と復習が必須である。毎回出欠をとり，一回でも正当な事由のない欠席をした学生は，即Ｆとなる。
修士課程（博士前期課程）ではまず理論モデルの力をつけることが第一と考え，理論のみに集中し，金融の制度的側面，国際比較，政策論，実証データ分析等は一切取り扱わない。
あなたの母国の金融制度・政策・インフレ等についても一切取り扱わない。それらは，それらに詳しいあなたの国の経済学者のもとで研究すべき課題だ。今やインターネットで，日本銀行の金融政策の資料や外国の論文や資料のほとんどは居ながらにして手に入る。母国で早く研究を始めてほしい。日本に留学する必要性は全くない。
このクラスでは，純粋学問的なことしか行わない。実践的な学部ゼミやビジネススクールの授業の聴講は一切出来ない。

準備学習（予習・復習等）の内容

大学院での演習は学究者同士か事前に上記該当の回の教科書，論文を十分な予習をしてきたうえで，リアルタイムに面と向かって，ディスカッションする。報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加できるように，しっかりと予習をする義務がある。また，授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

“The Dying of the Money, Jens O. Parsson,（Wellspring Press）.
日本語翻訳なし。

参考書

この枠に入る範囲内，字数で少数の本を特に指定はしないが，研究型大学院では，使用した論文の参考文献一覧に載っている論文文献を手づる式に，膨大な量を読むことになる。

成績評価の方法

期末試験50％，Term Paper（期末論文）30％，上記授業での積極的発言の貢献度評価　20％。論文とは，単なるレポートではなく，きちっとした「論文」である必要がある。院生は，論文を書くのが仕事である。
学問的大学院では，講義に身を置いて，単位が取れればよいというものではなく，受身で人から知識を与えられることではなく，自ら研究活動を行い，研究論文を書くことが仕事である。研究活動とは，自ら，調査探求，思考，考察，取りまとめ整理，読者を説得する執筆活動すべてを含む。
期末論文必須は日本の他大学院や欧米の大学院では常識である。ただし，論文テーマは，授業科目に関連がある範囲に限られ，教員の承認が必要。

その他

大学院は，学問の世界・研究の世界であり，慎重な真理追求のために，「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究する。自発的に自分で研究を深めてゆく，それこそが，学問研究の道なのだ。
研究大学院は，決して，手っ取り早く，就職や現代にすぐ役立ちそうな知識や金儲けをやる場ではない。もし，あなたが，「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究することに意義を感じられないような人の場合は，ビジネススクール（経営大学院）に行ってください。
学部と違って，大学院は研究者への長い修業生活であり，大変厳しいものになることを覚悟すること。大学院は，訓練・修業の場である。決して学部の延長線上ではない。仕事として研究活動を行う容赦なく厳しい修業の日々である。学部と違って，普段遊んだり，アルバイトをしている暇はない。大学院では，教員は「鬼」と化す。
大学院のクラスは全て，その専門分野（経済学部，あるいは金融学科）の主要８科目くらいで学部上級レベルの予備知識のあることと毎回の予習・報告が前提となっており，クラスでは，基本的に院生の発表と議論しか行わない。
学部時代の講義やビジネススクールのように，実務に役立つ基準で，広く概論的基礎知識を一方的に与えられる場ではないことを心得よ。研究型大学院では，真理追求を目的に，自発的に自分で研究を深めてゆく。
研究型大学院のクラスは，教員から広く浅く，効率よく知識を得る場では断じてない。それを求める人は，ビジネススクール（経営大学院）に行くか，1～2年間の編入学，学士入学の学部 Undergraduate の金融専攻をやるべきである。
この研究型大学院の院生は，ビジネススクールの授業や演習を一切聴講できない。実践的なビジネススクールの授業を受けたければ，最初からビジネススクールの入試で入学すること。
本校のような研究型大学院とビジネススクールでは，良し悪しではなく，目的が全く異なるのだ。ビジネススクールならば，現代の実務の必要なところだけの知識が効率的に与えられ，初学者でも OK，概論の講義が展開されるのだ。
なお，日本では，いわゆるイブニング・スクールとして夜や土曜日曜でも習得できるビジネススクールが多いが，教授陣も優れており，大手金融機関，大企業の優秀な社員なども通学してくるので，アジア諸国とは逆に，日本では，イブニングスクールの地位は高いので，誤解のないようにすること。明治大学にも独立研究科，専門職大学院としてビジネススクールがあるので，進路をよく考えること。
どこでも入れば，なんとなるという考え方は全くの間違いだ。大学と指導教員選びなどの進路戦略をしっかりと立てること。

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融機関論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経済学)・博士(経営学) 伊藤 隆康		

授業の概要・到達目標

【授業の到達目標及びテーマ】

日本の金融制度等に焦点を当てる。日本の金融制度に加えて，金融システムや金融規制，決済制度を理解することを目標とする。また，日本の金融制度等に関するレポートを作成できるようにする。

【授業の概要】

新しい金融の流れから始まり，金融制度改革や日本版ビッグバン，決済システム，銀行規制，決済制度をみていく。現実の金融問題（米国のサブプライム問題，ユーロ圏の財政危機など）などにも触れながら，金融機関と金融システムの関連を考察していく。

授業内容

第1回　イントロダクション：授業の説明，進め方，評価
第2回　新しい金融の流れ（1）　金融のグルーバル化
第3回　新しい金融の流れ（2）　金融制度の課題
第4回　日本の金融制度の変遷（1）　90年代半ばまでの特徴
第5回　日本の金融制度の変遷（2）　金融制度改革
第6回　日本の金融制度の変遷（3）　日本版ビッグバン
第7回　日本の決済システム（1）　決済システムの特徴
第8回　日本の決済システム（2）　決済システム改革
第9回　日本の決済システム（3）　日本の決済システム
第10回　日本における銀行監督（1）　金融システムの安定性
第11回　日本における銀行監督（2）銀行監督規制の国際的調和
第12回　資産価格バブルと不良債権（1）　金融機関の破たん
第13回　資産価格バブルと不良債権（2）　不良債権問題の解決
第14回　日本の金融制度の特徴　金融メカニズム

履修上の注意

金融制度等に関する実態に興味を持つことが重要である。毎回受講生に報告をしてもらい，それをベースに授業をすすめていく。受講生の数や研究テーマ等に応じて，授業内容や教科書は変更される可能性がある。最初の講義に必ず出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定された教科書と関連論文を熟読すること。

教科書

鹿野嘉昭「日本の金融制度」(東洋経済新報社)

参考書

別途紹介する。

成績評価の方法

レポート（50％）や授業への貢献度（50％）で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融機関論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授 博士(経済学)・博士(経営学) 伊藤 隆康		

授業の概要・到達目標

【授業の到達目標及びテーマ】

中央銀行と金融政策に焦点を当てる。中央銀行制度や金融政策を理論面と実態面の両方から理解することを目標とする。また，金融政策に関して，データを分析したレポートが作成できるようにする。

【授業の概要】

中央銀行は金融政策や信用秩序維持などの重要な責務を負っている。まず，金融政策や信用秩序などを対象にし，その後，99年以降の日銀によるゼロ金利政策や量的緩和政策，金融政策の国際協調などを考察していく。

授業内容

第1回　イントロダクション：授業の説明，進め方，評価
第2回　中央銀行の機能
第3回　金融政策（1）　目的と手段
第4回　金融政策（2）　波及経路
第5回　金融政策（3）　金融政策のマクロ経済学
第6回　金融政策（4）　金融政策運営
第7回　金融政策（5）　金融調節と短期金融市場
第8回　金融政策（6）　金融機関の資金繰りと資金需給
第9回　金融政策（7）　金融調節の実際
第10回　信用秩序（1）　中央銀行の役割
第11回　信用秩序（2）　プルーデンス政策
第12回　信用秩序（3）　決済システム
第13回　現代の金融政策（1）　ゼロ金利政策から量的緩和政策の解除
第14回　現代の金融政策（2）　世界金融危機対応から実質ゼロ金利政策

履修上の注意

理論に加えて，中央銀行制度や金融政策に関する実態に興味を持つことが重要である。毎回受講生に報告をしてもらい，それをベースに授業をすすめていく。受講生の数や研究テーマ等に応じて，授業内容と教科書は変更される可能性がある。最初の講義に必ず参加すること。春学期の金融機関論特論Aに引き続く内容になる可能性が高い。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書と関連論文を熟読すること。

教科書

白川方明「現代の金融政策―理論と実際」(日本経済新聞社)

参考書

別途紹介する。

成績評価の方法

レポート（50％）や授業への貢献度（50％）で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融取引論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　萩原　統宏		

授業の概要・到達目標

授業の概要

金融取引（投資・資金調達）の基礎的な理論，について学ぶことによって，研究上最低限必要と思われる知識を取得する。資産運用の基礎的理論，日本の資本市場の実態について，基本的な専門書の精読を通じて，学習する。

到達目標

金融取引論の分野で，修士学位論文を作成する上での基礎的な知識を取得する。

授業内容

具体的な学習内容としては，ポートフォリオ理論，資産評価理論，および比較的最近の投資理論が中心で，必要に応じて，会計，財務諸表分析に関する知識も含む。該当分野で研究テーマを発見することを意識して学習する。数学的知識についても，必要に応じて，同時並行して学習する。

第1回　イントロダクション
第2回　資産価格に関する基礎理論（タームストラクチャー）
第3回　資産価格に関する基礎理論（株式評価）
第4回　資産価格に関する基礎理論（債券評価）
第5回　資産価格に関する基礎理論（連続複利）
第6回　ポートフォリオに関する基礎理論（正規分布）
第7回　ポートフォリオに関する基礎理論（ポートフォリオの効率化）
第8回　ポートフォリオに関する基礎理論（ポートフォリオの最適化）
第9回　ポートフォリオに関する基礎理論（パフォーマンス尺度）
第10回　ポートフォリオに関する基礎理論（直近の運用実務）
第11回　デリバティブに関する基礎理論（リスク中立評価）
第12回　デリバティブに関する基礎理論（株式デリバティブ）
第13回　デリバティブに関する基礎理論（債券デリバティブ）
第14回　デリバティブに関する基礎理論（金利デリバティブ）

履修上の注意

ある程度の数学的知識を要求するため，学部において数学関連の講義を履修していることが望ましい。また，修士論文作成において必要となる統計的手法を学ぶため，大学院において統計分析の手法を学ぶ講義を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回，プレゼンテーションを行いながら精読するため，資料作成・配布を通じて，毎回の予習復習を習慣づける

教科書

新　証券投資論Ⅰ　小林・芹田他著　日本経済新聞出版
新　証券投資論Ⅱ　伊藤・諏訪部他著　日本経済新聞出版

参考書

『フィナンシャルエンジニアリング〔第9版〕―デリバティブ取引とリスク管理の総体系』ジョン ハル（きんざい）
『金融工学入門 第2版』デービッド・G.ルーエンバーガー（日本経済新聞出版社）

成績評価の方法

授業への参加態度・貢献度　50％
レポート・プレゼンテーションのレベル　50％

その他

実務家志望者または実務経験者を特に歓迎する。

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融取引論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　萩原　統宏		

授業の概要・到達目標

授業概要

金融取引（投資・資金調達）の比較的最近の理論について学ぶ。資産運用の基礎的理論，日本の資本市場の実態について，比較的最近の専門書の精読を通じて，学習する。

到達目標

金融取引論の分野で修士学位論文を作成する目的で，必要な基礎的知識を取得する。

授業内容

具体的な学習内容としては，企業価値評価理論，および比較的最近の投資理論が中心で，必要に応じて，会計，財務諸表分析に関する知識も含む。該当分野で研究テーマを発見することを意識して学習する。数学的知識についても，必要に応じて，同時並行して学習する。

第1回　イントロダクション
第2回　企業価値評価に関する基礎理論（MM理論）
第3回　企業価値評価に関する基礎理論（修正MM理論）
第4回　企業価値評価に関する基礎理論（資本コスト）
第5回　企業価値評価に関する基礎理論（加重平均資本コスト）
第6回　企業価値評価に関する基礎理論（キャッシュフロー分析）
第7回　企業価値評価に関する基礎理論（NOPLAT）
第8回　企業価値評価に関する基礎理論（NPV）
第9回　企業価値評価に関する基礎理論（EVA）
第10回　企業価値評価に関する基礎理論（業種効果と事業評価）
第11回　企業価値評価に関する基礎理論（予想財務諸表の作成）
第12回　企業価値評価に関する基礎理論（予想財務諸表に基づく企業価値評価）
第13回　企業価値評価に関する基礎理論（M&Aの理論）
第14回　企業価値評価に関する基礎理論（M&Aの実際・分析事例）

履修上の注意

ある程度の数学的知識を要求するため，学部において数学関連の講義を履修していることが望ましい。また，修士論文作成において必要となる統計的手法を学ぶため，大学院において統計分析の手法を学ぶ講義を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回，プレゼンテーションを行いながら精読するため，資料作成・配布を通じて，毎回の予習復習を習慣づける

教科書

新　証券投資論Ⅰ　小林・芹田他著　日本経済新聞出版
新　証券投資論Ⅱ　伊藤・諏訪部他著　日本経済新聞出版

参考書

使用する予定は無い。

成績評価の方法

授業への参加態度・貢献度　50％
レポート・プレゼンテーションのレベル　50％

その他

実務家志望者または実務経験者を特に歓迎する。

科目ナンバー：(CO) CMM582J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険理論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　中林　真理子		

授業の概要・到達目標

近年では，保険に加えた多様なリスクファイナンス手法の開発が進むと同時に，リスクの悪影響を最少にするためのリスクコントロール手法の重要性についての認識が企業を中心に定着してきた。本演習では，企業を中心とした組織におけるリスクマネジメントの理論とその実践について学んでいく。特に，企業を取り巻くリスクの一つとして近年その深刻さを増している企業倫理に関わる問題に特に注目していきたい。春学期は日本語の文献を用いるが，これは秋学期に英語の文献を用いて授業を行うための準備に位置づけられる。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　リスクマネジメントの基礎知識（リスクコントロール）
第３回　リスクマネジメントの基礎知識（リスクファイナンス）
第４回　リスクコントロールに関するケーススタディ
第５回　履修者による研究テーマに関する報告　第１回（テーマ設定）
第６回　保険概論（1）
第７回　保険概論（2）
第８回　リスク処理手法の高度化
第９回　リスクファイナンスに関するケーススタディ
第10回　リスクとしての企業倫理
第11回　リスクとしての企業倫理　ケーススタディ（日本の事例）
第12回　リスクとしての企業倫理　ケーススタディ（海外の事例）
第13回　履修者による研究テーマに関する報告　第２回（進捗状況の報告）
第14回　全体のまとめ
※状況により授業内容は変更することがある。

履修上の注意

リスクマネジメントを実践するには，広範な知識とリスクセンスが求められる。幅広い領域に関心を持ち，課題に積極的に取り組んでいく意欲がある者の受講を希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

・次回の授業で扱う内容については，事前に参考文献等で調べておくこと。
・授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

テキストは使用しない。

参考書

・Flangan, F, et. Al. ed., Insurance Ethics for A More Ethical World, Elsevier, 2007.
・中林真理子『リスクマネジメントと企業倫理―パーソナルハザードをめぐって―』（千倉書房，2003年）
その他の文献は開講時に提示する。

成績評価の方法

授業への貢献状況（70％）ならびに研究報告の実施状況など（30％）により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM582J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険理論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　中林　真理子		

授業の概要・到達目標

近年では保険に加えた多様なリスクファイナンス手法の開発が進むと同時に，リスクの悪影響を最少にするためのリスクコントロール手法の重要性についての認識が企業を中心に定着してきた。本演習では，企業を中心とした組織におけるリスクマネジメントの理論と実践について学んでいく。特に，企業を取り巻くリスクの一つとして近年その深刻さを増している企業倫理に関わる問題に特に注目していきたい。春学期に日本語文献を用いて習得した基礎知識をもとに，秋学期は英語の文献を用いて授業を行う。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　履修者による研究テーマに関する報告　第３回（夏休みの研究進捗報告）
第３回　文献研究（生命保険に関する論文）
第４回　文献研究（損害保険に関する論文）
第５回　文献研究（社会保険に関する論文）
第６回　文献研究（金融に関する論文）
第７回　文献研究（そのほかの業界に関する論文）
第８回　履修者による研究テーマに関する報告　第４回（投稿論文の原稿の確認）
第９回　ケースメソッド（保険）
第10回　ケースメソッド（金融）
第11回　ケースメソッド（メーカー）
第12回　ケースメソッド（非営利企業）
第13回　履修者による研究テーマに関する報告　第６回（次年度に向けた執筆計画の確認）
第14回　全体のまとめ
※状況により授業内容は変更することがある。

履修上の注意

リスクマネジメントを実践するには広範な知識とリスクセンスが欠かせない。幅広い領域に関心を持ち，課題に積極的に取り組んでいく意欲がある者の受講を希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

・次回の授業で扱う内容については，事前に参考文献等で調べておくこと。
・授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

テキストは使用しない。

参考書

・Flangan, F, et. Al. ed., Insurance Ethics for A More Ethical World, Elsevier, 2007.
・中林真理子『リスクマネジメントと企業倫理―パーソナルハザードをめぐって―』（千倉書房，2003年）
その他の参考書は開講時に提示する。

成績評価の方法

授業への参加状況（70％）ならびの研究報告など（30％）により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM682J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険理論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　中林　真理子		

授業の概要・到達目標

本演習では，保険やリスクマネジメントに関するテーマでの修士論文作成のための指導を行う。

近年では，保険に加えた多様なリスクファイナンス手法の開発が進むと同時に，リスクの悪影響を最少にするためのリスクコントロール手法の重要性についての認識が企業を中心に定着してきた。しかしながら，この分野の日本における研究は必ずしも十分とは言えない。このため，英文等の外国文献や，実務家による研究をもとに，日本語で修士論文をまとめることができるよう，支援していく。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　研究課題の設定
第3回　研究計画概要の作成
第4回　文献リストの作成
第5回　先行研究等の検討
第6回　分析手法の検討
第7回　生命保険市場の最新動向分析
第8回　損害保険市場の最新動向分析
第9回　リスクマネジメントの最新動向分析
第10回　ERMの最新動向分析
第11回　研究成果の発表のための報告
第12回　研究成果の発表を踏まえた検討
第13回　今後に向けた研究計画の検証
第14回　全体のまとめ
※状況により授業内容は変更することがある。

履修上の注意

リスクマネジメントを実践するには，広範な知識とリスクセンスが求められる。幅広い領域に関心を持ち，課題に積極的に取り組んでいく意欲がある者の受講を希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

・次回の授業で扱う内容については，事前に参考文献等で調べておくこと。
・授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

テキストは使用しない。

参考書

・Flangan, F, et. Al. ed., Insurance Ethics for A More Ethical World, Elsevier, 2007.
・中林真理子『リスクマネジメントと企業倫理―パーソナルハザードをめぐって―』(千倉書房，2003年)
その他の参考書は開講時に提示する。

成績評価の方法

授業への参加状況（70％）ならびの研究報告など（30％）により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM682J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険理論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　中林　真理子		

授業の概要・到達目標

本演習では，保険やリスクマネジメントに関するテーマでの修士論文作成のための指導を行う。

近年では保険に加えた多様なリスクファイナンス手法の開発が進むと同時に，リスクの悪影響を最少にするためのリスクコントロール手法の重要性についての認識が企業を中心に定着してきた。しかしながら，この分野の日本における研究は必ずしも十分とは言えない。このため，英文等の外国文献や，実務家による研究をもとに，日本語で修士論文をまとめることができるよう，支援していく。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　研究計画概要の修正
第3回　和文文献リストの拡充
第4回　欧文文献リストの拡充
第5回　先行研究等の検討
第6回　分析手法の検討
第7回　生命保険市場の最新動向分析
第8回　損害保険市場の最新動向分析
第9回　リスクマネジメントの最新動向分析
第10回　ERMの最新動向分析
第11回　研究成果の発表のための報告
第12回　研究成果の発表を踏まえた検討
第13回　今後に向けた研究計画の検証
第14回　全体のまとめ
※状況により授業内容は変更することがある。

履修上の注意

リスクマネジメントを実践するには，広範な知識とリスクセンスが求められる。幅広い領域に関心を持ち，課題に積極的に取り組んでいく意欲がある者の受講を希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

・次回の授業で扱う内容については，事前に参考文献等で調べておくこと。
・授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

テキストは指定しない。

参考書

・Flangan, F, et. Al. ed., Insurance Ethics for A More Ethical World, Elsevier, 2007.
・中林真理子『リスクマネジメントと企業倫理―パーソナルハザードをめぐって―』(千倉書房，2003年)
その他の参考書は開講時に提示する。

成績評価の方法

授業への参加状況（70％）ならびに修士論文執筆にむけた報告など（30％）により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM582J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険リスクマネジメント論特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　浅井　義裕		

授業の概要・到達目標

本演習では，保険リスクマネジメント分野で，修士論文，博士論文などを執筆していく上で必要となっていく知識を身につけることを目的としています。保険リスクマネジメント分野のテキストに基づいて，保険・金融に特有の考え方を学習し，重要な学術論文，最先端の学術論文を読みこなしていくための基礎的な知識を身につけることを目指します。

授業内容

第１回　リスクマネジメントとは
第２回　確率の基礎計算
第３回　保険の原理と保険料の決定
第４回　期待効用仮説と保険市場の
第５回　デリバティブと代替的リスクファイナンス
第６回　現代ポートフォリオ理論と資本資産価格モデル
第７回　資本構成
第８回　企業価値と企業の投資決定
第９回　リスクマネジメントと企業価値
第10回　倒産コストとリスクマネジメント
第11回　資産代替問題とリスクマネジメント
第12回　過少投資問題とリスクマネジメント
第13回　税便益とリスクマネジメント
第14回　経営者のリスク回避性とリスクマネジメント

履修上の注意

学部レベルの保険論，金融論，コーポレートファイナンス（企業金融論），ミクロ経済学などを履修しておいてもらいたいと思います。

準備学習（予習・復習等）の内容

本特論演習内で，計算問題を解くことがあるので，数値が変わっても解けるように復習しておいてもらいたいと思います。

教科書

柳瀬典由・石坂元一・山崎尚志（2018）「リスクマネジメント」中央経済社。

参考書

特に指定しません。

成績評価の方法

本特論演習への貢献（50％），報告の内容（50％）

その他

本特論演習は，受講生の研究テーマや希望を聞いたうえで，相談して柔軟に進めます。

科目ナンバー：(CO) CMM582J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険リスクマネジメント論特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　浅井　義裕		

授業の概要・到達目標

本演習では，保険リスクマネジメント分野で，修士論文，博士論文などを執筆していく上で必要となっていく知識を身につけることを目的としています。保険リスクマネジメント分野では，国際的に，大学院レベルの標準となっているテキストに基づいて，保険・金融の考え方を学習していきます。

授業内容

第１回　「保険リスクマネジメント」および「金融リスクマネジメント」の収斂
第２回　リスクと効用：経済学概念と意思決定ルール
第３回　モラルハザードと逆選択
第４回　ポートフォリオ理論とリスクマネジメント
第５回　資本市場理論
第６回　デリバティブとオプション
第７回　なぜリスクは企業にとって高くつくのか？
第８回　リスクマネジメント戦略：二重性と大域性
第９回　損失発生後の投資決定と損失の測定
第10回　損失発生後資金調達：調達可能性と機能不全投資
第11回　損失発生後資金調達：流動性と債務再交渉
第12回　コンティンジェント・ファイナンス
第13回　コンティンジェント・レバレッジ戦略とハイブリッド負債
第14回　ヘッジと保険

履修上の注意

学部レベルの保険論，コーポレートファイナンス（企業金融論），ミクロ経済学などを履修しておいてもらいたいと思います。高校レベルの微分・積分，行列など，数学の知識も身につけておいてもらいたいと思います。また，英文の学術論文を読むため，TOEFL550（PBT），80（iBT）程度の英語力が必要です。

準備学習（予習・復習等）の内容

学部レベルの保険論，コーポレートファイナンス（企業金融論），ミクロ経済学などを履修しておいてもらいたいと思います。

教科書

森平爽一郎・米山高生（2011）『統合リスクマネジメント』 中央経済社（Neil A. Doherty（2000）“Integrated Risk Management”, McGraw-Hill.）

参考書

特に指定しません。

成績評価の方法

本特論演習への貢献（50％），報告の内容（50％）

その他

本特論演習は，受講生の研究テーマや希望を聞いたうえで，相談しながら柔軟に進めます。

科目ナンバー：(CO) CMM682J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険リスクマネジメント論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　浅井　義裕		

授業の概要・到達目標

本演習では，修士論文を執筆する上で必要となる手法を身につけることを目的としています。まず，研究課題を見つけるため，学術論文のサーベイの仕方を身につけることを目的としています。また，学術上の課題に対する，仮説について検討します。さらに，学術上の課題に対して，一定の見解を示すため，データを用いた分析の手法についても学習します。

授業内容

第1回　保険・金融分野の学術雑誌
第2回　論文サーベイ結果の報告①
第3回　論文サーベイ結果の報告②
第4回　論文サーベイ結果の報告③
第5回　論文サーベイ結果の報告④
第6回　論文サーベイ結果の報告⑤
第7回　研究課題の検討
第8回　学術的貢献の検討
第9回　仮説の検討
第10回　データの検討
第11回　最小二乗法に関する基本的文献の講読
第12回　最小二乗法の実習
第13回　ロジットモデル，プロビットモデルに関する基本的文献の講読
第14回　ロジットモデル，プロビットモデルの実習

履修上の注意

履修時点で，高校レベルの微分・積分，行列など，数学の知識を身につけておいてもらいたいと思います。また，執筆した論文を海外の学会で報告していく準備として，TOEFL550（PBT），80（iBT）レベルの英語力は，身につけておいてもらいたいと思います。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文を執筆するにあたり，（研究分野にもよりますが）修士論文に関連する論文20本程度，関係する論文まで含めると100本程度の論文を読みこなすことが求められます。特に，保険リスクマネジメント論特論演習ⅡAでは，受講者の研究課題に関する，できる限り多くの文献（主に英文，Top Journal, Field Top Journal, Core Journalに掲載されている学術論文，もしくは引用回数が多く，その分野で核となっている学術論文）を読みこなすことが求められます。

教科書

受講生の研究テーマに応じて指定します。

参考書

特に指定しません。

成績評価の方法

サーベイ結果の報告　50%
演習の結果　20%
本演習への貢献　30%

その他

本特論演習は，受講生の研究テーマや希望を聞いたうえで，相談して柔軟に進めます。

科目ナンバー：(CO) CMM682J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険リスクマネジメント論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　浅井　義裕		

授業の概要・到達目標

本特論演習では，修士論文を執筆する上で必要となる技能や手法を身につけます。研究課題について行った分析とその結果，モデルの妥当性と，解釈について検討します。また，それらの結果が，頑健なのかについても検討します。さらに，新規性・独自性・重要性，そして政策的含意についても検討します。

授業内容

第1回　学術論文への投稿，選択，Cover Letter
第2回　相関関係と因果関係
第3回　修士論文の作成と分析結果の検討①
第4回　修士論文の作成と分析結果の検討②
第5回　修士論文の作成と分析結果の検討③
第6回　分析結果の検討（サンプルの分割）
第7回　分析結果の検討（異なる分析手法）
第8回　分析結果の検討（異なるデータ期間）
第9回　分析結果の検討（異なるデータソース，異なる国のデータ）
第10回　分析手法に新規性を求める
第11回　イントロダクションの検討
第12回　政策的含意の検討
第13回　データに新規を求める（アンケート調査の強みと弱み）
第14回　残された課題の検討と今後の研究の展望

履修上の注意

履修時点で，高校レベルの微分・積分，行列など，数学の知識を身につけておいてもらいたいと思います。また，執筆した論文を海外の学会で報告していく準備として，TOEFL550（PBT），80（iBT）レベルの英語力は，身につけておいてもらいたいと思います。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文を執筆するにあたり，（研究分野にもよりますが）修士論文に関連する論文20本程度，関係する論文まで含めると100本程度の論文を読みこなすことが求められます。特に，保険リスクマネジメント論特論演習ⅡBでは，受講者の研究課題に関する，できる限り多くの文献（主に英文，Top Journal, Field Top Journal, Core Journalに掲載されている学術論文，もしくは引用回数が多く，その分野で核となっている学術論文）を読みこなし，研究課題を設定したうえで，分析を行うことが求められます。

教科書

受講生の研究テーマに応じて指定します。

参考書

特に指定しません。

成績評価の方法

分析結果の報告　70%
本演習への貢献　30%

その他

目的に応じて，分析の手法を選択し，それに応じて，分析用のソフトウェア（Eviews, SPSS, Stata, Gretlなど）を利用します。

科目ナンバー：(CO) CMM581J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険理論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　中林　真理子		

授業の概要・到達目標

経済のグローバル化や金融市場全般にわたる規制緩和の急速な進展により，保険市場をめぐる環境は大きく変化している。そして同時に，社会が複雑に変化するにつれリスクは多様化し，リスク処理手法も日々進化している。この結果，保険制度はリスクに対する経済的保障（補償）を提供する有力な一手法としての存在意義を高め，その有用性は広く認識されている。

本講は保険制度に対する理解を深めることを主目的としている。まずは以下のテーマを中心について，文献講読ならびにディスカッションを行う。その上で，受講者の関心の深い分野を中心にさらに研究を深めていく予定である。

授業内容

第1回　保険とリスクマネジメントに関する文献紹介
第2回　Introduction to Risk and Insurance
第3回　Risk Perception and Reaction
第4回　The Economics of International Trade
第5回　Societal Risk Assessment and Control: Theory and Practice
第6回　Catastrophic Risk Assessment: Natural Hazard
第7回　Catastrophic Risk Assessment: Human Factor
第8回　Societal Risk Management and Changing Demographics
第9回　Regulation of Private-Sector Financial Services
第10回　Public-Sector Economics Security
第11回　The Legal Environment
第12回　Sociocultural Effects on Risk Management
第13回　Introduction to Enterprise Risk Management
第14回　Risk Management and Insurance in a Global Economy: A Future perspective
※状況により授業内容は変更することがある。

履修上の注意

保険に関する基礎的な知識を有していることを前提に講義を行う。開講前に森宮康『ビジュアル保険の基本（新版）』（日経文庫，2003年）等を用いて準備しておくことを希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

・次回の授業で扱う内容については，事前に参考文献等で調べておくこと。
・授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

Harold Skipper Jr. and W. J. Kwon, Risk Management and Insurance: Perspectives in a Global Economy, Blackwell, 2007.

参考書

・下和田功編『はじめて学ぶリスクと保険』有斐閣，　第4版，2014年。
・Herrington, S. E. and Niehaus, G. R., Risk Management and Insurance, 2nd ed., McGraw Hill, 2004.（S. E. ハリントン＝G. R. ニーハウス（米山高生＝箸方幹逸監訳）『保険とリスクマネジメント』東洋経済新報社，2005年）
・水島一也『現代保険経済（第8版）』千倉書房，2006年。
・（公財）損害保険事業総合研究所編，ERM経営研究会『保険ERM経営の理論と実践』金融財務事情研究会，2015年。
・柳瀬典由・石坂元一・山﨑尚志『リスクマネジメント』（ベーシックプラス・シリーズ），中央経済社，2018年。

成績評価の方法

授業への参加状況（70％）ならびの担当箇所の報告状況（30％）により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM581J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険理論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　中林　真理子		

授業の概要・到達目標

保険はリスクファイナンスの中心的手法である。そして同時に，保険以外の代替的なリスクファイナンス（Alternative Risk Finance：ARF）手法と比較しより効果的なリスク処理手法を選択すべき局面も多くなってきていた。世界レベルでの金融全般にわたる規制緩和により，このような傾向が加速していたが，サブプライムローン問題に端を発した現在の金融危機により，リスクの証券化をはじめとしたリスクファイナンスのあり方そのものを再考する動きが強まっている。

文献研究とケーススタディーを通じて，保険を中心にARFの代表例について学んでいく。具体的には，保険デリバティブ，CATボンド，ファイナイト保険，キャプティブ等について取り上げていく予定である。

授業内容

第1回　イントロダクション
第2回　Enterprise Risk Management
第3回　Internal Loss Financial Arrangements
第4回　External Loss Financial Arrangements
第5回　Risk Management for Catastrophes
第6回　Personnel Risk Management
第7回　Political Risk Management
第8回　Intellectual Property and Technology Risk Management
第9回　Insurance in a Global Economy
第10回　Nature and Importance of Insurance
第11回　Life Insurance
第12回　Nonlife Insurance
第13回　Regulation and Taxation in Insurance Markets
第14回　全体のまとめ
※状況により授業内容は変更することがある。

履修上の注意

保険理論特論Aを受講している，または同等の知識を有していることが履修条件である。

準備学習（予習・復習等）の内容

・次回の授業で扱う内容については，事前に参考文献等で調べておくこと。
・授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

・（公財）損害保険事業総合研究所編，ERM経営研究会『保険ERM経営の理論と実践』金融財務事情研究会，2015年。

参考書

・経済産業省『リスクファイナンス研究会報告書～リスクファイナンスの普及に向けて～』2006年。http://www.meti.go.jp/report/downloadfiles/g60630a03j.pdf
・Culp, C. L., Structured Finance and Insurance: The ART of Managing Capital and Risk, Wiley, 2006.
・柳瀬典由・石坂元一・山﨑尚志『リスクマネジメント』（ベーシックプラス・シリーズ），中央経済社，2018年。

成績評価の方法

授業への参加状況（70％）ならびの担当箇所の報告状況（30％）により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM581J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険リスクマネジメント論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　浅井　義裕		

授業の概要・到達目標

学部レベルの保険関係の科目では，保険の仕組みや制度，保険会社，家計における保険の役割について学習する機会が多いのですが，保険は，企業においても重要な役割を果たしています。「保険リスクマネジメント論特論A・B」では，保険を利用するユーザーの立場，特に，企業の立場から，保険について学習します。

「保険リスクマネジメント論特論A」では，主に，上場企業における，保険の役割について学習します。上場企業において，保険が購入される理由について学習し，その効果について理解できるようになることを目的とします。また，保険以外のリスクマネジメントの方法についても学習します。

授業内容

第1回　リスクとその管理
第2回　リスクマネジメントの目的
第3回　リスクの認識と測定
第4回　リスク・プーリングとリスク分散
第5回　個人および企業によるリスク回避とリスクマネジメント
第6回　リスクの保険可能性，契約条項および法理
第7回　リスクマネジメントと株主の富
第8回　企業のリスクマネジメントに影響を与える税，規制および会計に関する諸要因
第9回　リスクの保有または軽減の意思決定
第10回　企業向け保険契約
第11回　デリバティブ契約によるリスクヘッジ
第12回　保険に代替的なリスク移転手段
第13回　顧客，第三者および株主に対する企業の賠償責任
第14回　賠償責任リスクとそのマネジメントに関する問題

履修上の注意

学部レベルの保険論，コーポレートファイナンス（企業金融論），ミクロ経済学などを履修しておいてもらいたいと思います。高校レベルの微分・積分，行列など，数学の知識も身につけておいてもらいたいと思います。また，英文の学術論文を読むため，TOEFL550（PBT），80（iBT）程度の英語力が必要です。

準備学習（予習・復習等）の内容

本講義では，保険購入と企業価値に関する計算問題を解くことがあるので，数値が変わっても解けるように復習しておいてもらいたいと思います。

教科書

スコット・E. ハリントン，グレッグ・R. ニーハウス（箸方幹逸・米山高生監訳）（2005）『保険とリスクマネジメント』 中央経済社（Scott Harrington and Gregory R. Niehaus （2004） ‘‘Risk Management and Insurance’’,, McGraw-Hill/Irwin）。

参考書

柳瀬典由・石坂元一・山﨑尚志（2018）『リスクマネジメント』 中央経済社。

成績評価の方法

本講義への貢献度（50％），発表の内容（50％）に基づいて評価します。

その他

本講義では，受講生の研究テーマや希望を聞いたうえで，相談して進めます。

科目ナンバー：(CO) CMM581J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険リスクマネジメント論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　浅井　義裕		

授業の概要・到達目標

学部レベルの保険関係の科目では，保険の仕組みや制度，保険会社，家計における保険の役割について学習する機会が多いのですが，保険は，企業においても重要な役割を果たしています。「保険リスクマネジメント論特論A・B」では，保険を利用するユーザーの立場，特に，企業の立場から，保険について学習します。

「保険リスクマネジメント論特論B」では，特に，上場企業に比べて，資金調達が難しい「中小企業の保険・リスクマネジメント」について学習します。中小企業金融における銀行や信用金庫の役割を考慮しながら，保険需要について考察を行います。また，保険以外のリスクマネジメントの方法についても学習します。中小企業において，損害保険や生命保険が，重要な資金調達手段の1つであることを理解できるようになることを目標としています。

授業内容

第1回　日本経済と中小企業
第2回　中小企業金融における地方銀行・信用金庫など地域金融機関の役割
第3回　中小企業金融における保険の役割
第4回　リレーションシップバンキングと保険
第5回　信用リスクと保険
第6回　税金と保険
第7回　中小企業が購入している損害保険の特徴
第8回　損害保険会社のアドバイスの有効性
第9回　中小企業と生命保険
第10回　事業承継と中小企業向け保険
第11回　資金制約と生命保険の解約
第12回　全社的リスクマネジメント:事例研究
第13回　分散
第14回　ロス・コントロール

履修上の注意

学部レベルの保険論，コーポレートファイナンス（企業金融論），ミクロ経済学などを履修しておいてもらいたいと思います。高校レベルの微分・積分，行列など，数学の知識も身につけておいてもらいたいと思います。また，英文の学術論文を読むため，TOEFL550（PBT），80（iBT）程度の英語力が必要です。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講生の研究テーマに基づいて，指定された論文に，事前に目を通しておいてもらいたいと思います。

教科書

本講義では，教科書は指定しません。
主に，海外の学術論文（Journal of Risk and Insurance, Journal of Banking and Finance, Journal of Financial Economics, Financial Management）などに掲載されていて，保険・金融・中小企業金融分野で，重要な学術論文となっている研究をもとにしながら講義を進めます。本講義内では，受講生の研究テーマに基づいて，論文リストを配布します。

参考書

中小企業金融，保険需要分野で，重要な学術論文を読むので，その都度，論文を紹介します。

成績評価の方法

本講義への貢献度（50％），発表の内容（50％）に基づいて評価します。

その他

本講義では，受講生の研究テーマや希望を聞いたうえで，相談して進めます。

科目ナンバー：(CO) CMM581J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険論外国文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文献２
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　浅井　義裕		

授業の概要・到達目標

本講義は，保険論・金融論に関する，保険とリスクマネジメントに関するサーベイ論文集を用いて，修士論文，博士論文を執筆していく上で，必要となる保険に関する最先端の学術論文を読みこなしていく基礎力を身につけることを目的としています。

授業内容

第１回　Developments in Risk and Insurance Economics: The Past 40 Years
第２回　Higher-Order Risk Attitudes
第３回　Non-Expected Utility and the Robustness of the Classical Insurance Paradigm
第４回　The Economics of Optimal Insurance Design
第５回　The Effects of Changes in Risk on Risk Taking: A Survey
第６回　Risk Measures and Dependence Modeling
第７回　The Theory of Insurance Demand
第８回　Prevention and Precaution
第９回　Optimal Insurance Contracts Under Moral Hazard
第10回　Adverse Selection in Insurance Contracting
第11回　The Theory of Risk Classification
第12回　The Economics of Liability Insurance
第13回　Economic Analysis of Insurance Fraud
第14回　Asymmetric Information in Insurance Markets: Predictions and Tests

履修上の注意

英検準１級，TOEFL550（PBT），80（iBT）程度の読解力（Reading Section 25程度）が必要となります。

準備学習（予習・復習等）の内容

進捗状況に合わせて，単語を調べておくなど，予習が必要です。

教科書

Dionne, Georges (Ed.) (2013), Handbook of Insurance, Springer-Verlag New York.

参考書

特に指定しません。

成績評価の方法

本文献研究への貢献　70%
発表の内容　30%

その他

本外国文献研究は，受講生の研究テーマや希望を聞いたうえで，相談して進めます。

科目ナンバー：(CO) CMM581J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険論外国文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文献２
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　浅井　義裕		

授業の概要・到達目標

本講義は，保険論・金融論に関する，保険とリスクマネジメントに関するサーベイ論文集を用いて，修士論文，博士論文を執筆していく上で，必要となる保険に関する最先端の学術論文を読みこなしていく基礎力を身につけることを目的としています。

授業内容

第１回　The Empirical Measure of Information Problems with Emphasis on Insurance Fraud
第２回　Workers' Compensation: Occupational Injury Insurance's Influence on the Workplace
第３回　Experience Rating in Nonlife Insurance
第４回　On the Demand for Corporate Insurance: Creating Value
第５回　Managing Catastrophic Risks Through Redesigned Insurance: Challenges and Opportunities
第６回　Innovations in Insurance Markets: Hybrid and Securitized Risk–Transfer Solutions
第７回　Risk Sharing and Pricing in the Reinsurance Market
第８回　Financial Pricing of Insurance
第９回　Insurance Price Volatility and Underwriting Cycles
第10回　On the Choice of Organizational Form: Theory and Evidence from the Insurance Industry
第11回　Insurance Distribution
第12回　Corporate Governance in the Insurance Industry: A Synthesis
第13回　Systemic Risk and the Insurance Industry
第14回　Analyzing Firm Performance in the Insurance Industry Using Frontier Efficiency

履修上の注意

英検準１級，TOEFL550（PBT），80（iBT）程度の読解力（Reading Section25程度）が必要となります。

準備学習（予習・復習等）の内容

進捗状況に合わせて，単語を調べておくなど，予習が必要です。

教科書

Dionne, Georges (Ed.) (2013), Handbook of Insurance, Springer-Verlag New York.

参考書

特に指定しません。

成績評価の方法

本文献研究への貢献　70%
発表の内容　30%

その他

本外国文献研究は，受講生の研究テーマや希望を聞いたうえで，相談して進めます。

科目ナンバー：(CO) CMM562J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通理論特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標
《授業の到達目標及びテーマ》
　事実から論理を導き出すために，日本の交通政策に関する史的・論理的確認を行なっていきます。
《授業の概要》
　論理力を高めること，受講者の研究テーマを明確化すること，およびその内容を質的に高度化することです。

授業内容
第１回　交通論の歴史と論理
第２回　交通論研究の対象と課題
第３回　交通論研究の系譜
第４回　交通サービス商品の特質
第５回　交通サービス商品の生産要素
第６回　交通労働の特質と生産性
第７回　交通サービス商品の生産過程
第８回　交通の本質と生産的機能
第９回　交通資本の運動・蓄積・回転
第10回　交通需要の波動性と交通事業者の対応
第11回　交通事業と利潤
第12回　運賃の決定原則（その１）
第13回　運賃の決定原則（その２）
第14回　まとめ

履修上の注意
　関連領域にも配慮して学ぶこと。

準備学習（予習・復習等）の内容
　教科書と参考書の該当箇所を読むこと。また，復習もすること。

教科書
『現代交通論の系譜と構造』藤井秀登（務経経理協会)。

参考書
『交通政策の経済学』奥野正寛・篠原総一・金本良嗣（日本経済新聞社),『新版交通概論』中西健一・平井都士夫（有斐閣)。

成績評価の方法
　参加態度（50％）と報告内容（50％）を基礎に総合的に評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM562J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通理論特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標
《授業の概要》
　事実から論理を導き出すために，日本の交通政策に関する史的・論理的確認を行なっていきます。
《到達目標》
　論理力を高めること，受講者の研究テーマを明確化すること，およびその内容を質的に高度化することです。

授業内容
第１回　イントロダクション（交通史と交通経済学）
第２回　創業期の鉄道政策
第３回　海運政策の転換
第４回　鉄道国有化政策の意義と展開
第５回　都市交通政策の新展開
第６回　海運政策の新展開
第７回　交通調整政策と戦時交通政策
第８回　民主的な交通政策の確立
第９回　航空政策の意義
第10回　交通調整政策の意義
第11回　物流政策の新展開
第12回　規制緩和政策
第13回　持続可能な交通政策
第14回　まとめ

履修上の注意
　主体的に研究テーマと取り組む姿勢が重視されます。

準備学習（予習・復習等）の内容
　教科書と参考書に挙げた文献を予習すること。また，復習で理解を深めること。

教科書
『現代交通論の系譜と構造』藤井秀登（税務経理協会)。

参考書
『交通政策の経済学』奥野正寛・篠原総一・金本良嗣編（日本経済新聞社),『新版交通概論』中西健一・平井都士夫（有斐閣)，および『交通体系論』F. フォークト著，岡田清・池田浩太郎訳（千倉書房)，Divall, C., J. Hine and C. Pooly (eds.), Transport Policy: Learning Lessons from History, Asgate, 2016.

成績評価の方法
　参加態度（50％）と報告内容（50％）で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM662J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通理論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

受講者の個別の研究テーマに対して，交通学説史・交通理論・交通政策・交通史の各観点から支援をしていきます。

《到達目標》

受講者の研究テーマを明確化すること，その内容を質的に高度化すること，論文の課題を確認すること，および体系性をもった論文構成にすることです。

授業内容

第1回　履修者による修士論文テーマの報告（1）
第2回　履修者による修士論文テーマの報告（2）
第3回　交通理論研究の方法論に関する検討（その1）
第4回　交通理論研究の方法論に関する検討（その2）
第5回　交通理論研究の方法論に関する検討（その3）
第6回　交通理論研究の方法論に関する検討（その3）
第7回　交通理論研究の方法論に関する検討（その5）
第8回　履修者による修士論文の構成等に関する報告（その1）
第9回　履修者による修士論文の構成等に関する報告（その2）
第10回　追加文献，データ収集等に関する検討（その1）
第11回　追加文献，データ収集等に関する検討（その2）
第12回　追加文献，データ収集等に関する検討（その3）
第13回　予備的分析結果の検討等（その1）
第14回　予備的分析結果の検討等（その2）

履修上の注意

主体的に研究テーマと取り組む姿勢が重視されます。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書と参考書に挙げた文献を予習すること。また，復習で理解を深めること。

教科書

『交通政策の経済学』奥野正寛・篠原総一・金本良嗣編（日本経済新聞社），『新版交通概論』中西健一・平井都士夫（有斐閣），および『交通体系論』F. フォークト著，岡田清・池田浩太郎訳（千倉書房）。

参考書

Wolff R. D. and S. A. Resnick, Economics: Marxian versus Neoclassical, The Johns Hopkins University Press, 1987.

成績評価の方法

参加態度（50％）と報告内容（50％）で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM662J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通理論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

受講者の個別の研究テーマに対して，交通学説史・交通理論・交通政策・交通史の各観点から支援をしていきます。

《到達目標》

受講者の研究テーマを明確化すること，その内容を質的に高度化すること，論文の課題を確認すること，および体系性をもった論文構成にすることです。

授業内容

第1回　履修者による修士論文進捗状況等の報告
第2回　修士論文作成に関する指導（その1）
第3回　修士論文作成に関する指導（その2）
第4回　修士論文作成に関する指導（その3）
第5回　修士論文作成に関する指導（その4）
第6回　修士論文作成に関する指導（その5）
第7回　履修者による修士論文中間報告（その1）
第8回　履修者による修士論文中間報告（その2）
第9回　修士論文執筆に関する指導（その1）
第10回　修士論文執筆に関する指導（その2）
第11回　履修者による修士論文最終報告（その1）
第12回　履修者による修士論文最終報告（その2）
第13回　演習内容の総括と残された課題の検討（その1）
第14回　演習内容の総括と残された課題の検討（その2）

履修上の注意

主体的に研究テーマと取り組む姿勢が重視されます。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書と参考書に挙げた文献を予習すること。また，復習で理解を深めること。

教科書

『交通政策の経済学』奥野正寛・篠原総一・金本良嗣編（日本経済新聞社），『新版交通概論』中西健一・平井都士夫（有斐閣），および『交通体系論』F. フォークト著，岡田清・池田浩太郎訳（千倉書房）。

参考書

Richard D. Wolf and Stephen A. Resnick, Economics: Marxian versusu Nepclassical, The Johns Hopkins University Press, 1987.

成績評価の方法

参加態度（50％）と報告内容（50％）で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM562J			
交通系列		備 考	
科 目 名	国際交通論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　町田　一兵		

授業の概要・到達目標

本講義では，交通理論や主要国における交通関連の施策，国際交通インフラ整備の現状について理解を深めることを目的とする。国や地域の違いを理解したうえ，どのように交通システムを展開していくのかについて考える。修士課程で交通に関する基礎概念及び関連文献の理解の基礎作りを行う予定である。

授業内容

第１回　学習の概要説明
第２回　研究テーマの検討①
第３回　研究テーマの検討②
第４回　研究テーマの検討③
第５回　交通関連の基本文献の講読①
第６回　交通関連の基本文献の講読②
第７回　交通関連の基本文献の講読③
第８回　交通関連の基本文献の講読④
第９回　交通関連の基本文献の講読⑤
第10回　発表とその検討・評価①
第11回　発表とその検討・評価②
第12回　発表とその検討・評価③
第13回　発表とその検討・評価④
第14回　春学期の総括

履修上の注意

履修者による文献内容の報告及びそのディスカッションを中心に進める予定である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に与えられた文献を熟読し，ディスカッションに参加できるように内容を理解しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

岩澤孝雄『交通サービスと経営戦略』白桃書房，1989年。

池田博行・松尾光芳『現代交通論』税務経理協会，1994年。

成績評価の方法

参加態度（50％）＋報告内容（50％）で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM562J			
交通系列		備 考	
科 目 名	国際交通論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　町田　一兵		

授業の概要・到達目標

本講義では，交通理論や主要国における交通関連の施策，国際交通インフラ整備の現状について理解を深めることを目的とする。国や地域の違いを理解したうえ，どのように交通システムを展開していくのかについて考える。修士課程で交通に関する基礎概念及び関連文献の理解の基礎作りを行う予定である。

授業内容

第１回　学習の概要説明
第２回　研究テーマの検討①
第３回　研究テーマの検討②
第４回　研究テーマの検討③
第５回　交通関連の基本文献の講読①
第６回　交通関連の基本文献の講読②
第７回　交通関連の基本文献の講読③
第８回　交通関連の基本文献の講読④
第９回　交通関連の基本文献の講読⑤
第10回　発表とその検討・評価①
第11回　発表とその検討・評価②
第12回　発表とその検討・評価③
第13回　発表とその検討・評価④
第14回　秋学期の総括

履修上の注意

履修者による文献内容の報告及びそのディスカッションを中心に進める予定である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に与えられた文献を熟読し，ディスカッションに参加できるように内容を理解しておくこと。

教科書

特に指定しません。

参考書

岩澤孝雄『交通サービスと経営戦略』白桃書房，1989年。

池田博行・松尾光芳『現代交通論』税務経理協会，1994年。

成績評価の方法

参加態度（50％）＋報告内容（50％）で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM662J			
交通系列		備 考	
科 目 名	国際交通論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　町田　一兵		

授業の概要・到達目標
この演習では，修士論文の作成に向け，交通政策及び交通産業に関する研究を深め，完成度の高い修士論文の作成を指導する。

授業内容
第1回　履修者による修士論文テーマの検討①
第2回　履修者による修士論文テーマの検討②
第3回　分析方法及び関連する文献研究の検討①
第4回　分析方法及び関連する文献研究の検討②
第5回　分析方法及び関連する文献研究の検討③
第6回　分析方法及び関連する文献研究の検討④
第7回　交通関連の基本文献の講読①
第8回　交通関連の基本文献の講読②
第9回　履修者による修士論文の構成に関する報告①
第10回　履修者による修士論文の構成に関する報告②
第11回　追加文献・データに関する検討①
第12回　追加文献・データに関する検討②
第13回　追加文献・データに関する検討③
第14回　春学期の総括

履修上の注意
履修者による文献内容の報告及びそのディスカッションを中心に進める予定である。

準備学習（予習・復習等）の内容
テーマ確定と論文作成を中心に，関連文献の項目別整理を行うこと。

教科書
履修者の研究テーマ別に基礎文献（日本語・英語・中国語）を用いる。

参考書
必要に応じて提示する。

成績評価の方法
修士論文の作成に合わせ，研究意欲（50％）＋論理性（30％）＋独自性（20％）などで評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM662J			
交通系列		備 考	
科 目 名	国際交通論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　町田　一兵		

授業の概要・到達目標
この演習では，修士論文の作成に向け，交通政策及び交通産業に関する研究を深め，完成度の高い修士論文の作成を指導する。

授業内容
第1回　修士論文作成に関する指導①
第2回　修士論文作成に関する指導②
第3回　修士論文作成に関する指導③
第4回　修士論文作成に関する指導④
第5回　修士論文作成に関する指導⑤
第6回　修士論文作成に関する指導⑥
第7回　履修者による修士論文中間報告①
第8回　履修者による修士論文中間報告②
第9回　履修者による修士論文中間報告③
第10回　修士論文執筆に関する指導①
第11回　修士論文執筆に関する指導②
第12回　修士論文執筆に関する指導③
第13回　修士論文最終報告④
第14回　修士論文最終報告⑤

履修上の注意
履修者による論文内容の報告及びその指導を中心に進める予定である。

準備学習（予習・復習等）の内容
主要な関連文献の内容を十分に熟知すること。

教科書
履修生の研究希望に沿った文献を指定する。

参考書
必要に応じて提示する。

成績評価の方法
修士論文の作成状況を通じて総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM561J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通理論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標
《授業の概要》
　交通理論の哲学的基礎を吟味することです。特に，日・欧・米の代表的な交通論の教科書で分析枠組みとして使用されている新古典派経済理論を俎上に載せて，その哲学的意義を検討していきます。
《到達目標》
　交通現象の構造と本質を質的側面から認識できるように，対象とする事象の分析と総合に必要な能力を涵養・駆使できることに狙いがあります。

授業内容
第1回　交通理論の哲学的基礎とは
第2回　新古典派経済学とその哲学的基礎（その1）
第3回　新古典派経済学とその哲学的基礎（その2）
第4回　限界効用理論（その1）
第5回　限界効用理論（その2）
第6回　無差別曲線（その1）
第7回　無差別曲線（その2）
第8回　限界生産力（その1）
第9回　限界生産力（その2）
第10回　新古典派経済学の市場メカニズム（その1）
第11回　新古典派経済学の市場メカニズム（その2）
第12回　価値法則と市場メカニズム（その1）
第13回　価値法則と市場メカニズム（その2）
第14回　まとめ

履修上の注意
　社会経済学とミクロ経済学の基礎的な概念を理解している前提で授業を進めます。なお，教科書の輪読以外に受講者の主体的な意見も要求されます。

準備学習（予習・復習等）の内容
　教科書と参考書に挙げた文献を予習すること。また，復習で理解を深めること。

教科書
　荒井一博『自由だけではなぜいけないのか―経済学を考え直す―』講談社，2009年。

参考書
　Richard D. Wolff and Stephen A. Resnick, Economics: Marxian versus Neoclassical, The Johns Hopkins University Press, 1987.

成績評価の方法
　授業への参加態度（50％）と報告内容（50％）を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM561J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通理論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標
《授業の概要》
　交通理論特論Aにおける哲学的基礎の検討を経た交通理論の修得を踏まえて，日・欧・米の交通政策の規範について検討していきます。すなわち，各国における交通政策がどのような規範に従って実施されていったのかを，その時代背景を踏まえて考察していきます。
《到達目標》
　多様な価値観と整合性をもつ交通政策の規範を経済的効率性と区別すると同時に関連させる能力を涵養していきます。

授業内容
第1回　交通政策の規範
第2回　規範原理としての自由
第3回　自由と交通政策
第4回　効率の概念とその現代的展開
第5回　効率と交通政策
第6回　現代平等論の意義
第7回　平等と交通政策
第8回　公共性の意義
第9回　公共性と交通政策
第10回　権利の概念とその現代的展開
第11回　権利と交通政策
第12回　環境理論の検討
第13回　環境と交通政策
第14回　まとめ

履修上の注意
　教科書の内容理解だけでなく，関連領域に対する広範な学習が併せて必要となります。

準備学習（予習・復習等）の内容
　教科書と参考書に挙げた文献を予習すること。また，復習で理解を深めること。

教科書
　『現代規範理論入門―ポスト・リベラリズムの新展開―』有賀誠ほか編（ナカニシヤ出版）。

参考書
　『公共政策の基礎』I.M.D. リトル著，松本保美訳（木鐸社），『思想としての経済学』竹田茂夫（青土社）。

成績評価の方法
　授業への参加態度（50％）と報告内容（50％）を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM561J			
交通系列		備 考	
科 目 名	国際交通論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　町田　一兵		

授業の概要・到達目標

本講義では，交通理論や主要国における交通関連の施策，国際交通インフラ整備の現状について理解を深めることを目的とする。国や地域の違いを理解したうえ，どのように交通システムを展開していくのかについて考える。その際，公共交通の規制緩和，民営化，などのトピックを取り上げる。授業は，輪読と発表，問題解析などで構成される。

授業内容

第1回　学習の概要説明
第2回　交通学とその方向
第3回　交通の特性
第4回　交通と財
第5回　交通の公共性と公益性
第6回　交通の供給組織
第7回　交通技術の発達
第8回　交通手段の選択
第9回　交通政策の必要性と課題
第10回　総合交通に関する政策
第11回　経済理論の応用
第12回　交通研究の課題　理論と現実の接近
第13回　交通サービスの一般性と特殊性
第14回　学習内容の総括
＊履修者の人数等により，授業内容が変わることがある。

履修上の注意

履修者による文献内容の報告及びそのディスカッションを中心に進める予定である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に与えられた文献を熟読し，ディスカッションに参加できるように内容を理解しておくこと。

教科書

谷利亨『交通研究谷利亨『交通研究のダイナミックス』白桃書房，2016年。

参考書

授業中に適宜指示する。

成績評価の方法

参加態度（50%）＋報告内容（50%）で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM561J			
交通系列		備 考	
科 目 名	国際交通論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　町田　一兵		

授業の概要・到達目標

本講義では，交通理論や主要国における交通関連の施策，国際交通インフラ整備の現状について理解を深めることを目的とする。国や地域の違いを理解したうえ，どのように交通システムを展開していくのかについて考える。その際，公共交通の規制緩和，民営化，などのトピックを取り上げる。授業は，輪読と発表，問題解析などで構成される。

授業内容

第1回　学習の概要説明
第2回　航空産業について①
第3回　航空産業について②
第4回　港湾産業について①
第5回　港湾産業について②
第6回　海運産業について①
第7回　海運産業について②
第8回　鉄道産業について①
第9回　鉄道産業について②
第10回　自動車輸送産業について①
第11回　自動車輸送産業について②
第12回　道路産業について
第13回　複合輸送について
第14回　学習内容の総括
＊履修者の人数等により，授業内容が変わることがある。

履修上の注意

履修者による文献内容の報告及びそのディスカッションを中心に進める予定である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に与えられた文献を熟読し，ディスカッションに参加できるように内容を理解しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

平川均など『一帯一路の政治経済学』文眞堂，2019年。

成績評価の方法

参加態度（50%）＋報告内容（50%）で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM561J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通論外国文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文献２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

新古典派経済学に依拠した英語文献を通じて，交通論の基礎的な概念が外国文献ではどのように認識されているのかを確認していきます。

《到達目標》

英語文献を邦訳しながら，交通分野における研究に必要な文献研究の方法を涵養していくことにあります。

授業内容

第１回　Transportation and Economic Policy
第２回　Transportation, Logistics and Technology
第３回　The Demand for Transportation
第４回　Trade and Transportation Costs
第５回　Laws of Variable Proportions and Scale
第６回　Modal Supply Characteristics
第７回　Markets and Competition in Transportation
第８回　Externalities, Public Supply and Marginal Cost Pricing
第９回　Spatial and Temporal Pricing in Transportation
第10回　Product Pricing in Transportation
第11回　Transportation, Investment and Generalized Cost
第12回　Location and Land Settlement
第13回　Transportation and Government Policy
第14回　Regulatory Enforcement and Compliance

履修上の注意

輪読する箇所を事前に参加者に割り当てますので，十分な予習をしたうえで授業に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書と参考書を予習すること。また，復習で理解を深めること。

教科書

Prentice, B.E. and D. Prokop, Concepts of Transportation Economics, World Scientific, 2015.

参考書

Bamford, C. D., Transport Economics (4th edn.), Heinemann, 2006.

成績評価の方法

参加態度，予習や報告の内容を通して総合的に評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM561J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通論外国文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文献２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

主にイギリスの交通政策をテーマに複数の研究者が寄稿した論文集を教材としながら，交通政策の制度設計を検討していきます。

《到達目標》

交通分野における研究に必要な文献研究の方法を涵養していくことにあります。

授業内容

第１回　Why Does the Past Matter?
第２回　Using the Usable Past: Reflections and Practices in the Neitherlands
第３回　Structures of Disadvantage and Acts of Resistance: Remembering, Skilling, History and Gender
第４回　Balancing Social Justice and Environmental Justice: Mobility Inequalities in Britain since 1900
第５回　Mobility in Rural Ireland: A Study of Older People and the Chalenges They Face
第６回　Have Consumer Movements Enhanced Transport Justice?
第７回　High Speed 2 Where?
第８回　Interminably Delaying What Needs to Be Done
第９回　Marketing and Branding for Modal Shift in Urbsan Transport
第10回　Gaining Modal Share in Exogenouosly Driven Markets
第11回　Plane Crazy Britz
第12回　The Role of Central Government
第13回　Local Government and Urban Transport
第14回　Influencing Transport Policy

履修上の注意

輪読する箇所を事前に参加者に割り当てますので，十分な予習をしたうえで授業に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書と参考書に挙げた文献を予習すること。また，復習で理解を深めること。

教科書

Divall, C., J.H. and and C. Pooly (eds.), Transport Policy: Learning Lessons from History, Ashgate, 2016.

参考書

Glaister, S., J.Burnham, H. Stevens and T. Travers (eds), Transport Policy in Britain (2nd edn.), Palgrave, 2006.

成績評価の方法

参加態度（30％），予習や報告の状況など（70％）で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM552J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス・コミュニケーション論特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

この演習では国際ビジネス・コミュニケーションの研究に必要な専門的知識を習得すると同時に，修士論文のテーマ選定に必要な文献研究を行う。できる限り早い段階で各自の研究テーマを決定し，論文の準備にとりかかる。

各自の研究テーマはビジネス・コミュニケーション全般の分野から選んでもよいが，その研究対象は一ないし，二のテーマに焦点を絞ることが必要である。具体的なテーマについては国際ビジネス・コミュニケーション論特論で学ぶトピックスが参考になるだろう。ただし，随時相談に応じる。

国内外の最新の研究成果をジャーナル及び最新の出版物をもとにプレゼンテーションをすることがもとめられる。

授業内容

春学期
第１回　国際ビジネス・コミュニケーション分野のオリエンテーション（1）
第２回　国際ビジネス・コミュニケーション分野のオリエンテーション（2）
第３回　研究テーマの検討（1）
第４回　研究テーマの検討（2）
第５回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の基本文献の講読（1）
第６回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の基本文献の講読（2）
第７回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の基本文献の講読（3）
第８回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の基本文献の講読（4）
第９回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の基本文献の講読（5）
第10回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の分析手法に関する基本文献の講読（1）
第11回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の分析手法に関する基本文献の講読（2）
第12回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の分析手法に関する基本文献の講読（3）
第13回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の分析手法に関する基本文献の講読（4）
第14回　問題点の確認とテーマの絞り込み

履修上の注意

事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文作成のための参考文献を探し，授業中に発表する。

教科書

特に指定しない。

参考書

塩澤恵理「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析」頸草書房，2005。その他，随時提案する。

成績評価の方法

積極的な参加態度，50％
発表，ディスカッション50％を総合的に判定する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM552J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス・コミュニケーション論特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演２
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

この演習では国際ビジネス・コミュニケーションの研究に必要な専門的知識を習得すると同時に，修士論文のテーマ選定に必要な文献研究を行う。できる限り早い段階で各自の研究テーマを決定し，論文の準備にとりかかる。

各自の研究テーマはビジネス・コミュニケーション全般の分野から選んでもよいが，その研究対象は一ないし，二のテーマに焦点を絞ることが必要である。具体的なテーマについては国際ビジネス・コミュニケーション論特論で学ぶトピックスが参考になるだろう。ただし，随時相談に応じる。

国内外の最新の研究成果をジャーナル及び最新の出版物をもとにプレゼンテーションをすることがもとめられる。

授業内容

秋学期
第１回　研究テーマに関する文献の紹介（1）
第２回　研究テーマに関する文献の紹介（2）
第３回　主要関連文献リストの作成
第４回　主要関連文献の講読（1）
第５回　主要関連文献の講読（2）
第６回　主要関連文献の講読（3）
第７回　主要関連文献の講読（4）
第８回　主要関連文献の講読（5）
第９回　主要関連文献の問題点の整理と検討（1）
第10回　主要関連文献の問題点の整理と検討（2）
第11回　分析方法等に関する関連文献の講読（1）
第12回　分析方法等に関する関連文献の講読（2）
第13回　分析方法等に関する関連文献の講読（3）
第14回　演習内容の総括と修士論文テーマに関する指導

履修上の注意

事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文作成のための参考文献を探し，授業中に発表する。

教科書

特に指定しない。

参考書

塩澤恵理「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析」頸草書房，2005。その他，随時提案する。

成績評価の方法

積極的な参加態度　50％
発表，ディスカッション　50％を総合的に判定する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM652J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス・コミュニケーション論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演 2
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

この演習では国際ビジネス・コミュニケーションの研究に必要な専門的知識を習得すると同時に，修士論文のテーマ選定に必要な文献研究を行う。できる限り早い段階で各自の研究テーマを決定し，論文の準備にとりかかる。

各自の研究テーマはビジネス・コミュニケーション全般の分野から選んでもよいが，その研究対象は一ないし，二のテーマにフォーカスを絞ることが必要である。具体的なテーマについては国際ビジネス・コミュニケーション論特論で学ぶトピックスが参考になるだろう。ただし，随時相談に応じる。

国内外の最新の研究成果をジャーナル及び最新の出版物をもとにプレゼンテーションをすることがもとめられる。

授業内容

修士論文執筆の準備
春学期
第１回　履修者による修士論文テーマの報告（1）
第２回　履修者による修士論文テーマの報告（2）
第３回　分析方法の検討等（1）
第４回　分析方法の検討等（2）
第５回　分析方法の検討等（3）
第６回　分析方法の検討等（4）
第７回　分析方法の検討等（5）
第８回　履修者による修士論文の構成等に関する報告（1）
第９回　履修者による修士論文の構成等に関する報告（2）
第10回　追加文献，データ収集等に関する検討（1）
第11回　追加文献，データ収集等に関する検討（2）
第12回　追加文献，データ収集等に関する検討（3）
第13回　予備的分析結果の検討等（1）
第14回　予備的分析結果の検討等（2）

履修上の注意

事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文作成のための参考文献を探し，授業中に発表する。

教科書

特に指定しない。

参考書

塩澤恵理「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析」頸草書房，2005。その他，随時提案する。

成績評価の方法

積極的な参加態度，50％
発表，ディスカッション　50％を総合的に判定する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM652J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス・コミュニケーション論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演 2
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

この演習では国際ビジネス・コミュニケーションの研究に必要な専門的知識を習得すると同時に，修士論文のテーマ選定に必要な文献研究を行う。できる限り早い段階で各自の研究テーマを決定し，論文の準備にとりかかる。

各自の研究テーマはビジネス・コミュニケーション全般の分野から選んでもよいが，その研究対象は一ないし，二のテーマにフォーカスを絞ることが必要である。具体的なテーマについては国際ビジネス・コミュニケーション論特論で学ぶトピックスが参考になるだろう。ただし，随時相談に応じる。

国内外の最新の研究成果をジャーナル及び最新の出版物をもとにプレゼンテーションをすることがもとめられる。

授業内容

修士論文執筆の準備
秋学期
第１回　履修者による修士論文進捗状況の報告
第２回　修士論文作成に関する指導（1）ここで提出のための登録
第３回　修士論文作成に関する指導（2）
第４回　修士論文作成に関する指導（3）
第５回　修士論文作成に関する指導（4）
第６回　修士論文作成に関する指導（5）
第７回　履修者による修士論文中間報告（1）
第８回　履修者による修士論文中間報告（2）
第９回　修士論文執筆に関する指導（1）
第10回　修士論文執筆に関する指導（2）
第11回　修士論文執筆に関する指導（3）
第12回　履修者による修士論文最終報告（1）
第13回　履修者による修士論文最終報告（2）ここで提出
第14回　演習内容の総括と残された課題の検討

履修上の注意

事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文作成のための参考文献を探し，授業中に発表する。

教科書

特に指定しない。

参考書

塩澤恵理「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析」頸草書房，2005。その他，随時提案する。

成績評価の方法

積極的な参加態度，50％
発表，ディスカッション　50％を総合的に判定する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM552J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス交渉論特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		山本　雄一郎

授業の概要・到達目標

本演習では，国際ビジネスにおける交渉，異文化コミュニケーション，ビジネスコミュニケーションの分野の現状や課題に注目する。

授業では，基本的な文献を講読・検討するとともに，受講者は，各自の論文研究テーマの絞り込みを到達目標とする。

授業内容

第1回　国際ビジネス分野のガイダンス（交渉）
第2回　国際ビジネス分野のガイダンス（コミュニケーション）
第3回　研究テーマ設定の検討（1）
第4回　研究テーマ設定の検討（2）
第5回　基本文献の講読（1）
第6回　基本文献の講読（2）
第7回　基本文献の講読（3）
第8回　基本文献の講読（4）
第9回　基本文献の講読（5）
第10回　基本文献の講読（6）
第11回　基本文献の講読（7）
第12回　研究テーマの絞り込みと検討（1）
第13回　研究テーマの絞り込みと検討（2）
第14回　研究テーマの絞り込みと検討（3）

授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

受講者の主体的な取り組みを重視する。
毎回，十分な準備をすること。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について，事前に文献等で調べておくこと。

教科書

特に使用しない。

参考書

特に使用しない。

成績評価の方法

授業への貢献度（発表・発言等）100％

その他

積極的に参加することが望まれる。

科目ナンバー：(CO) CMM552J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス交渉論特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		山本　雄一郎

授業の概要・到達目標

本演習では，国際ビジネスにおける交渉，異文化コミュニケーション，ビジネスコミュニケーションの分野の現状や課題に注目する。

授業では，主要関連文献を講読・検討するとともに，受講者は，各自の論文研究テーマを明確化することを到達目標とする。

授業内容

第1回　研究テーマに関する文献調査（1）
第2回　研究テーマに関する文献調査（2）
第3回　研究テーマに関する文献調査（3）
第4回　主要関連文献の講読（1）
第5回　主要関連文献の講読（2）
第6回　主要関連文献の講読（3）
第7回　主要関連文献の講読（4）
第8回　主要関連文献の講読（5）
第9回　主要関連文献の講読（6）
第10回　研究テーマに関する再検討（1）
第11回　研究テーマに関する再検討（2）
第12回　研究テーマに関する再検討（3）
第13回　研究テーマと分析手法の検討（1）
第14回　研究テーマと分析手法の検討（2）

授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

受講者の主体的な取り組みを重視する。
毎回，十分な準備をすること。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について，事前に文献等で調べておくこと。

教科書

特に使用しない。

参考書

特に使用しない。

成績評価の方法

授業への貢献度（発表・発言等）100％

その他

積極的な参加が望まれる。

科目ナンバー：(CO) CMM652J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス交渉論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		山本　雄一郎

授業の概要・到達目標
各自の論文研究テーマに基づき，論文作成を進める。先行研究の分析，関連資料，文献の検討を行う。
授業では，受講者は，各自の進捗状況に応じて，適宜，研究論文の構成・関連文献の検討・分析方法の確定をすることを到達目標とする。

授業内容
第1回　修士論文テーマの報告（1）
第2回　修士論文テーマの報告（2）
第3回　分析方法等の検討（1）
第4回　分析方法等の検討（2）
第5回　分析方法等の検討（3）
第6回　論文構成等の検討（1）
第7回　論文構成等の検討（1）
第8回　主要関連文献の検討（1）
第9回　主要関連文献の検討（2）
第10回　主要関連文献の検討（3）
第11回　主要関連文献の検討（4）
第12回　主要関連文献の検討（5）
第13回　論文全体の流れと分析方法の確定（1）
第14回　論文全体の流れと分析方法の確定（2）
授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意
受講者の主体的な取り組みを重視する。毎回，十分な準備をすること。

準備学習（予習・復習等）の内容
次回の授業範囲について事前に文献等で調べておくこと。

教科書
特に使用しない。

参考書
特に使用しない。

成績評価の方法
授業への貢献度（発表・発言等）100％

その他
積極的に取り組むことが望まれる。

科目ナンバー：(CO) CMM652J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス交渉論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		山本　雄一郎

授業の概要・到達目標
各自の論文研究テーマに基づき，論文作成を進める。先行研究の分析，関連資料，文献の検討を行う。
授業では，受講者は，各自の進捗状況に応じて，適宜，研究論文の中間報告および最終報告をすることを到達目標とする。

授業内容
第1回　論文作成の進捗状況の報告
第2回　論文作成に関する指導（1）
第3回　論文作成に関する指導（2）
第4回　論文作成に関する指導（3）
第5回　論文作成に関する指導（4）
第6回　論文作成に関する指導（5）
第7回　論文の中間報告と内容検討（1）
第8回　論文の中間報告と内容検討（2）
第9回　論文執筆に関する指導（1）
第10回　論文執筆に関する指導（2）
第11回　論文執筆に関する指導（3）
第12回　論文最終報告（1）
第13回　論文最終報告（2）
第14回　演習全体のまとめ
授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意
受講者の主体的な取り組みを重視する。毎回，十分な準備をすること。

準備学習（予習・復習等）の内容
作成論文の内容について，文献を調べ，考察しておくこと。

教科書
特に使用しない。

参考書
特に使用しない。

成績評価の方法
授業への貢献度（発表・発言等）40％，論文の中間報告・最終報告の内容・取組状況60％

その他

科目ナンバー：(CO) CMM551J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス・コミュニケーション論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

昨今，国際化が進んでいるビジネスの舞台では，ビジネス・コミュニケーションの役割が重要性をましてきた。ネゴシエーションや商取引においても諸外国の文化，慣習への理解が不可欠となってくる。自分の意思をいかに相手に伝えるかがそのビジネスの成功を左右する。こうした状況の下，実際にどのようにビジネス・コミュニケーションをとれば最適の結果が得られるかを学ぶ。特に異文化に焦点を当てて，ビジネス・コミュニケーションの真髄を習得する。

授業内容

本講義では，Maureen Guirdham and Oliver Guirdham の著書，Communicating Across Cultures at Work，4th edition（2017）を使って，多角的な視野からビジネス・コミュニケーションの分析を行う。

春学期では以下の章を取り上げる。二週間に一章のペースで進む。

第1回　Introduction
第2回　Introduction:Some Key Concepts
第3回　Culture and Cultural Difference
第4回　Culture and Cultural Difference
第5回　How Cultures Vary
第6回　How Cultures Vary
第7回　Culture and Work
第8回　Culture and Work
第9回　Cultural Differences in Work Communication Practices
第10回　Cultural Differences in Work Communication Practices
第11回　Cultural Differences in Work Communication Antecedents
第12回　Cultural Differences in Work Communication Antecedents
第13回　Cultural Differences in Work Activities
第14回　Cultural Differences in Work Activities

履修上の注意

自分が発表する範囲意外でも事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

新しい着眼点を次回の授業中で発表できるように予習，復習は不可欠である。
研究につながる独自の特に興味深い点などをピックアップして発表に盛り込む。

教科書

Communicating Across Cultures at Work'' By Maureen Guirdham and Oliver Guirdham，4th edition（2017）

参考書

塩澤恵理「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析」頸草書房，2005。その他，随時提案する。

成績評価の方法

積極的な参加態度，50％
発表，ディスカッション　50％を総合的に判定する。

その他

基本的に英語と日本語の両言語を用いる。（日本語は補足として取り入れる）

科目ナンバー：(CO) CMM551J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス・コミュニケーション論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

春学期で学んだビジネス・コミュニケーションにおける基礎理論の，より実践的な分野への応用を試みる。昨今，国際化が進んでいるビジネスの舞台では，ビジネス・コミュニケーションの役割が重要性をましてきた。ネゴシエーションや商取引においても諸外国の文化，慣習への理解が不可欠となってくる。自分の意思をいかに相手に伝えるかがそのビジネスの成功を左右する。こうした状況の下，実際にどのようにビジネス・コミュニケーションをとれば最適の結果が得られるかを学ぶ。特に異文化に焦点を当てて，ビジネス・コミュニケーションの真髄を習得する。

授業内容

本講義では，Maureen Guirdham and Oliver Guirdham の著書，Communicating Across Cultures at Work, 4th edition（2017）を使って，多角的な視野からビジネス・コミュニケーションの分析を行う。

秋学期では春学期の続きで以下の章を取り上げる。

第1回　Orientation/Introduction
第2回　Subcultural Communication at Work
第3回　Subcultural Communication at Work
第4回　Barriers to Intercultural Communication at Work
第5回　Barriers to Intercultural Communication at Work
第6回　Barriers to Intercultural Communication at Work
第7回　Effective Intercultural Work Communication
第8回　Effective Intercultural Work Communication
第9回　Effective Intercultural Work Communication
第10回　Effective Intercultural Work Communication
第11回　Intercultural Work Activities
第12回　Intercultural Work Activities
第13回　Intercultural Work Activities
第14回　Review Session

履修上の注意

自分が発表する範囲意外でも事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

新しい着眼点を次回の授業中で発表できるように予習，復習は不可欠である。
研究につながる独自の特に興味深い点などをピックアップして発表に盛り込む。

教科書

Communicating Across Cultures at Work, 4th edition (2017), by Maureen Guirdham and Oliver Guirdham

参考書

塩澤恵理「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析」頸草書房，2005. その他，随時提案する。

成績評価の方法

積極的な参加態度50％
発表，ディスカッション　50％を総合的に判定する。

その他

基本的に英語と日本語の両言語を用いる。（日本語は補足として取り入れる）

科目ナンバー：(CO) CMM551J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス交渉論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		山本　雄一郎

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

国際ビジネスおよびビジネスモデルを概観したうえで国際ビジネス交渉の現状・ルール・必要な事項や交渉力に影響を与える要因に注目することで，国際ビジネスにおいてどのように交渉がなされるべきか，そして現実的に対応できるのかを議論する。

【授業の到達目標】

国際ビジネスおよびビジネス交渉の現状と課題，交渉力の内容，交渉力に影響を与える要因を事例を通して理解することを到達目標とする。

授業内容

第1回　国際ビジネスの紹介
第2回　国際ビジネスの背景にある文化的価値観
第3回　国際ビジネスモデルの概要
第4回　国際ビジネスモデルの経営スキル
第5回　国際ビジネス交渉の概要
第6回　ウインウイン交渉とゼロサム交渉
第7回　交渉力の概要
第8回　国際ビジネス交渉の基本ルール
第9回　国際ビジネス交渉の現場で必要な事項
第10回　国際ビジネス交渉事例（1）
第11回　国際ビジネス交渉事例（2）
第12回　国際ビジネス交渉事例（3）
第13回　国際ビジネス交渉事例（4）
第14回　国際ビジネス交渉事例（5）

授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

配布する文献を読み，準備し，出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について，事前に文献等で調べておくこと。

教科書

教科書は特に定めない。（履修者の知識・能力レベルに適切なものを話し合いにより決めることにより，授業を有意義かつ的確なものとする。）

参考書

参考書は特に定めない。（履修者の知識・能力レベルに適切なものを提示する。）

成績評価の方法

授業への貢献度（授業中の発言や発表・参加態度等）100％

その他

授業内容に興味・関心を持ち，積極的に参加することが望まれる。

科目ナンバー：(CO) CMM551J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス交渉論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		山本　雄一郎

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

国際ビジネス交渉の概要に基づき，国際ビジネスの交渉術の内容および事例により，国際ビジネス交渉の現実と理論の現状を分析し，理論化の可能性につき掘り下げる。

【授業の到達目標】

国際ビジネス交渉において，ハーバード流交渉術の概要・特徴，異文化ビジネス交渉の概要・特徴・課題・問題点，国際ビジネス交渉の事例内容について理解することを到達目標とする。

授業内容

第1回　国際ビジネス交渉の概要
第2回　ハーバード流交渉術概要
第3回　ハーバード流交渉術の特徴
第4回　ハーバード流交渉術の戦略要素
第5回　ハーバード流交渉術の日本人への適用可能性
第6回　異文化ビジネス交渉の概要
第7回　異文化ビジネス交渉の特徴
第8回　異文化ビジネス交渉の課題・問題点
第9回　異文化ビジネス交渉の向上法
第10回　国際ビジネス交渉のケース（1）
第11回　国際ビジネス交渉のケース（2）
第12回　国際ビジネス交渉のケース（3）
第13回　国際ビジネス交渉のケース（4）
第14回　国際ビジネス交渉のケース（5）

授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

配布する文献を読み，準備し，出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について，事前に文献等で調べておくこと。

教科書

教科書は特に定めない。（履修者の知識・能力レベルに適切なものを話し合いにより決めることにより，授業を有意義かつ的確なものとする。）

参考書

参考書は特に定めない。（履修者の知識・能力レベルに適切なものを提示する。）

成績評価の方法

授業への貢献度（授業中の発言や発表・参加態度等）100％

その他

授業内容に興味・関心を持ち，積極的に参加することが望まれる。

科目ナンバー：(CO) CMM551J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	貿易論外国文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文献２
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

グローバリゼーションが進んでいる昨今では，そのメリット，デメリットに関する認識の相違はあるにせよ，その影響の大きさに疑いをいだく者はないだろう。しかしこのように世界経済が激しく変化しているなかで，経済の諸問題を客観的に直視することがますます必要になってくる。

本講義では2019年ノーベル経済学賞を受賞した Abhijit V. Banerjee and Esther Duflo の共著，Good Economics for Hard Times（2019）をカバーする。

春学期では以下の章を取り上げる。

授業内容

第１回　Orientation
第２回　Preface/Chapter 1: MEGA:Make Economics Great Again
第３回　Chapter 2: From the Mouth of the Shark
第４回　Chapter 2: From the Mouth of the Shark
第５回　Chapter 3: The Pains from the Trade
第６回　Chapter 3: The Pains from the Trade
第７回　Chapter 3: The Pains from the Trade
第８回　Chapter 4: Likes Wants and Needs
第９回　Chapter 4: Likes Wants and Needs
第10回　Chapter 4: Likes Wants and Needs
第11回　Chapter 5: The End of Growth?
第12回　Chapter 5: The End of Growth?
第13回　Chapter 5: The End of Growth?
第14回　Chapter 5: The End of Growth?

履修上の注意

自分が発表する範囲意外でも事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

新しい着眼点を次回の授業中で発表できるように予習，復習は不可欠である。

研究につながる独自の特に興味深い点などをピックアップして発表に盛り込む。

教科書

Good Economics for Hard Times, By Abhijit V. Banerjee and Esther Duflo（2019）

参考書

塩澤恵理「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析」頸草書房，2005。その他，随時提案する。

成績評価の方法

積極的な参加態度　50％
発表，ディスカッション　50％を総合的に判定する。

その他

基本的に英語と日本語の両言語を用いる。（日本語は補足として取り入れる）

科目ナンバー：(CO) CMM551J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	貿易論外国文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文献２
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

グローバリゼーションが進んでいる昨今では，そのメリット，デメリットに関する認識の相違はあるにせよ，その影響の大きさに疑いをいだく者はないだろう。しかしこのように世界経済が激しく変化しているなかで，経済の諸問題を客観的に直視することがますます必要になってくる。

本講義では2019年ノーベル経済学賞を受賞した Abhijit V. Banerjee and Esther Duflo の共著，Good Economics for Hard Times（2019）を春学期に続いてカバーする。

秋学期では以下の章を取り上げる。

授業内容

春学期に続いて秋学期では以下の章を取り上げる。

第１回　Orientation
第２回　Chapter 6: In Hot Water
第３回　Chapter 6: In Hot Water
第４回　Chapter 6: In Hot Water
第５回　Chapter 7: Player Piano
第６回　Chapter 7: Player Piano
第７回　Chapter 7: Player Piano
第８回　Chapter 7: Player Piano
第９回　Chapter 8: Legit.gov
第10回　Chapter 9: Cash and Care
第11回　Chapter 9: Cash and Care
第12回　Chapter 9: Cash and Care
第13回　Chapter 9: Cash and Care
第14回　Conclusion: Good and Bad Economics

履修上の注意

自分が発表する範囲意外でも事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

新しい着眼点を次回の授業中で発表できるように予習，復習は不可欠である。

研究につながる独自の特に興味深い点などをピックアップして発表に盛り込む。

教科書

Good Economics for Hard Times By Abhijit V. Banerjee and Esther Duflo（2019）

参考書

塩澤恵理「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析」頸草書房，2005。その他，随時提案する。

成績評価の方法

積極的な参加態度　50％
発表，ディスカッション50％を総合的に判定する。

その他

基本的に英語と日本語の両言語を用いる。（日本語は補足として取り入れる）

科目ナンバー：(CO) ECN521J			
特別外国文献研究		備 考	
科 目 名	フランス語経済文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文献２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　加藤　達彦		

授業の概要・到達目標

フランス語による学術論文の読解能力をつけることを目標とする。

Revue d'Economie Politique 2015年 janvier et fevrier 号に掲載された D. Encaoua Pouvoir de marche, strategie, regulation: Les contributions de Jean Tirole, Prix Nobel d'Economie 2014を読む。2014年にノーベル経済学賞を受賞したフランスの経済学者 J. Tirole の業績に関する論文である。内容はゲーム理論・産業組織論・契約理論など多岐に渡り，その分野の一定の理解を必要とする。講義ではそれについても詳しく解説するつもりである。

授業内容

第１回　Introduction
第２回　Pouvoir de marche et strategies d'entreprises L'heritage en matiere de strategies d'entreprises en oligopole
第３回　〃　Un manuel qui a renouvele le champ desciplinaire
第４回　Engagement strategique et concurrence de court terme Les instruments d'analyse
第５回　〃　Typologie des investissements strategiques et concurrence de court terme
第６回　〃　Applications
第７回　Modeles dynmiques oligopole Quels instruments pour la dynamique industrielle?
第８回　〃　Concurrence dynamique en quantites
第９回　〃　Dissuasion d'entre dans un cadre de concurrence repetee en quantites
第10回　〃　Conurrence dynamique en prix
第11回　〃　Generalisation et applications
第12回　〃
第13回　Critiques et appreciations　Approches de la concurrence oligopolistique en equilibre partiel
第14回　〃　Adequation de theorie des jeux pour analyser la concurrence oligopolistique

履修上の注意

毎回の出席を必須とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

十分な下準備が必要であり必ず予習を行って日本語の訳を前もって考えておくことが必要である。なお仏々辞典の利用を推奨したい。

教科書

上に指定した文献

参考書

成績評価の方法

教材の理解度を毎回の和訳の出来具合から判定し，成績の判断基準とする（100％）

その他

科目ナンバー：(CO) ECN521J			
特別外国文献研究		備 考	
科 目 名	フランス語経済文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文献２
担 当 者	専任教授　博士（商学）　加藤　達彦		

授業の概要・到達目標

フランス語による学術論文の読解能力をつけることを目標とする。

Revue d'Economie Politique 2015年 janvier et fevrier 号に掲載されたD.EncaouaPouvoir de marche, strategie, regulation: Les contributions de Jean Tirole, Prix Nobel d'Economie 2014を読む。2014年にノーベル経済学賞を受賞したフランスの経済学者 J. Tirole の業績に関する論文である。内容はゲーム理論・産業組織論・契約理論など多岐に渡り，その分野の一定の理解を必要とする。講義ではそれについても詳しく解説するつもりである。

授業内容

第１回　Relations verticales
第２回　Impacts sur les politiques de la concurrence Principes generaux
第３回　〃　Forclusion
第４回　R&D, brevets, standards et platform
第５回　Course a l'inovation
第６回　Logiciels libres et licence　Les systemes open source
第７回　〃　Restrictions dans les licences open source
第８回　Marches bi-face
第９回　Pools des brevets et standards technologiques Pools des brevets
第10回　〃　Standards technologiques
第11回　Theorie de la regulation
第12回　Doit-on reguler les activites reseaux? L'exemple des telecommunications
第13回　L'heritage en matiere de theorie de la regulation des monopoles naturels
第14回　Mecanismes de regulation les plus frequents: une typologie

履修上の注意

講義は毎回出席することを必須とする。なお理論の理解に数学的素養が必要な場合があるが，平易に解説する。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講者は必ず事前に準備して，日本語訳を前もって考えてくることが要求される。また仏々辞典の利用を推奨する。

教科書

参考書

成績評価の方法

教材の理解度を毎回の和訳の出来具合から判定し，成績の判断基準とする（100％）

その他